

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第83集

長土呂遺跡群

しも ひじり ばた

下聖端遺跡Ⅳ

長野県佐久市長土呂字下聖端遺跡Ⅳ発掘調査報告書
(奈良～平安初頭集落)

2000.3

佐久市教育委員会
与志本林業株式会社

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第83集

長土呂遺跡群

しも ひじり ばた

下聖端遺跡Ⅳ

長野県佐久市長土呂字下聖端遺跡Ⅳ発掘調査報告書
(奈良～平安初頭集落)

2000.3

佐久市教育委員会
与志本林業株式会社



下聖端遺跡IV近景（東より）



下聖端遺跡IV近景（北より）



下聖端遺跡IV全景（東より）

例 言

1. 本書は、平成11年度の与志本林業株式会社の宅地分譲開発による造成工事に伴う発掘調査の報告書である。
2. 発掘調査は与志本林業株式会社の委託を受け、佐久市教育委員会文化財課が担当した。
3. 本遺跡は平成11年3月に、佐久市埋蔵文化財課によって試掘調査され、佐久市埋蔵文化財調査報告書第82集『市内遺跡発掘調査報告書1998』に試掘調査の結果が掲載されている。
4. 本書で掲載した地図は建設省国土地理院発行の地形図（1:25,000）、佐久市発行の基本図（1:2,500）を使用した。
5. 本書の編集・執筆は森泉が担当した。
6. 本遺跡の遺物は佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

凡 例

1. 遺構の略号は次の通りである。
H－竪穴住居址、D－土坑、P－単独ピット、M－溝
2. 挿図中の遺構の縮尺は原則として1/80である。異なる場合は掲載図に明記してある。
3. 挿図中の遺物の縮尺は1/4である。異なる場合は図中に明記してある。
4. 挿図中におけるスクリーン・トーンは以下のことを示す。

遺構

地山断面		焼 土		粘 土	
柱 痕		堀 方			

遺物

須恵器断面		黒色処理		礫	
-------	---	------	---	---	--

目 次

巻頭図版

例 言

凡 例

本文目次

第I章 発掘調査の概要	1
第1節 調査の概要	1
第2節 調査組織	2
第3節 調査日誌	2
第4節 検出遺構・遺物の概要	3
第II章 遺跡の立地と環境	4
第III章 基本層序	5
第IV章 遺構と遺物	6
第1節 竪穴住居址	7
第2節 掘立柱建物址	29
第3節 単独ピット	38
第4節 土坑	38
第5節 溝	38
第V章 総 括	40
引用参考文献	
写真図版	

挿図目次

第1図 下聖端遺跡IV位置図	1	第16図 H4号住居址	22
第2図 下聖端遺跡IV発掘区設定図	3	第17図 H5号住居址	24
第3図 周辺遺跡分布図	4	第18図 H5号住居址	25
第4図 基本層序模式図	5	第19図 H6号住居址	27
第5図 下聖端遺跡IV遺構全測図	6	第20図 H7号住居址	28
第6図 H1号住居址	7	第21図 F1・F2・F3号掘立柱建物址	30
第7図 H1号住居址	8	第22図 F4・F5・F6号掘立柱建物址	31
第8図 H1号住居址	9	第23図 F7・F8・F9号掘立柱建物址	33
第9図 H1号住居址	10	第24図 F10・11号掘立柱建物址	34
第10図 H2号住居址	13	第25図 F12・F13・F14号掘立柱建物址	35
第11図 H2号住居址	14	第26図 F15・F16号掘立柱建物址	36
第12図 H2号住居址	15	第27図 F17・F18・F19号掘立柱建物址	37
第13図 H3号住居址	17	第28図 単独ピット・D1・D2・M1溝	38
第14図 H3号住居址	19	第29図 表採・グリット・検出面出土遺物・支脚	39
第15図 H4号住居址	21	第30図 下聖端遺跡IVの周辺遺構分布図	41

第1章 発掘調査の概要

第1節 調査の概要

遺跡名 長土呂遺跡群下聖端（しもひじりばた）遺跡Ⅳ（略号 NKSⅣ）

所在地 佐久市大字長土呂字下聖端179-1・7

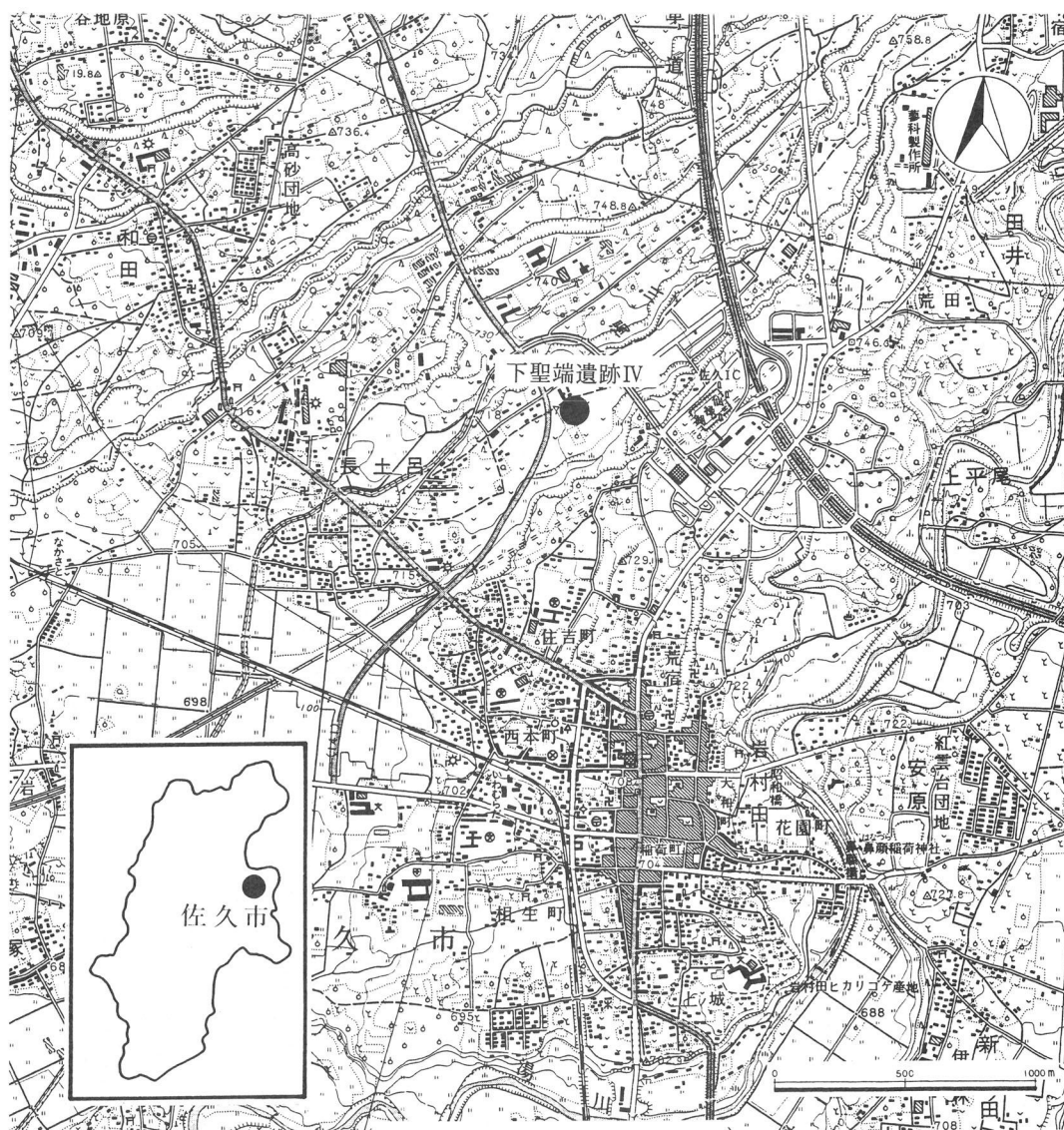
調査委託者 与志本林業株式会社

開発事業 宅地分譲開発による造成工事

調査期間 1999年4月5日～5月14日

整理期間 1999年5月15日～2000年3月31日

調査面積 2,846㎡



第1図 下聖端遺跡Ⅳ位置図（1:25,000）

2. 調査組織

調査受託者教育長	依田 英夫			
教育次長	小林 宏造			
文化財課長	草間 芳行			
文化財係長	荻原 一馬			
文化財係	林 幸彦	須藤 隆司	小林 真寿	羽毛田卓也
	富沢 一明	上原 学	山本 秀典	出澤 力
調査主任	佐々木宗昭	森泉かよ子		
調査副主任	堺 益子			
調査員	小山 功	木下とよ子	小林百合子	桜井 牧子
	中島 良三	中島フクジ	中条 悦子	花里四之助
	花里美佐子	林 美智子	細谷 秀子	水間 正義
	柳澤千賀子	山浦 豊子		
	遠藤しずか	小田川 栄	橋詰けさよ	樋田 咲枝
	佐久本真樹子	田中ひさ子	森角 雅子	柳沢 孝子
調査担当	森泉かよ子			

3. 調査日誌

1999.4.5

重機による表土剥ぎ。

現場に入る前の機材準備。

4.6 機材搬入。

4.7 遺構検出作業・M1の掘り下げ。

M1調査終了し、排土置き場がないため記録後埋める。

4.8 検出作業。H4住から掘り始める。

黒色土中に構築された遺構であるため、プランがつかみにくかった。

4.9 H4住完掘。H1・2・3住居址開始。

4.20 F1掘立完掘。

4.21 H1住完掘。

4.22 F4～F6掘立完掘。順次掘立柱建物址を掘り下げる。

4.26 F7～F9掘立完掘。

4.28 H5住完掘。H1住の複雑な堀方やっと終了。

5.10 F15まで掘立柱建物址調査終了。

5.11 H6・7住完掘。



5.12 H6住の堀方、F17・F18・F19掘立を完掘し遺構の掘り下げ作業を終了。

遺構全体を撮影するため清掃開始。

5.13 機材撤収。

5.14 ラジコンヘリによる空中撮影を行う。

5.14・15 重機による埋め戻し。



4. 検出遺構遺物の概要

遺構

竪穴住居址 7棟（奈良～平安時代）

掘立柱建物址 19棟（奈良～平安時代）

土坑 2基

単独ピット 85個

溝址 1本

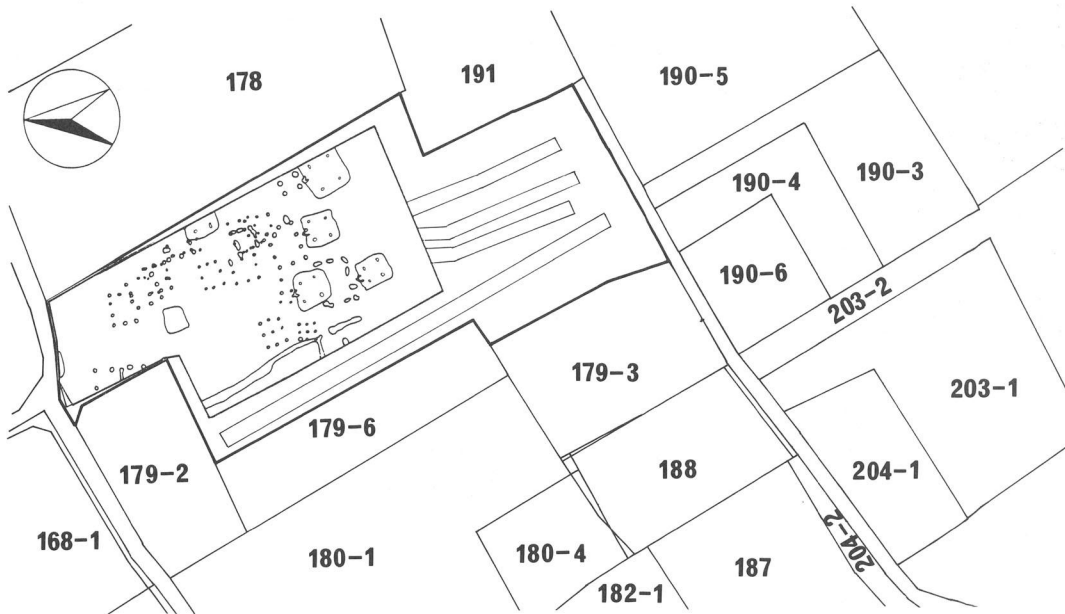
遺物

土師器・須恵器・スリ石・砥石・凹石

石搗鉢・刀子・鉄鎌・金環

特徴

奈良～平安時代の集落であり、竪穴住居址は8C前半と8C後半また9C初頭と3時期の様相が窺える。



第2図 下聖端遺跡IV遺構配置図（1：1,000）

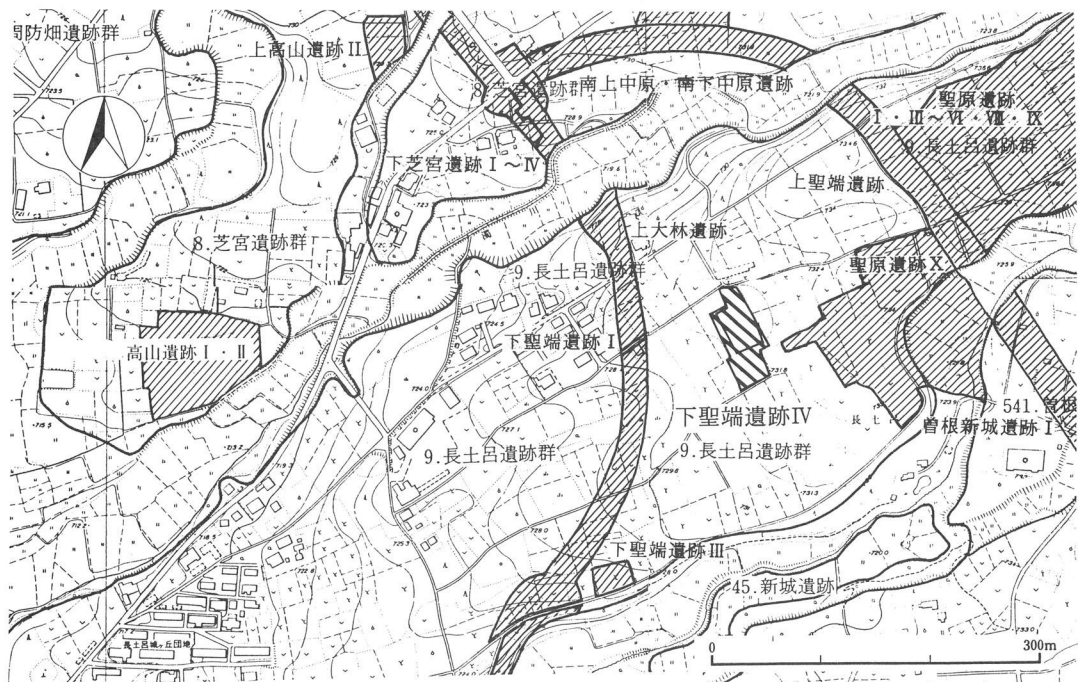
第II章 遺跡の立地と環境

下聖原遺跡は佐久市の北部、浅間山南麓の末端部に位置する。この地域は、火山山麓特有な田切り地形が発達した地域であり、これらの田切りは、御代田町方面から南西方向に放射状に伸びている。本遺跡群と北の芝宮遺跡群の間にある濁りの田切りの谷幅は約100m、小諸市境の大田切りは谷幅150mを越し、谷底には水田が拓かれている。

下聖端遺跡付近は浅間火山灰がもたらした浅間第一軽石流が厚く堆積しており、水の浸食に極めて弱く、小さな川でも浸食され田切り地形を形成しやすい。佐久市の北側の遺跡群はこの田切りに挟まれた台地に展開している。北から近津遺跡群、周防畑遺跡群、本遺跡のある長土呂遺跡群、枇杷坂遺跡群、岩村田遺跡群がある。

本遺跡は長土呂遺跡群の中程、標高730.5m内外を測る。この地域は上信越自動車道、流通業務団地造成事業・区画整理事業、新幹線などの開発事業に伴い、大規模な発掘調査がなされている。

8. 芝宮遺跡群では昭和54・55・57年度に芝宮遺跡第1から3次の発掘調査が行われるが土坑と溝のみで集落の存在が確認されていない。昭和64年度からは古墳から平安の集落が確認され、141号線関係、仙緑湖線、曾根線、平成5・7年に平安時代の集落の上高山遺跡の調査等がなされている。南の本遺跡のある9. 長土呂遺跡群では、佐久流通業務団地造成に伴い、聖原Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ～Ⅵ・Ⅷ・Ⅸの発掘調査が平成元年～7年度に実施されている。西に隣接して、平成7年に店舗開発された聖原Ⅹと併せて竪穴住居址975棟、掘立柱建物址858棟等が発掘調査された。古墳から平安時代の集落が台地上に広がっていたことが確認されている。本遺跡はこの聖原集落の西に隣接し、西側に続く集落であろう。遺跡の南西にあたる国道141号線の下聖端Ⅰ・Ⅱでは(昭和64・平成元年)古墳時代集落、南の標高の低い地点からは弥生時代後期、古墳中期から後期、平安時代の集落がみられる。本遺跡は遺跡名は下聖端であるが集落の単位としては聖原集落の西に位置する。



第3図 下聖端遺跡IV周辺遺跡分布図(1:6,000)

第三章 基本層序

下聖端遺跡IV地区は田切りに北と南を挟まれた台地上にあり、台地上でも北側は浅い谷が入り込み、本遺跡は南に高く北に低くなっている。遺構の検出土層は北に向かって順次異なる。南側の遺構確認面は第VI層の浅間第1軽石流、北に行くに従い、第V層の黒色土層、IV層のシルト質土層、第III層の砂礫層と変化して行く。遺構の構築土層は、H1～3・5・6号住居址は第VI層のローム層までいたっている。H4・7号住居址は第V層黒色土中まで、掘り込んでいる。

第I層 耕作土

第II層 黒褐色土層 (10YR 2/2)

～5mm 大小石多く含む。

第III層 黒褐色土層 (10YR 2/3)

5mm 大小石、5～10cm 大石を多く含む砂礫層。

第IV層 褐色土層 (10YR 4/4)

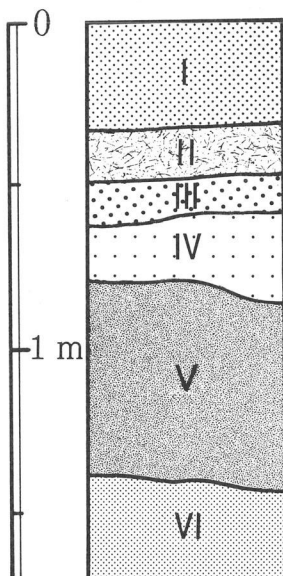
シルト質土層。

第V層 黒色土層 (10YR 1.7/1)

まれに5mm 大パミス含む。

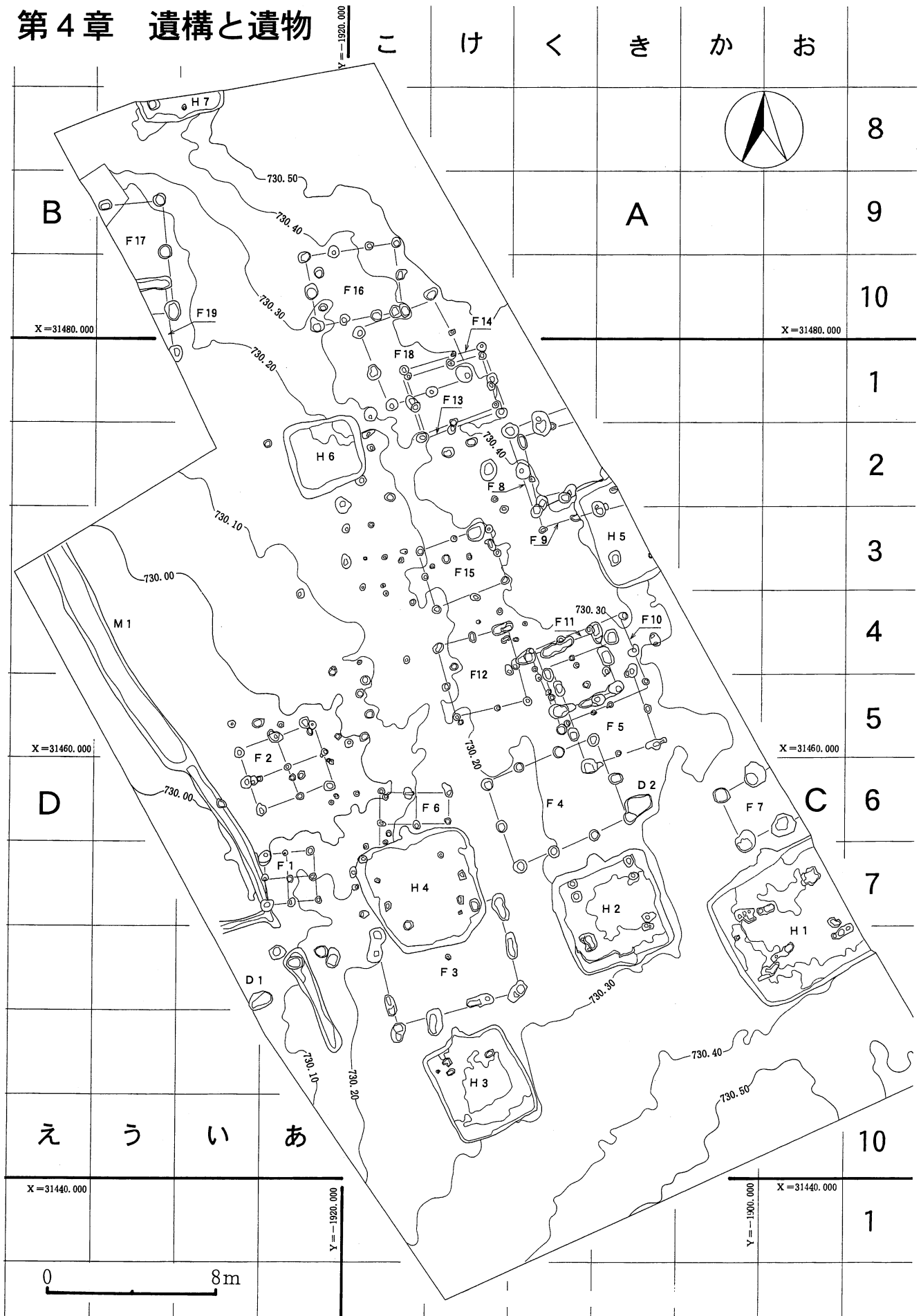
第VI層 黄褐色土 (10YR 5/8)

浅間第1軽石流。



第4図 基本層序模式図

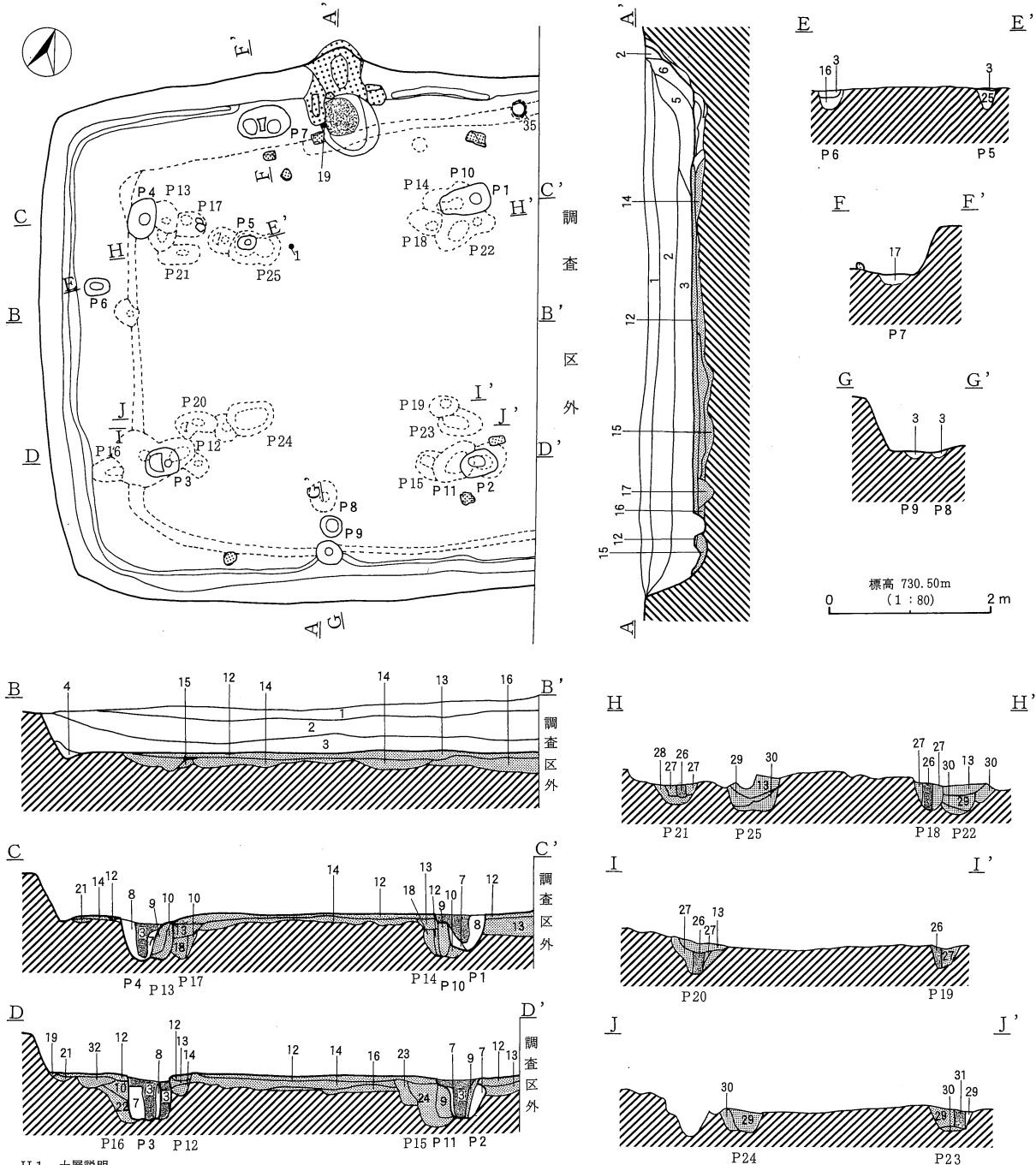
第4章 遺構と遺物



第5図 下聖端遺跡IV全測図(1:250)

第1節 竪穴住居址

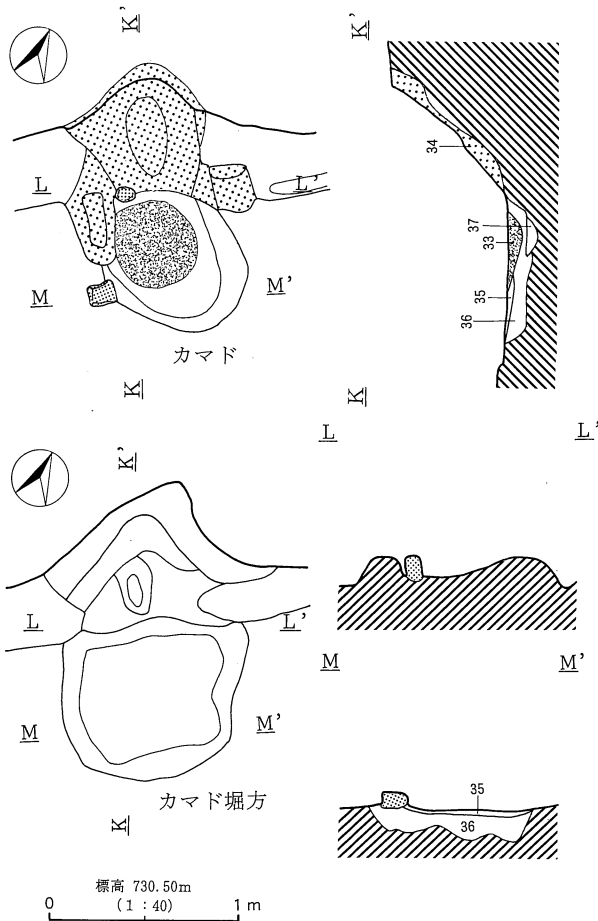
1) H1号住居址



H1 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 1mm大のパミス、ローム粒子をわずかに含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 5mm大のパミス、焼土、炭化物粒子を含む。
3. 黒褐色土層 (10YR2/2) パミス、ローム粒子を含む。粘性強。
4. 黒色土層 (10YR2/1) (壁崩壊層)
5. 黒褐色土層 (10YR2/3) 10YR3/1 粘土ブロック他を多く含む。(カマド崩壊層)
6. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) 粘土層。(カマド崩壊層)
7. 褐色土層 (10YR4/4) ロームブロックを多く含む。(ピット堀方埋土)
8. 暗褐色土層 (10YR3/3) ロームブロック・ローム粒子を多く含む。(ピット堀方埋土)
9. 暗褐色土層 (10YR3/3) 細かいロームブロックを多く含む。(旧ピット柱痕)
10. 褐色土層 (10YR4/6) ローム主体。(旧ピット堀方埋土)
11. 暗褐色土層 (10YR3/3) ロームブロック細粒を多く含む。(旧ピット堀方埋土)
12. 黒褐色土層 (10YR2/3) 粘土ブロックを多く混在。よく締まる。(貼り床)
13. 黒褐色土層 (10YR2/3) 粘土ブロックを多量に含む。
14. 黒褐色土層 (10YR2/2) 粘土ブロックを少し含む。
15. 黒褐色土層 (10YR2/2) 粘土ブロック 5cm大を含む。
16. 明褐色土層 (7.5YR5/6) ローム主体。
17. 黒褐色土層 (10YR3/2) 粘土・細かいロームブロックを多く含む。(P 8)
18. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒子を含む。(旧ピット柱痕)
19. 黒褐色土層 (10YR3/2) ローム粒子を含む。(周溝)
20. 褐色土層 (10YR4/4) ローム主体。(周溝貼り床)
21. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒子、パミスを含む。(周溝堀方埋土)
22. にぶい黄褐色土層 (10YR6/4) ロームに黒色土を含む。(p 16)
23. 黒褐色土層 (10YR2/2) 粘土ブロックを含む。(p 14)
24. 暗褐色土層 (10YR3/4) ロームを多量に含む。(p 11)
25. 黒褐色土層 (10YR2/3) ロームブロックを含む。(p 5)
26. 暗褐色土層 (10YR3/4) ローム粒子を多量に含む。(p 18~20 柱痕)
27. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム粒子が柱痕より更に多い。
28. 黄褐色土層 (10YR5/6) ローム主体。(p 18~20 埋土)
29. にぶい黄褐色土層 (10YR6/3) 白色粘土ブロック、ロームブロック
混在土に黒褐色土を含む。
30. にぶい黄褐色土層 (10YR5/4) ローム主体層。(p 22~25)
31. 黒褐色土層 (10YR2/2) 粘土ブロックを含む。(p 23 柱痕)
32. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム粒子を含む。
33. 赤褐色土層 (5YR4/8) 焼土層。(カマド)
34. オリーブ黒褐色土層 (7.5Y3/2) 粘土層。
35. 黒褐色土層 (7.5YR3/2) 貼り床状。
36. 暗褐色土層 (7.5YR3/3) ロームブロック、黒色土ブロック、
粘土ブロック細粒を含む。
37. 黄褐色土層 (10YR5/8) ローム主体。

第6図 H1号住居址

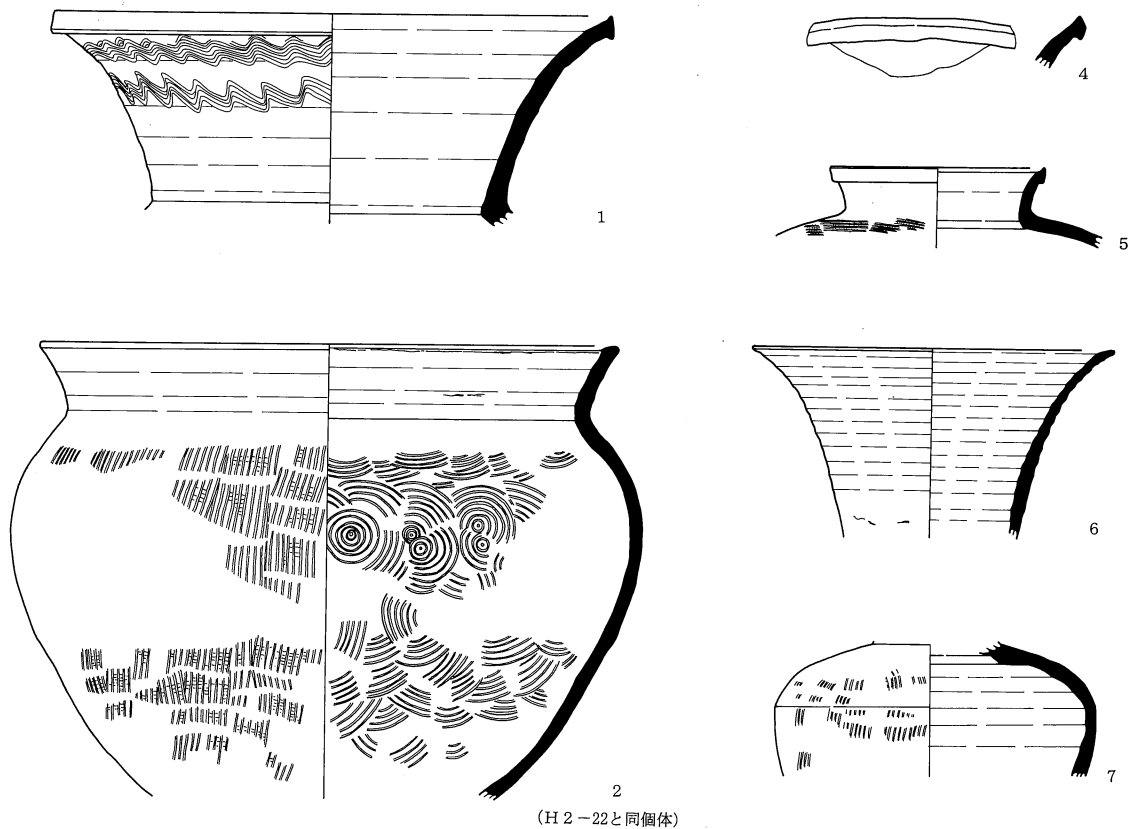


調査区南東のCお7グリットにある。

東側は、わずかに調査区域外である。検出面は全体層序第V層の黒色土層である。大きさは南北590cm、東西残長580cmを測る。大規模で、やや東西に長い方形である。

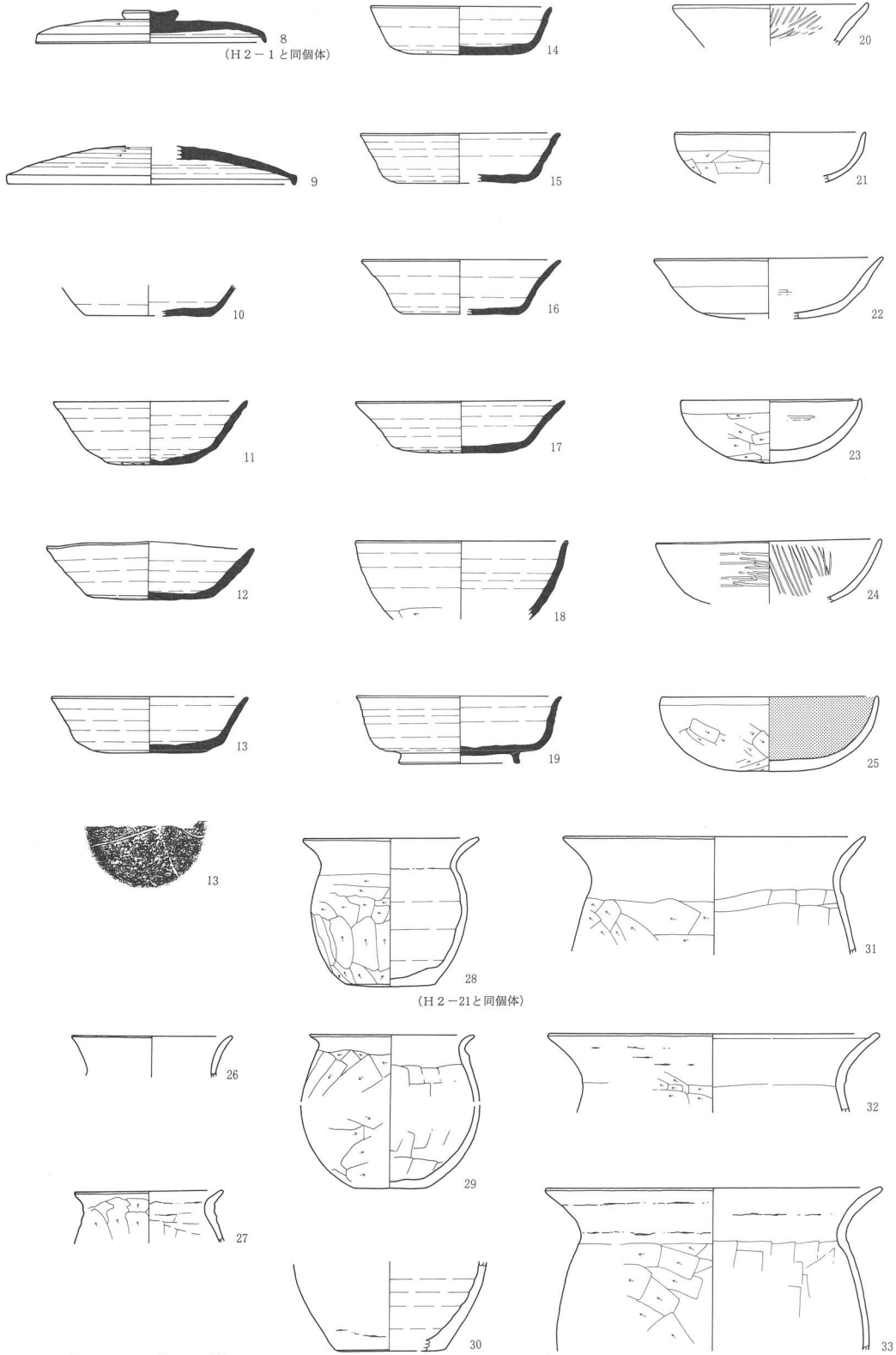
主軸方位は30°西に傾く。カマドは北壁中央にあり、天井部が崩壊し、東西両側の袖がわずかに残っていた。カマドの煙道底面は粘土を含む土で貼ってあった。壁下には周溝が巡り、床は粘土を含む貼り床で締まっていた。

主柱穴は4本であるが旧ピットが多くあり、最終住居とほぼ同位置にあるP11~13、その内側にあるP14~17がある。また堀方で、80cmほど内側に小型の内周する住居址プランがあった。その住居址に伴うP18~21、それに切られるP22~25のピットが検出された。H1住で4回の建て替えが行われていたことが確認された。

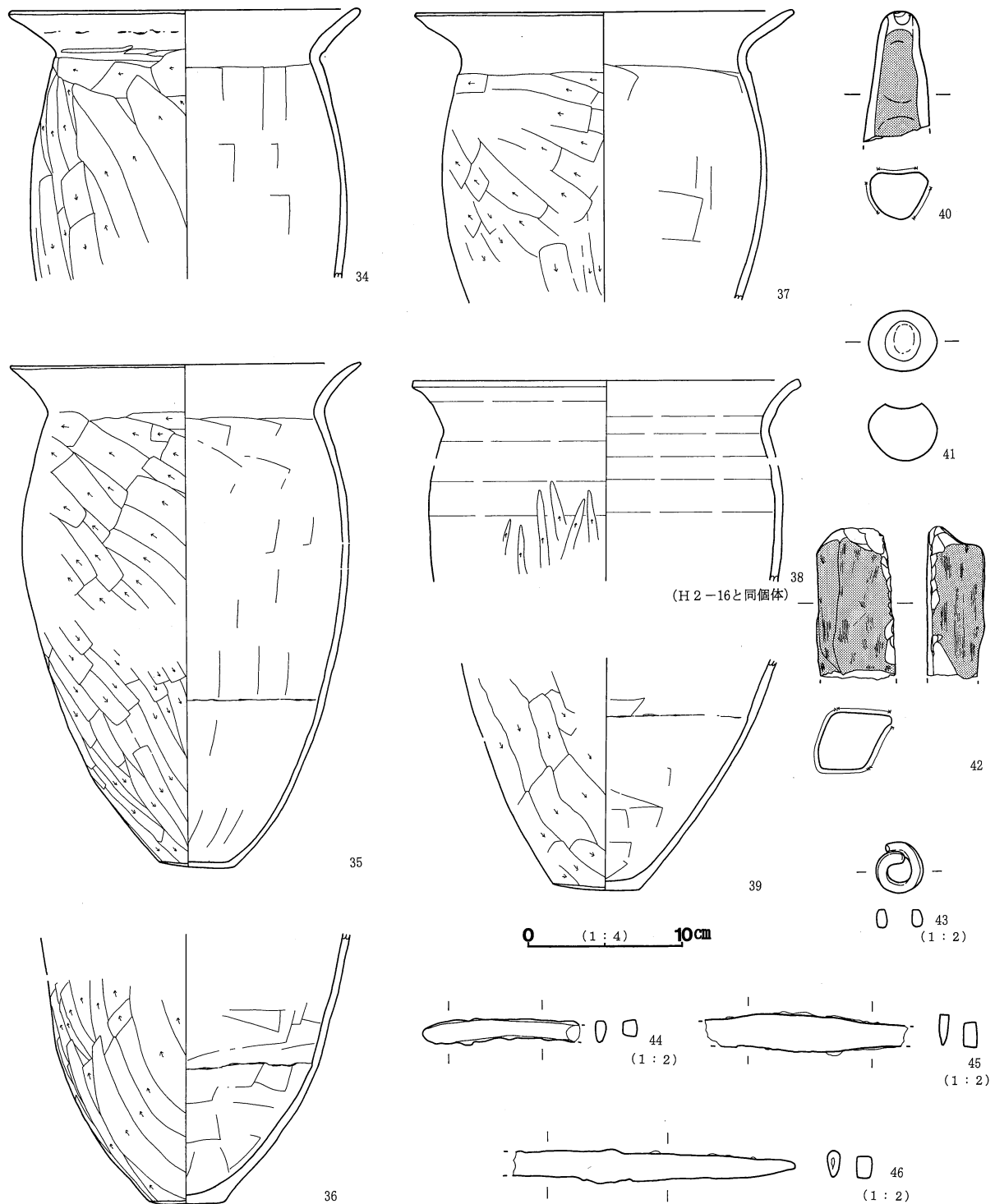


第7図 H1号住居址

0 (1:4) 10cm



第8図 H 1号住居址



第9図 H1号住居址

本住居址からは須恵器甕・瓶・蓋・杯・高台付杯、土師器杯・小型甕・甕、スリ石、砥石、青銅製金環、鉄製鏃?・刀子が出土する。須恵器甕は1の大きく長い口縁のものと2の広口の甕がある。3は短頸壺、5は横瓶、6・7は長頸壺である。須恵器蓋のかえりは端が折れるタイプ。須恵器杯は底部がヘラケズリされるものである。19の高台付杯は、底が平らで、口縁端部が外反する浅いタイプである。土師器杯はいずれも底部が手持ちのヘラケズリにより丸底気味である。甕は武蔵甕で口縁部形態が「く」の字であり、口縁部横ナデの後に胴部のヘラケズリが施される。38はロクロ甕でロクロ調整された後で胴中位からヘラケズリがなされる。

これらの土器群は8C前半が該期であろうか。

第1表 H1号住居址出土遺物一覧表(1)

挿図番号	器種	法量	成形・調整	残存量・実測種類・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 甕	(29.4) 10.6 —	ロクロ成形。口縁端部帯状に成形。 細い紐状突帯・沈線→櫛描波状文 (4本)を横に巡らす。	口縁部のみ2/3残存 回転実測 灰白(N7/0)	1~2mm黒色粒子 ~1mm石英粒子	Ⅳ区
2	須恵器 甕	(30.7) 23.7 —	ロクロ成形→胴部タタキ H2-22と接合	口~胴部1/3残存 回転実測 浅黄・灰白(5Y 7/3・7/2)	1mm大黒色粒子 ~0.5mm長石粒 肩の張った広口の甕	I~Ⅲ区 H2I区堀方
3	須恵器 短頸壺	(15.5) 2.3 —	ロクロ成形 口縁端部折り返しの口縁帯	口縁のみ1/8残存 回転実測 灰白(2.5Y7/1)	~0.5mmの黒色・長石・石 英粒子	Ⅲ区
4	須恵器 甕	— 2.6 —	ロクロ成形 口縁端部折り返しの口縁帯	口縁のみ 部分実測 灰(N5/0)	緻密	I区
5	須恵器 横瓶	(11.4) 4.3 —	ロクロ成形 口縁部折り返しの口縁帯 胴部外面タタキ 内面ナデ	口縁部1/4残存 回転実測 灰(N4/0)	~0.5mmの長石・石英粒子	Ⅱ区
6	須恵器 長頸壺	(19.1) 10.0 —	ロクロ成形 ロクロ痕顕著	口縁部1/8残存 回転実測 灰白(N7/0)	~0.5mmの黒色・長石・石 英粒子	Ⅱ区
7	須恵器 長頸壺	— 7.0 —	ロクロ成形→タタキ→横ナデ	肩部のみ3/4残存 回転実測 灰白(N4/0)	~0.5mm石英・長石粒子 肩部自然釉付着。	Ⅲ区
8	須恵器 蓋	16.4 2.3	ロクロ成形→天井部回転ヘラケズリ H2-1と接合	3/4残存 完全実測 にぶ い赤褐・灰赤(7.5R5/3・ 5/2)	~0.5mm石英・長石粒子 外面自然釉付着。鈹物融解 し発泡。扁平つまみ付	Ⅲ・Ⅳ区 H2P10
9	須恵器 蓋	(20.4) 2.7	ロクロ成形→天井部回転ヘラケズリ	1/2残存 回転実測 オリーブ灰(2.5GY6/1)	~0.5mm石英・長石粒子ま れに1mm黒色粒子 端部短く折り返す。	I区堀方
10	須恵器 杯	— 2.3 (8.8)	ロクロ成形 底部 回転ヘラケズリ	1/3残存 回転実測 灰(10Y6/1)	~0.5mm石英・長石粒子 鈹物融解し発泡。	検出
11	須恵器 杯	(13.8) 4.5 (6.5)	ロクロ成形 底部 手持ちヘケズリ	1/4残存 回転実測 灰(N6/0)	~0.5mm石英・長石粒子多 い。まれに1mm黒色粒子含 む	Ⅳ区
12	須恵器 杯	(14.6) 4.1 9.1	ロクロ成形 底部 回転ヘラ切り離し	2/3残存 完全実測 灰(N4/0)	~0.5mm石英・長石粒子多 い。まれに1mm黒色粒子含 む。内外面自然釉付着ゆが み著しい	Ⅲ区
13	須恵器 杯	(14.0) 4.0 8.4	ロクロ成形 底部 ナデ ヘラ記号あり	1/2残存 回転実測 灰白・にぶい橙(5Y7/ 1・7.5YR7/3)	~0.5mm石英・長石粒子多 い。まれに1mm黒色粒子含 む	I・Ⅳ区
14	須恵器 杯	(12.9) 3.4 9.4	ロクロ成形 底部 回転ヘラケズリ	3/4残存 完全実測 灰(N6/0)	~0.5mm黒色・石英・長石 粒子 平底	Ⅲ区
15	須恵器 杯	(14.3) 3.5 (8.5)	ロクロ成形 底部 回転ヘラケズリ→ナデ	3/4残存 回転実測 褐灰(10YR5/1)	~0.5mm石英・長石粒子 まれに1mm黒色粒子 平底	I・Ⅱ区
16	須恵器 杯	(14.3) 3.5 (8.5)	ロクロ成形 底部 回転ヘラケズリ	1/3残存 回転実測 灰(5Y6/1)	~0.5mm石英・長石粒子 まれに1mm黒色粒子 平底	Ⅲ区
17	須恵器 杯	(15.0) 3.7 8.0	ロクロ成形 底部 手持ちヘケズリ	1/3残存 回転実測 灰白・にぶい橙(N7/0・ 2.5YR6/3)	~0.5mm石英・長石粒子多 い。1mm黒色粒子	Ⅲ区
18	須恵器 杯	(15.2) 5.6 —	ロクロ成形 杯下部 手持ちヘケズリ	1/6残存 回転実測 灰(N5/0)	~0.5mm石英・長石粒子多 い。まれに1mm黒色粒子	Ⅲ区
19	須恵器 高台付 杯	14.8 4.9 (8.6)	ロクロ成形 底部 回転ヘラケズリ 高台付く	4/5残存 完全実測 灰白(N8/0)	~0.5mm石英・長石粒子 まれに1mm黒色粒子	カマド
20	土師器 杯	14.0 3.0 —	外面 口縁部横ナデ 内面 暗文様ヘラミガキ	口縁部1/8残存 回転実測 浅黄橙(7.5YR8/3)	~0.5mm赤色・石英・長石 粒子	Ⅳ区1層
21	土師器 杯	13.6 3.6 —	外面 底部手持ちヘラケズリ→口縁 部横ナデ 内面 横ナデ	1/3残存 回転実測 浅黄橙(7.5YR8/4)	~0.5mm石英・長石粒子 丸底	Ⅱ区堀方

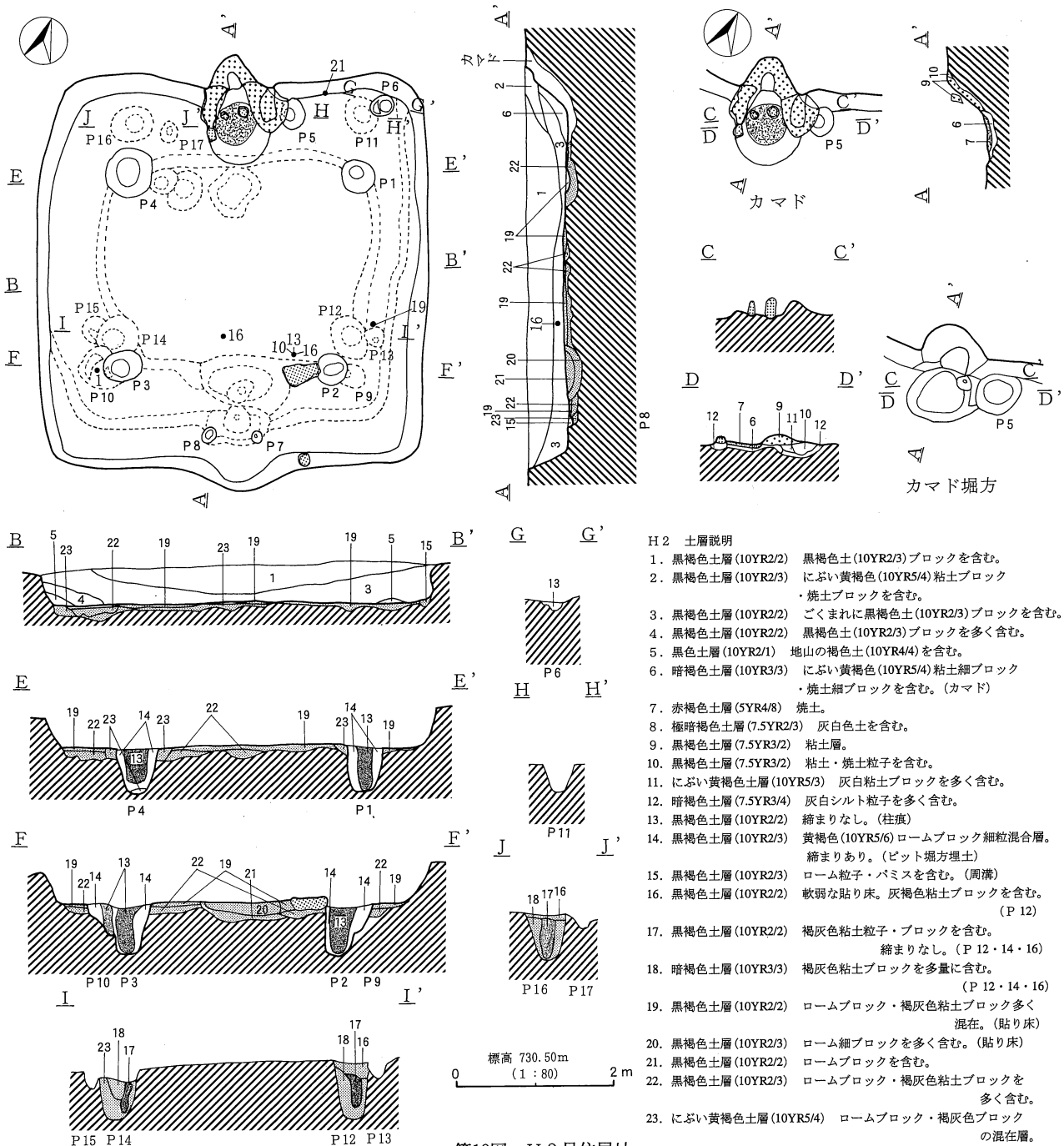
第2表 H1号住居址出土遺物一覧表(2)

挿図番号	器種	法量	成形・調整			残存量・実測種類・色調	胎土・特徴	出土位置
22	土師器 杯	(16.3) 4.3	外面 底部手持ちヘラケズリ→口縁 部横ナデ 内面 ナデ→ミガキ?			1/2 残存 回転実測 浅黄橙(7.5YR 8/4)	~0.5mm石英・長石粒子 まれに1~2mm赤色粒子 丸底	I区
23	土師器 杯	(12.8) 4.5	外面 手持ちヘラケズリ→口縁部横 ナデ 内面 ナデ→ミガキ?			ほぼ完形 完全実測 淡橙(5YR 8/4)	~0.5mm石英・長石粒子 まれに1~2mm赤色粒子 丸底	IV区3層
24	土師器 杯	(16.1) 4.5	外面 横ナデ→ミガキ 内面 ナデ→放射状暗文			1/8 残存 回転実測 橙(2.5YR 6/6)	~0.5mm石英・長石粒子 丸底	II区2層 III区
25	土師器 杯	(15.2) 5.3	外面 手持ちヘラケズリ→横ナデ 内面 ミガキ・黒色処理			1/2 残存 回転実測 淡橙(5YR 8/4)	~0.5mm石英・長石粒子 丸底	III区
26	土師器 小甕	(11.4) 2.9	外面 横ナデ 内面 横ナデ			口縁部1/4 残存 回転実測 にぶい橙(7.5YR 7/4)	~0.5mm石英・長石粒子	I区
27	土師器 小甕	(10.5) 3.5	外面 口縁部横ナデ→胴部ヘラケズ リ 内面 口縁部横ナデ胴部ナデ			口縁部1/6 残存 回転実測 にぶい橙(7.5YR 7/4)	~0.5mm石英・長石粒子ま れに1mm赤色粒子	III区
28	土師器 小甕	(12.5) 10.5 6.3	外面 口縁部横ナデ→胴部・底部ヘ ラケズリ 内面 ロクロ成形→口縁部横ナデ			ほぼ残存 完全実測 にぶい橙(7.5YR 7/4)	~0.5mm石英・長石粒子 H2-21と接合	H1 III区 H2 I区
29	土師器 小甕	(11.7) 10.9 5.0	外面 口縁部横ナデ→胴部・底部ヘ ラケズリ 内面 口縁部横ナデ→ヘ ラナデ→ナデ			1/2 残存 完全実測 にぶい橙(5YR 6/3)	~0.5mm石英・長石粒子ま れに1mm粒子	IV区2層
30	土師器 小甕	- 6.4 (6.4)	外面 胴部・底部ヘラケズリ→ナ デ? 内面 ロクロ成形			胴下部から底部1/4 残存 回転実測 褐灰(10YR 4/1)	~0.5mm石英・長石粒子	III区
31	土師器 甕	(21.6) 8.5 -	外面 口縁部横ナデ→胴部ヘラケズ リ 内面 口縁部横ナデ→胴部ナデ			口縁部ほぼ残存 完全実測 橙(5YR 7/4)	~0.5mm石英・長石粒子 「く」の字形態口縁武蔵甕	I・IV区 カマド
32	土師器 甕	(23.6) 5.6 -	外面 口縁部横ナデ→胴部ヘラケズ リ 内面 口縁部横ナデ→胴部ナデ			口縁部1/2 残存 回転実測 にぶい橙(5YR 6/4)	~0.5mm石英・長石粒子 「く」の字形態口縁武蔵甕	IV区3層 カマド
33	土師器 甕	(24.0) 11.6 -	外面 口縁部横ナデ→胴部ヘラケズ リ 内面 口縁部横ナデ→胴部ヘラ ナデ→ナデ			口縁部1/4 残存 回転実測 にぶい橙(5YR 6/4)	~0.5mm石英・長石粒子 「く」の字形態口縁武蔵甕	カマド
34	土師器 甕	(22.7) 17.4 -	外面 口縁部横ナデ→胴部ヘラケズ リ 内面 口縁部横ナデ→胴部ヘラ ナデ→ナデ			口縁部ほぼ残存 完全実測 橙(2.5YR 7/6)	~0.5mm石英・長石粒子 「く」の字形態口縁武蔵甕	I・IV区3層 カマド
35	土師器 甕	(22.5) 32.6 4.9	外面 口縁部横ナデ→底部・胴部ヘ ラケズリ 内面 口縁部横ナデ→胴部ナデ			ほぼ残存 完全実測 にぶい橙(5YR 7/3)	~0.5mm石英・長石粒子 「く」の字形態口縁武蔵甕	I区床
36	土師器 甕	- 17.3 4.9	外面 底部・胴部ヘラケズリ 内面 胴部ヘラナデ→ナデ			胴~底部残存 完全実測 にぶい赤褐(2.5 YR 5/3)	~0.5mm石英・長石粒子 武蔵甕	堀方
37	土師器 甕	(24.5) 18.7 -	外面 口縁部横ナデ→胴部ヘラケズ リ 内面 口縁部横ナデ→胴部ナデ			1/2 残存 回転実測 にぶい橙(5YR 7/3)	~0.5mm石英・長石粒子 「く」の字形態口縁武蔵甕	I・IV区2層 カマド
38	土師器 甕	(25.0) 13.0 -	外面 ロクロ成形→胴中位からヘラ ケズリ 内面 ロクロ成形 H2-16と接合			1/5 残存 回転実測 にぶい橙(5YR 7/3)	~0.5mm石英・長石粒子 「く」の字形態口縁武蔵甕	IV区1層 H2 III区
39	土師器 甕	- 32.6 4.9	外面 底部・胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ			ほぼ残存 完全実測 にぶい橙(7.5YR 6/4)	~0.5mm石英・長石粒子 武蔵甕	I区床
40	スリ石 安山岩	8.5 4.2 3.0				片方割れる	スリ面3 端部は敲痕?	2層
41	凹石 軽石	4.4 3.9 3.7	一面がカットしてある。					2層
42	砥石	(8.5) 4.2 3.0				片方割れる	使用面2 砥石?	検出面
43	耳環	1.6 0.45 0.3	青銅製					IV区
44	鉄鏃?	2.5	0.8	0.4	片方欠損			IV区1層
45	刀子	6.6	1.2	0.3	両端欠損			
46	刀子	9.2	1.0	0.6	先端欠損			I区

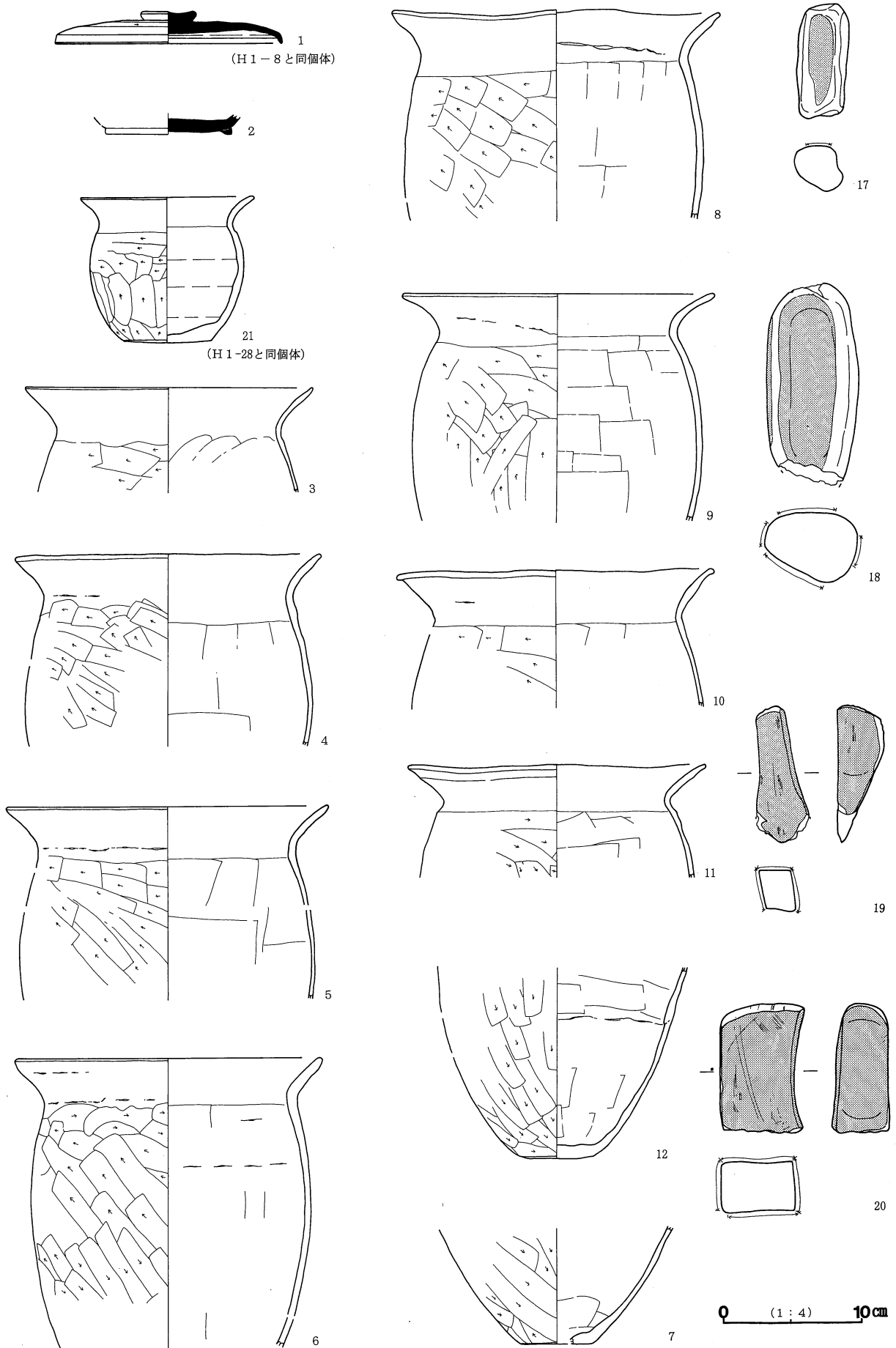
2) H2号住居址

遺構

本址はH1住から2mほど離れた北東にある。Cき7グリットにあり、全体層序V層の黒色土層で検出され、構築されている。住居址の大きさは南北444cm 東西464cm を測り、東西に少し長い方形を呈している。南壁中央が少し張り出し、壁下に小柱穴がある。住居址の主軸は23° 西に傾く。カマドはつぶれてはいるが煙道部が残り、両袖と軽石製支脚石がそのまま残っていた。カマドは粘土で構築している。カマドは北壁中央にあり、右袖下には径32cm 深さ16cm の浅い穴が付属する。床は粘土ブロックを含みよく締まっていた。支柱穴は4本柱でP2の内側には扁平な石が据え置かれていた。床下からは現状の住居址ピットより外側にP9・P10のピットがある。さらに堀方では南側が80cm 内側に旧住居址プランをもち、これに伴う柱穴がP11~17であり、重複している。



- #### H2 土層説明
1. 黒褐色土層(10YR2/2) 黒褐色土(10YR2/3)ブロックを含む。
 2. 黒褐色土層(10YR2/3) にぶい黄褐色(10YR5/4)粘土ブロック・焼土ブロックを含む。
 3. 黒褐色土層(10YR2/2) ごくまれに黒褐色土(10YR2/3)ブロックを含む。
 4. 黒褐色土層(10YR2/2) 黒褐色土(10YR2/3)ブロックを多く含む。
 5. 黒色土層(10YR2/1) 地山の褐色土(10YR4/4)を含む。
 6. 暗褐色土層(10YR3/3) にぶい黄褐色(10YR5/4)粘土細ブロック・焼土細ブロックを含む。(カマド)
 7. 赤褐色土層(5YR4/8) 焼土。
 8. 極暗褐色土層(7.5YR2/3) 灰白色土を含む。
 9. 黒褐色土層(7.5YR3/2) 粘土層。
 10. 黒褐色土層(7.5YR3/2) 粘土・焼土粒子を含む。
 11. にぶい黄褐色土層(10YR5/3) 灰白粘土ブロックを多く含む。
 12. 暗褐色土層(7.5YR3/4) 灰白シルト粒子を多く含む。
 13. 黒褐色土層(10YR2/2) 締まりなし。(柱痕)
 14. 黒褐色土層(10YR2/3) 黄褐色(10YR5/6)ロームブロック細粒混合層。締まりあり。(ピット堀方埋土)
 15. 黒褐色土層(10YR2/3) ローム粒子・バミスを含む。(周溝)
 16. 黒褐色土層(10YR2/2) 軟弱な貼り床。灰褐色粘土ブロックを含む。(P12)
 17. 黒褐色土層(10YR2/2) 褐灰色粘土粒子・ブロックを含む。締まりなし。(P12・14・16)
 18. 暗褐色土層(10YR3/3) 褐灰色粘土ブロックを多量に含む。(P12・14・16)
 19. 黒褐色土層(10YR2/2) ロームブロック・褐灰色粘土ブロック多く混在。(貼り床)
 20. 黒褐色土層(10YR2/3) ローム細ブロックを多く含む。(貼り床)
 21. 黒褐色土層(10YR2/2) ロームブロックを含む。
 22. 黒褐色土層(10YR2/3) ロームブロック・褐灰色粘土ブロックを多く含む。
 23. にぶい黄褐色土層(10YR5/4) ロームブロック・褐灰色粘土ブロックの混在層。



1
(H1-8と同個体)

21
(H1-28と同個体)

第11図 H2号住居址

旧住居址の存在、合計4回の建て替えが確認された。これはH1号住と同じであり、土器もH1号住とH2号住で接合個体が4例あるなど、同一期に存在した住居址であろう。

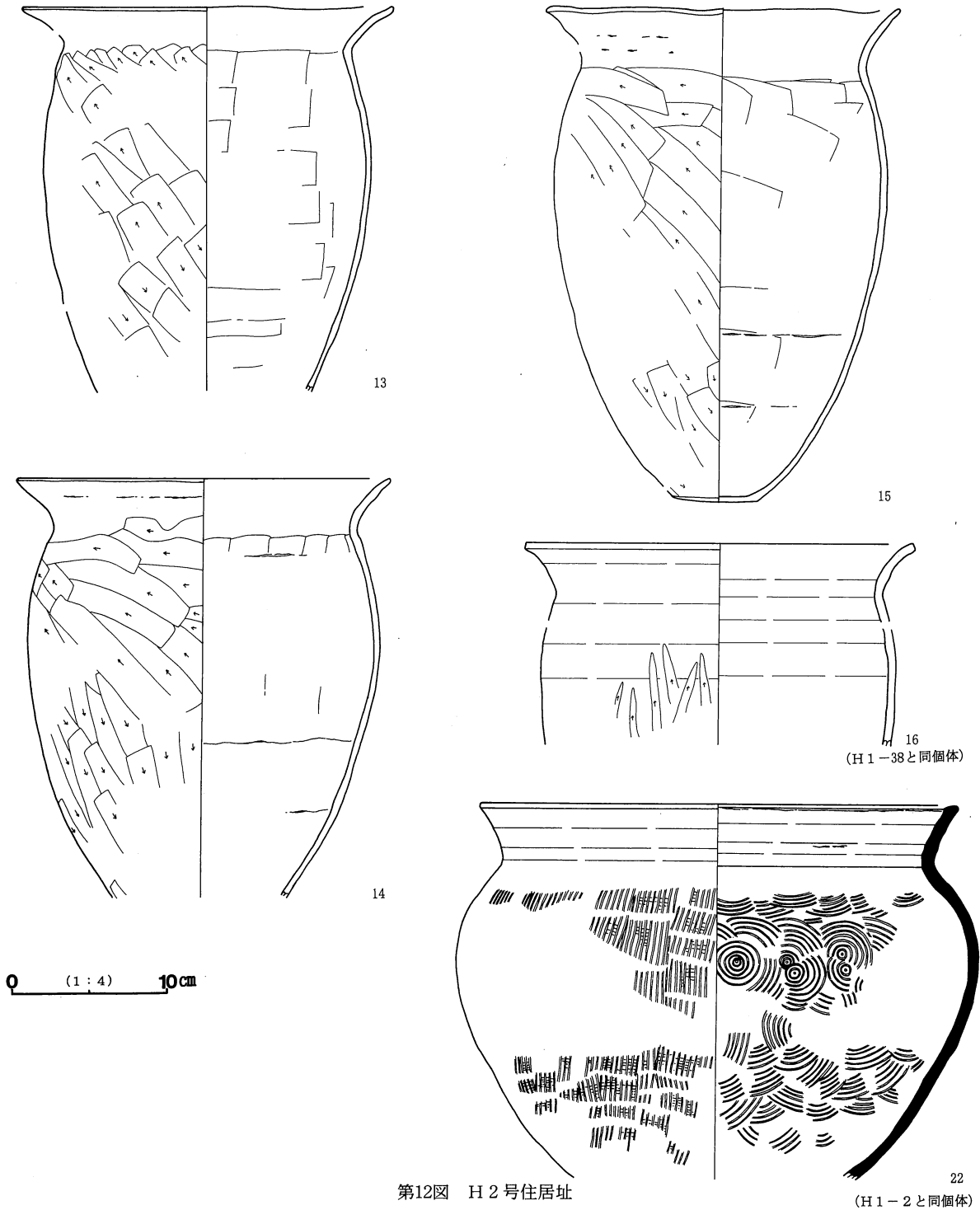
遺物

H2号住居址からは須恵器蓋・高台付杯、土師器小甕・甕、スリ石、砥石が出土している。

H1号住の土器と接合関係があり、1の須恵器蓋、16のロクロ甕、21の小型甕、22須恵器甕がある。22はH1が主体、1・16・21はH2号住に主体がある。

土師器甕は武蔵甕で口縁部形態が「く」の字であり、口縁部横ナデ後胴部のヘラケズリをしている。H1号住では須恵器杯・土師器杯の実測個体があるが本址にはない。

これらより本住居址はH1号住と同様8C前半が該期であろう。



第12図 H2号住居址

(H1-2と同個体)

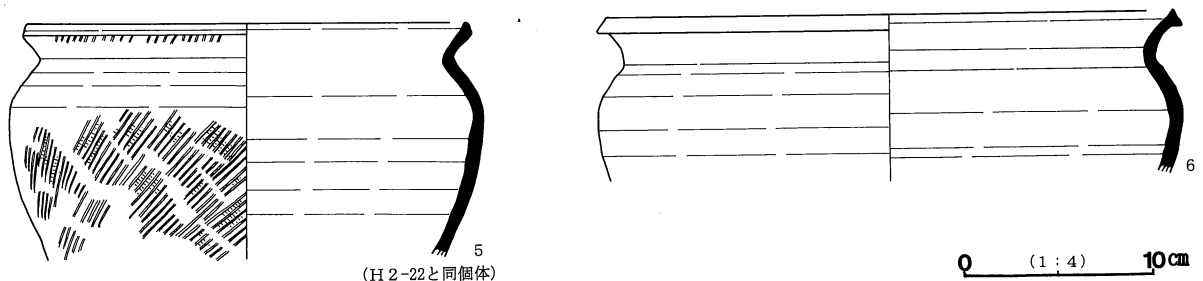
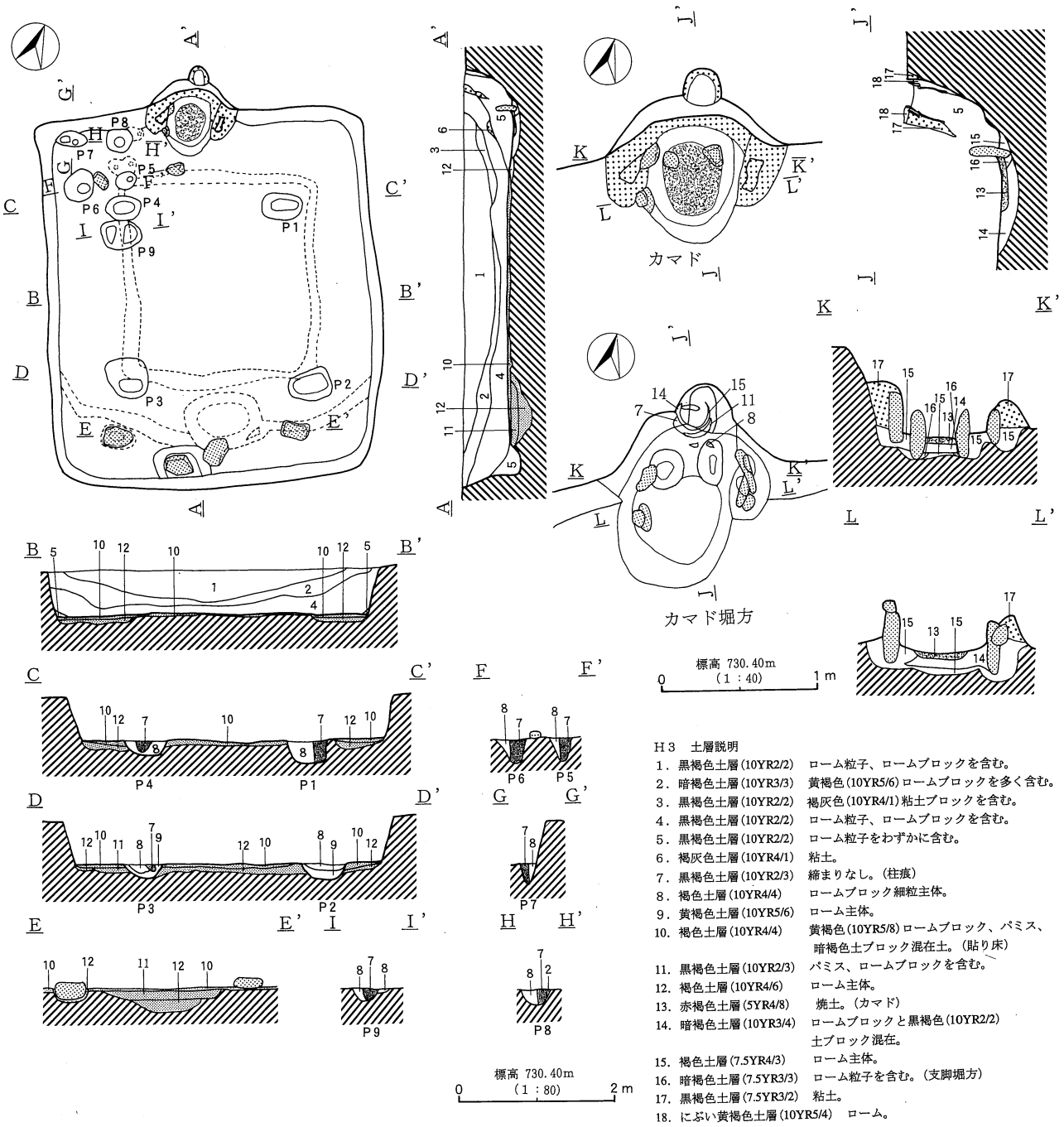
第3表 H2号住居址出土遺物一覧表

挿図番号	器種	法量	成形・調整	残存量・実測種類・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 蓋	16.4 2.3	ロクロ成形→天井部回転ヘラケズリ H1-8と接合	3/4残存 完全実測 にぶい赤褐・灰赤(7.5R 5/3・5/2)	～0.5mm石英・長石粒子 外面自然釉付着。鉱物融解 し発泡。 扁平つまみ付く	H1Ⅲ・Ⅳ区 H2P10
2	須恵器 高台付 杯	— 1.4 9.0	ロクロ成形 底部 回転ヘラケズリ 高台付く	底部完存 完全実測 灰(N6/0)	～0.5mm石英・長石粒子 まれに1mm黒色粒子 鉱物融解し発泡。 底部外面自然釉付着。	H2Ⅲ区2層
21	土師器 小甕	(12.5) 10.5 6.3	外面 口縁部横ナデ→胴部・底部ヘ ラケズリ 内面 ロクロ成形→口縁部横ナデ H1-28と接合	ほぼ残存 完全実測 にぶい橙(7.5YR7/4)	～0.5mm石英・長石粒子	H1Ⅲ区 H2Ⅰ区
3	土師器 甕	(20.7) 7.6 —	外面 口縁部横ナデ→胴部ヘラケズ リ 内面 口縁部横ナデ→胴部ナデ	1/4残存 回転実測 にぶい橙(5YR7/4)	～0.5mm石英・長石粒子 「く」の字形態口縁武蔵甕	Ⅰ区Ⅳ区2層 カマド
4	土師器 甕	22.1 13.9 —	外面 口縁部横ナデ→胴部ヘラケズ リ 内面 口縁部横ナデ→胴部ナデ	3/4残存 完全実測 にぶい橙(2.5YR6/4)	～0.5mm石英・長石粒子 「く」の字形態口縁武蔵甕	Ⅰ区カマド Ⅱ区2層 Ⅳ区2層
5	土師器 甕	(23.3) 14.0 —	外面 口縁部横ナデ→胴部ヘラケズ リ 内面 口縁部横ナデ→胴部ナデ	1/2残存 完全実測 にぶい橙(2.5YR 6/4)	～0.5mm石英・長石粒子 「く」の字形態口縁武蔵甕	Ⅰ～Ⅳ区 2層 カマド
6	土師器 甕	22.2 20.9 —	外面 口縁部横ナデ→胴部ヘラケズ リ 内面 口縁部横ナデ→胴部ナデ	ほぼ残存 完全実測 橙(2.5YR6/6)	～0.5mm石英・長石粒子 「く」の字形態口縁武蔵甕	Ⅰ区Ⅳ区2層 カマド
7	土師器 甕	— 8.3 5.2	外面 底部・胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ	1/3残存 回転実測 にぶい橙(5YR6/4)	～0.5mm石英・長石粒子 武蔵甕	Ⅰ区Ⅲ区 Ⅳ区2層
8	土師器 甕	(23.7) 15.2 —	外面 口縁部横ナデ→胴部ヘラケズ リ 内面 口縁部横ナデ→胴部ナデ	ほぼ完存 完全実測 にぶい橙(7.5YR 7/3)	～0.5mm石英・長石粒子 「く」の字形態口縁武蔵甕	Ⅰ区 Ⅱ・Ⅳ区2層 カマド
9	土師器 甕	(22.5) 16.5 —	外面 口縁部横ナデ→胴部ヘラケズ リ 内面 口縁部横ナデ→胴部ナデ	1/6残存 回転実測 にぶい橙(5YR6/3)	～0.5mm石英・長石粒子 「く」の字形態口縁武蔵甕	Ⅰ区3層
10	土師器 甕	(23.0) 10.0 —	外面 口縁部横ナデ→胴部ヘラケズ リ 内面 口縁部横ナデ→胴部ナデ	1/2残存 回転実測 にぶい橙(5YR7/3)	～0.5mm石英・長石粒子 「く」の字形態口縁武蔵甕	Ⅱ区 カマド
11	土師器 甕	(21.5) 8.2 —	外面 口縁部横ナデ→胴部ヘラケズ リ 内面 口縁部横ナデ→胴部ナデ	1/2残存 回転実測 にぶい橙(5YR7/4)	～0.5mm石英・長石粒子 「く」の字形態口縁武蔵甕	Ⅳ区2層
12	土師器 甕	— 13.8 5.4	外面 底部・胴部ヘラケズリ 内面 胴部ナデ	4/5残存 完全実測 淡黄橙(2.5YR7/4)	～0.5mm石英・長石粒子 武蔵甕	Ⅰ区 エマド
13	土師器 甕	23.7 24.8 —	外面 口縁部横ナデ→胴部ヘラケズ リ 内面 口縁部横ナデ→胴部ナデ	4/5残存 完全実測 にぶい橙(5YR7/4)	～0.5mm石英・長石粒子 「く」の字形態口縁武蔵甕	Ⅳ区2層 Ⅱ区3層 カマド
14	土師器 甕	23.8 26.9 —	外面 口縁部横ナデ→胴部ヘラケズ リ 内面 口縁部横ナデ→胴部ナデ	ほぼ残存 完全実測 にぶい橙(7.5YR 7/3)	～0.5mm石英・長石粒子 「く」の字形態口縁武蔵甕	Ⅳ区2層 Ⅳ区3層 カマド
15	土師器 甕	(23.7) 31.8 5.5	外面 口縁部横ナデ→胴部ヘラケズ リ 内面 口縁部横ナデ→胴部ナデ	1/3残存 回転実測 にぶい褐(7.5YR 6/3)	～0.5mm石英・長石粒子 「く」の字形態口縁武蔵甕	Ⅳ区3層 カマド煙道 1・Ⅲ区
16	土師器 甕	(25.0) 13.0 —	外面 ロクロ成形→胴中位からヘラ ケズリ 内面 ロクロ成形 H1-38と接合	1/5残存 回転実測 にぶい橙(5YR7/3)	～0.5mm石英・長石粒子 「く」の字形態ロクロ甕	H1Ⅳ区1層 H2Ⅲ区
17	スリ石	8.4 3.5 3.2			1面わずかにスリ面	Ⅲ区
18	スリ石 安山岩	14.6 6.6 5.2	片方割れる		4面にスリ面 端部敲打痕?	Ⅳ区3層
19	砥石 凝灰岩	9.8 3.8 3.3			3面使用面	P13
20	砥石 凝灰岩	9.3 6.0 4.0			4面使用面	P4堀方
22	須恵器 甕	(30.7) 23.7 —	ロクロ成形→胴部タタキ H1-2と接合	口～胴部1/3残存 回転実測 浅黄・灰白(5Y 7/3・7/2)	1mm黒色粒子 ～0.5mm長石粒子 肩の張った広口の甕	H1Ⅰ～Ⅲ区 H2Ⅰ区堀方

3) H3号住居址

遺構

調査区の南西隅、Cけ9グリットにあり、全体層序第VI層とV層で検出され、第VI層の黄褐色土層中に構築してある。大きさは南北444cm、東西400cmと南北に長い長方形の住居址である。



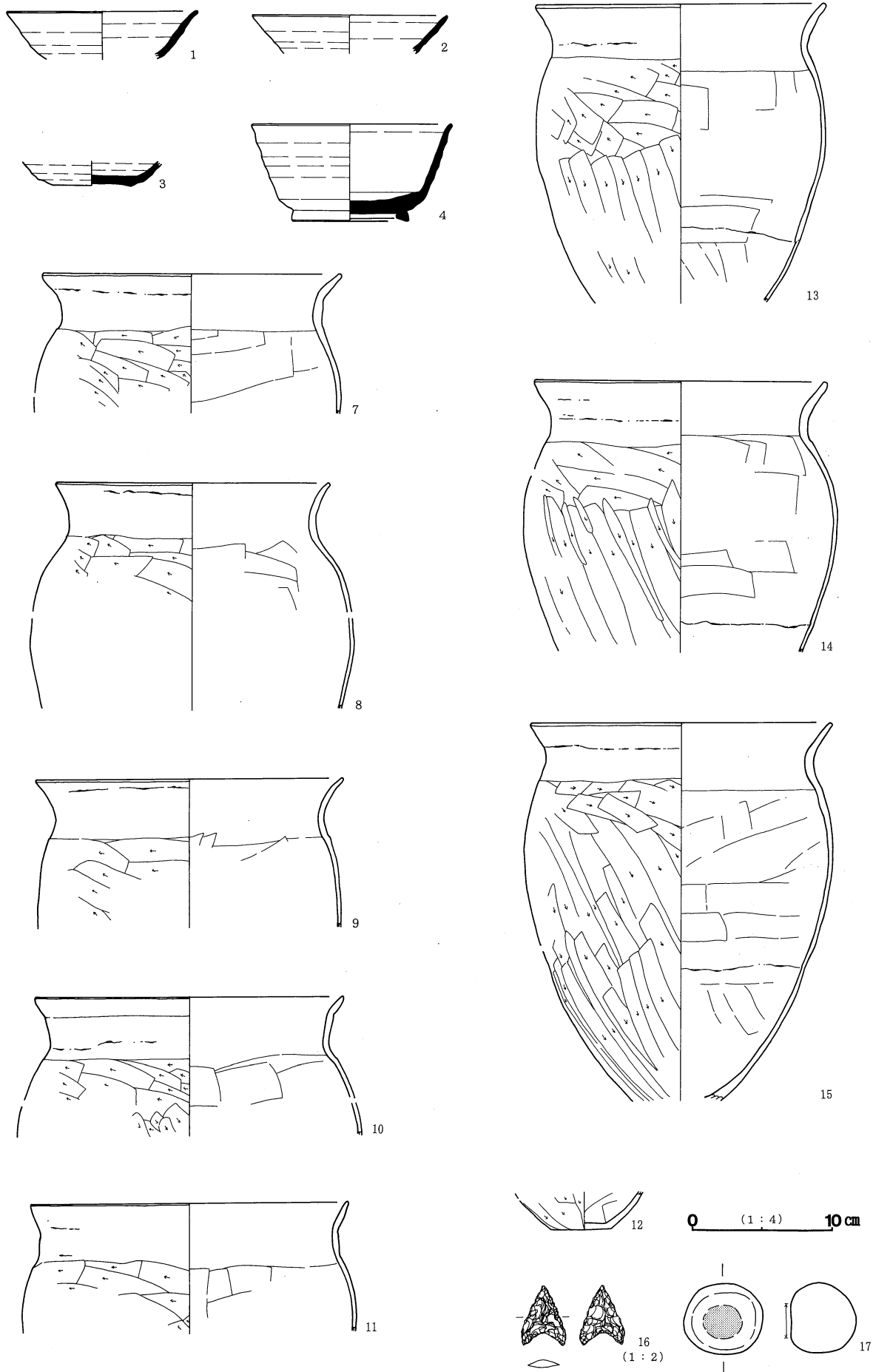
第13図 H3号住居址

主軸は28°西に傾く。カマドは北壁中央にあり、煙道と両袖、火床が使用状態のまま残っていた。武蔵甕を重ねて煙道とし、粘土とロームを貼ったものである。袖は軽石や川原石を芯にしている。支脚は軽石製である。

床面は中央部が地山を残していることもあり、締まっていた。南側に4個の扁平な川原石があり、中央2個が出入りに使用したものであろうか。主柱穴は4本で比較的浅いピットである。堀方において旧住居址のプランが南壁から内側に40cm入って検出されている。このことからP2・P3は旧プランに伴うもので、EEセクションの扁平な2個の石が礎石として置かれ、柱が立っていた可能性が高い。また北西に4個ピットが60cm方形に配列され、何らかの施設があったようだ。

第4表 H3号住居址出土遺物一覧表

挿図番号	器種	法量	成形・調整	残存量・実測種類・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 杯	(13.6) 3.4 -	ロクロ成形	口縁部1/2残存 回転実測 灰白(2.5Y8/1)	~0.5mm石英・長石粒子多い。まれに1mm黒色・長石粒子含む 火だすきあり	II区4層
2	須恵器 杯	(14.0) 2.6 -	ロクロ成形	口縁部1/3残存 回転実測 灰白(N7/0)	~0.5mm石英・長石粒子まれに1mm黒色粒含む 火だすきあり	カマド
3	須恵器 杯	- 1.8 (6.3)	ロクロ成形 底部 回転糸切り	2/3残存 回転実測 灰(N6/0)	~0.5mm石英・長石粒子多い。まれに1mm黒色粒含む	I区
4	須恵器 高台付 杯	(14.4) 6.9 8.4	ロクロ成形 底部高台付く	底部残存口縁1/6残存 完全実測 灰(N6/0)	~0.5mm石英・長石粒子多い。まれに1~2mm黒色粒含む 深いタイプ	II区4層
5	須恵器 甕	(23.6) 12.4 -	ロクロ成形 外面 胴部タタキ→口縁部胴肩部横ナデ 内面 ナデ H4-7と接合	口~胴部1/2残存 回転実測 灰(N5/0)	1mm大黒色粒子 ~0.5mm長石・石英粒子 肩の張った広口の甕	H3カマド IV区1層 H4 II区1層 IV区堀方 IV区5層
6	須恵器 甕	(30.8) 8.7 -	ロクロ成形	口~胴部1/7残存 回転実測 浅黄橙(10YR8/3)	1mm黒色粒子 ~0.5mm長石粒 肩の張った広口の甕	カマド堀方
7	土師器 甕	21.4 10.0 -	外面 胴部ヘラケズリ→口縁部横ナデ 内面 胴部ヘラナデ→ナデ→口縁部横ナデ	ほぼ残存 完全実測 にぶい橙(5YR7/3)	~1mm石英・長石粒子 「コ」の字形態口縁武蔵甕	IV区1・3層 カマド煙道
8	土師器 甕	(19.5) 16.2 -	外面 胴部ヘラケズリ→口縁部横ナデ 内面 胴部ヘラナデ→ナデ→口縁部横ナデ	1/6残存 回転実測 にぶい橙(2.5YR6/4)	~1mm石英・長石粒子 「コ」の字形態口縁武蔵甕	カマド煙道
9	土師器 甕	(21.4) 10.0 -	外面 胴部ヘラケズリ→口縁部横ナデ 内面 胴部ヘラナデ→ナデ→口縁部横ナデ	1/5残存 回転実測 にぶい橙(5YR7/4)	~1mm石英・長石粒子 「コ」の字形態口縁武蔵甕	カマド カマド堀方
10	土師器 甕	(22.0) 10.0 -	外面 胴部ヘラケズリ→口縁部横ナデ 内面 胴部ヘラナデ→ナデ→口縁部横ナデ	1/6残存 回転実測 にぶい橙(2.5YR6/4)	~1mm石英・長石粒子 「コ」の字形態口縁武蔵甕	IV区2層
11	土師器 甕	(22.6) 9.3 -	外面 胴部ヘラケズリ→口縁部横ナデ 内面 胴部ヘラナデ→ナデ→口縁部横ナデ	1/3残存 完全実測 にぶい橙(5YR7/4)	~1mm石英・長石粒子 2mm赤色粒子 「コ」の字形態口縁武蔵甕	カマド煙道 カマド堀方
12	土師器 甕	- 2.8 (4.3)	外面 底部胴部ヘラケズリ 内面 胴部ヘラナデ→ナデ	ほぼ残存 完全実測 にぶい橙(5YR7/3)	~1mm石英・長石粒子 「コ」の字形態口縁武蔵甕	IV区1・3層 カマド煙道
13	土師器 甕	(20.3) 21.4 -	外面 胴部ヘラケズリ→口縁部横ナデ 内面 胴部ヘラナデ→ナデ→口縁部横ナデ	2/3残存 回転実測 にぶい橙(5YR6/4)	~1mm石英・長石粒子 2mm赤色粒子 「く」の字形態口縁武蔵甕	IV区1・2層
14	土師器 甕	20.9 19.5 -	外面 胴部ヘラケズリ→口縁部横ナデ 内面 胴部ヘラナデ→ナデ→口縁部横ナデ	ほぼ残存 完全実測 にぶい橙(5YR7/4)	~1mm石英・長石粒子 「コ」の字形態口縁武蔵甕	カマド煙道 カマド堀方
15	土師器 甕	21.6 27.1 (6.0)	外面 胴部ヘラケズリ→口縁部横ナデ 内面 胴部ヘラナデ→ナデ→口縁部横ナデ	ほぼ残存 完全実測 にぶい橙(5YR7/3)	~1mm石英・長石粒子 2mm赤色粒子・「コ」の字形態口縁武蔵甕	カマド煙道
16	石鏝 黒曜石	2.1 1.6 0.3				IV区4層
17	スリ石 軽石	8.4 3.5 3.2			1面にスリ面	カマド



第14图 H3号住居址

堀方は中央の地山を残し、周辺部を掘り下げる典型的なパターンを示した。

遺物

本住居址からは須恵器甕・杯・高台付杯、土師器甕、軽石製スリ石、石鏃が出土している。

須恵器甕は口縁が短く広口の肩が張るもので、1はタタキが施され、2はロクロ成形のままである。3の杯は底部回転糸切りである。土師器甕はいずれも武蔵甕で口縁部形態が「コ」の字を呈す様になる。胴部へラケズリ後口縁部の横ナデが行われている。7・8・11・14・15の武蔵甕は煙道に使用されたものである。

これらより本住居址の土器群は8C末～9C前半の所産であろう。

4) H4号住居址

遺構

H3号住居址の4m北、Cけ6グリットにある。遺構検出面はところにより異なり、全体層序第IV～V層のシルト質土と黒色土層中でプラン確認され、構築土層も同様である。

住居址の大きさは南北500cm 東西484cm、北壁が南壁より長いがほぼ方形の住居址である。

住居址の主軸方位は24°西に傾く。カマドは北壁中央にあり、袖と煙道、火床部が残っていた。煙道上部、天井部は崩壊していた。袖は地山を残し、軽石と粘土で構築している。煙道には武蔵甕を使用したらしく甕が残っていた。

床面はローム・粘土ブロックを入れ、よく締まっていた。

主柱穴は4本で、南壁下には出入り口のピットが検出された。また生活面の床面上でプラン確認できる土坑が3個検出された。

堀方では全体に40～60cm内周する旧住居址プランがあり、その東西壁の中央にP10・11ピットが検出されている。旧住居址の主柱穴は2本柱であったようだ。

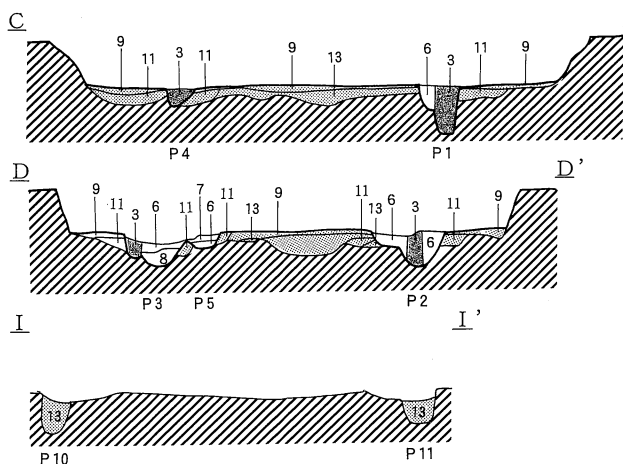
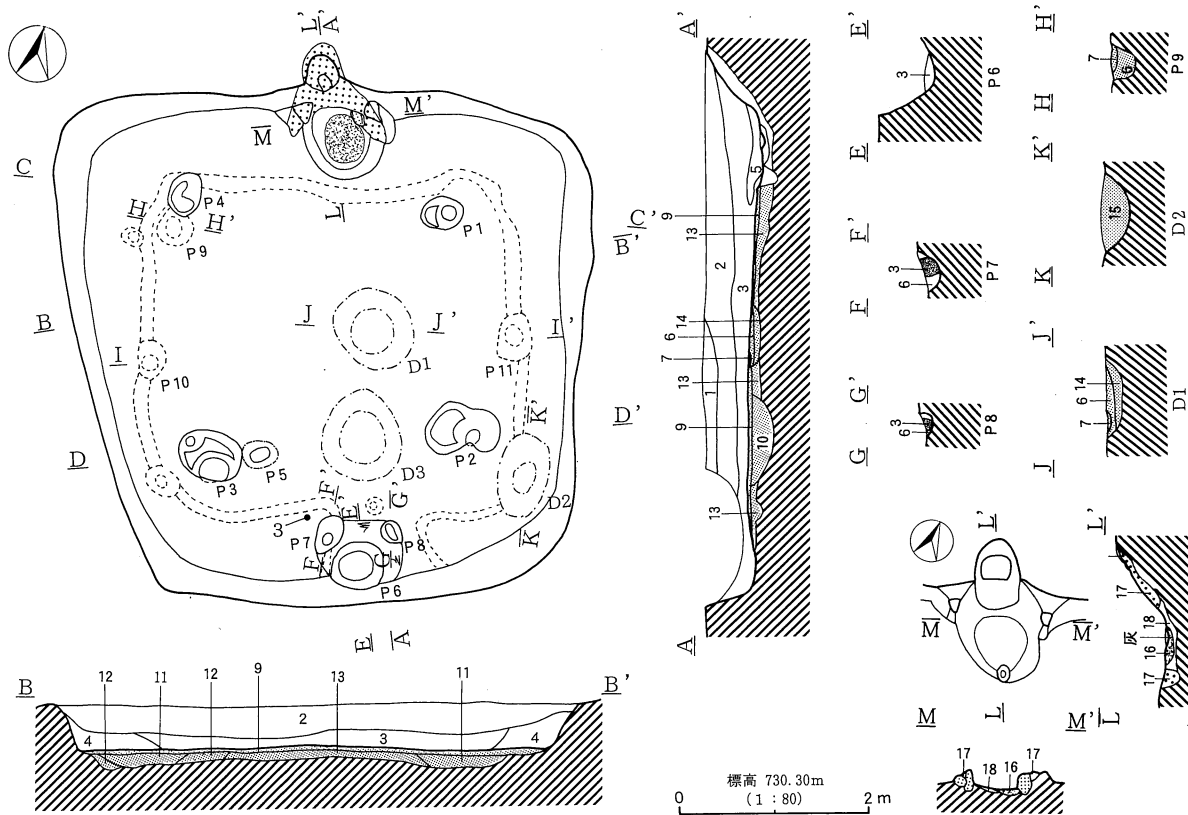
遺物

本住居址からは、須恵器甕・杯・高台付杯・盤?、土師器小甕・甕、鉄製刀子が出土している。

須恵器杯は底部回転糸切りされ、3の高台付杯も底部回転糸切り後高台がつけられている。7の須恵器甕はH3-5と同個体であり、本住居址に多くの破片がある。

武蔵甕は口縁部形態が「コ」の字を呈するものもみられる。

これらの土器群はH3号住居址と同様であり、8C末～9C前半が該期であろう。

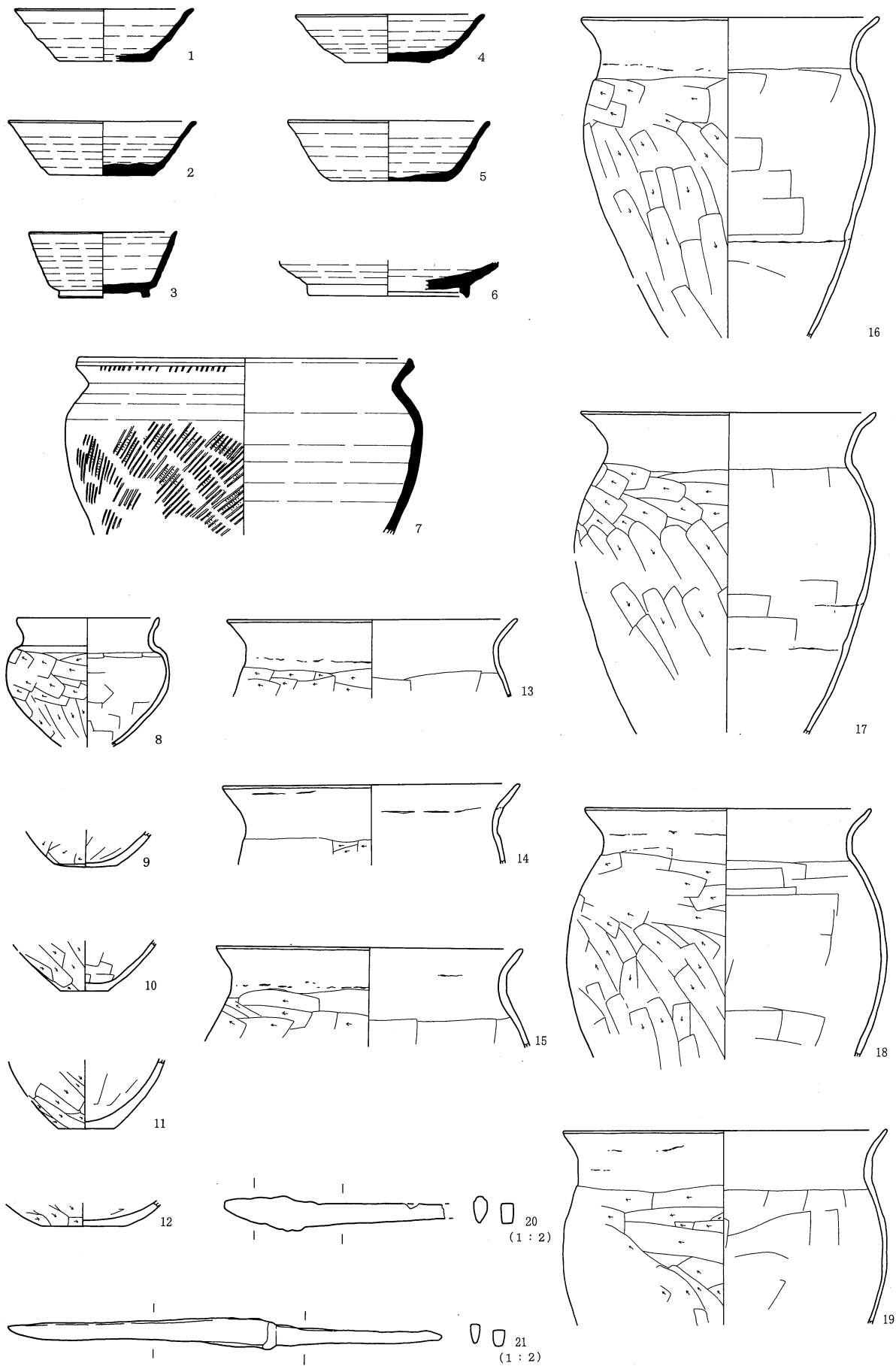


H4 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 黄褐色 (10YR5/6) ロームブロック (3cm大) を含む。
2. 黒色土層 (10YR2/1) わずかにローム粒子、~3cm大の小石を含む。
3. 黒褐色土層 (10YR2/2) 北側に灰黄褐色 (10YR6/2) 粘土ブロックが多く、~3cm大の小石をまれに含む。
4. 黒褐色土層 (10YR2/2) 褐色土 (10YR4/4) シルト質崩壊土と黒色土 (10YR1.7/1) ブロックの混合層。(壁崩壊土)

5. 黒褐色土層 (10YR2/2) 灰黄褐色 (10YR6/2) 粘土ブロックを多量に含む。(カマド崩壊層)
6. 黒褐色土層 (10YR2/2) ロームブロック、黒色土細ブロックを多く含む。縮まりあり。(床下ビット埋土)
7. 黒褐色土層 (10YR2/2) 白色粘土を含む。(床下ビット貼り床)
8. 黄褐色土層 (10YR5/6) ローム主体。(p 3)
9. 黒褐色土層 (10YR2/2) 褐灰色 (10YR4/1) 粘土ブロック、ロームブロックを多く含む、縮まる。(貼り床)
10. 黒褐色土層 (10YR2/3) 粘土ブロック、ロームブロックを含む。(床下土坑)
11. 黒褐色土層 (10YR2/3) 黒色土、ロームブロック細粒、焼土粒子を含む。(堀方)
12. 暗褐色土層 (10YR3/3) ロームブロック、ローム、バミスを多く含む (堀方)。
13. 黒褐色土層 (10YR2/2) シルト質土を含む。(堀方)
14. 黒褐色土層 (10YR2/2) 粘土、黒色土細ブロックを含む。(D 1)
15. にぶい黄褐色土層 (10YR4/3) ローム粒子を多量に含み、上面は縮まり、ロームが多い。(D 2)
16. 赤褐色土層 (5YR4/6) 焼土。(カマド)
17. 黒褐色土層 (10YR2/2) 粘土。(カマド)
18. 黒褐色土層 (7.5YR2/2) 地山砂、焼土粒を含む。

第15図 H4号住居址



第16图 H4号住居址

0 (1:4) 10cm

第5表 H4号住居址出土遺物一覧表

挿図番号	器種	法量	成形・調整	残存量・実測種類・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器杯	(12.6) 3.7 (6.8)	ロクロ成形 底部 回転糸切り	口縁部1/3残存 回転実測 灰(7.5Y6/1)	～0.5mm石英・長石粒子多い。1～3mm黒色粒子 火だすきあり	Ⅱ区3層 Ⅰ区
2	須恵器杯	(13.2) 3.8 7.2	ロクロ成形 底部 回転糸切り	口縁部1/2残存 回転実測 明青灰(10BG7/1)	～0.5mm石英・長石粒子 1～3mm黒色粒子 火だすきあり	Ⅱ区1層 Ⅲ区
3	須恵器高台付杯	(12.6) 3.7 (6.5)	ロクロ成形 底部 回転糸切り→高台貼り付	完全実測 浅黄橙・褐灰(10YR8/3・6/1)	～0.5mm石英・長石粒子 1mm長石粒、2～3mm赤色粒子	Ⅲ区床
4	須恵器杯	(12.6) 3.4 6.0	ロクロ成形 底部 回転糸切り	口縁部2/3残存 回転実測 灰白(7.5Y7/1)	～0.5mm石英・長石粒子多い。まれに1～3mm黒色粒子 火だすきあり	Ⅱ区1層 Ⅳ区5層 カマド
5	須恵器杯	(14.2) 4.3 (8.3)	ロクロ成形 底部 回転糸切り	口縁部1/4残存 回転実測 灰白(10Y7/1)	～0.5mm石英・長石粒子多い。1mm黒色粒子含む 火だすきあり	Ⅲ区 Ⅰ区
6	須恵器盤	— 2.5 (11.2)	ロクロ成形 底部 ヘラケズリ→高台貼り付	口縁部1/4残存 回転実測 灰白・灰(N7/0・6/0)	～0.5mm石英・長石粒子 1～2mm黒色粒子含む	Ⅱ区3層 1区
7	須恵器甕	(23.6) 12.4 —	ロクロ成形 外面 胴部タタキ→口縁部胴肩部横ナデ 内面 ナデ H3-5と接合	口→胴部1/2残存 回転実測 灰(N5/0)	1mm黒色粒子 ～0.5mm長石・石英粒子 肩の張った広口の甕	H3カマド Ⅳ区1層 H4Ⅱ区1層 Ⅳ区掘方 Ⅳ区5層
8	土師器小甕?	(10.0) 9.2 —	外面 胴部ヘラケズリ→口縁部横ナデ 内面 胴部ヘラナデ→ナデ→口縁部横ナデ	1/4残存 回転実測 にぶい赤褐(5YR5/3)	～1mm石英・長石粒子 「コ」の字形態口縁武蔵甕	カマド煙道
9	土師器甕	— 2.6 4.5	外面 胴・底部ヘラケズリ 内面 胴部ヘラナデ→ナデ	2/3残存 完全実測 褐灰(7.5YR5/1)	～1mm石英・長石粒子 武蔵甕	カマド Ⅲ区
10	土師器甕	— 3.5 3.3	外面 胴・底部ヘラケズリ 内面 胴部ヘラナデ→ナデ	ほぼ残存 完全実測 にぶい橙(5YR6/4)	～1mm石英・長石粒子 武蔵甕	Ⅰ区
11	土師器甕	— 4.8 3.9	外面 胴・底部ヘラケズリ 内面 胴部ヘラナデ→ナデ	ほぼ残存 回転実測 灰褐(7.5YR5/2)	～1mm石英・長石粒子 武蔵甕 厚手、底部摩耗	D1
12	土師器甕	— 1.6 (5.7)	外面 胴・底部ヘラケズリ 内面 胴部ヘラナデ→ナデ	1/2残存 回転実測 にぶい橙(2.5YR6/4)	～1mm石英・長石粒子 武蔵甕	Ⅱ区2層
13	土師器甕	(20.4) 5.6 —	外面 胴部ヘラケズリ→口縁部横ナデ 内面 胴部ヘラナデ→ナデ→口縁部横ナデ	1/4残存 回転実測 にぶい橙(5YR6/4)	～1mm石英・長石粒子 「コ」の字形態口縁武蔵甕	Ⅳ区2層
14	土師器甕	(21.0) 5.7 —	外面 胴部ヘラケズリ→口縁部横ナデ 内面 胴部ヘラナデ→ナデ→口縁部横ナデ	1/4残存 回転実測 にぶい橙(2.5YR7/4)	～1mm石英・長石粒子 「コ」の字形態口縁武蔵甕	Ⅳ区5層
15	土師器甕	(21.5) 7.0 —	外面 胴部ヘラケズリ→口縁部横ナデ 内面 胴部ヘラナデ→ナデ→口縁部横ナデ	1/6残存 回転実測 橙(2.5YR6/6)	～1mm石英・長石粒子 「コ」の字形態口縁武蔵甕	Ⅳ区2層
16	土師器甕	(21.0) 22.6 —	外面 胴部ヘラケズリ→口縁部横ナデ 内面 胴部ヘラナデ→ナデ→口縁部横ナデ	3/4残存 回転実測 にぶい橙(2.5YR6/4)	～1mm石英・長石粒子 「コ」の字形態口縁武蔵甕	Ⅳ区2層
17	土師器甕	(20.8) 22.8 —	外面 胴部ヘラケズリ→口縁部横ナデ 内面 胴部ヘラナデ→ナデ→口縁部横ナデ	1/6残存 回転実測 にぶい橙(2.5YR6/4)	～1mm石英・長石粒子 「コ」の字形態口縁武蔵甕	Ⅱ区3層 カマド Ⅳ区
18	土師器甕	(20.1) 17.6 —	外面 胴部ヘラケズリ→口縁部横ナデ 内面 胴部ヘラナデ→ナデ→口縁部横ナデ	2/3残存 回転実測 にぶい橙(2.5YR6/6)	～1mm石英・長石粒子 「コ」の字形態口縁武蔵甕	カマド
19	土師器甕		外面 胴部ヘラケズリ→口縁部横ナデ 内面 胴部ヘラナデ→ナデ→口縁部横ナデ	1/4残存 回転実測 にぶい橙(2.5YR6/4)		
20	刀子	(7.8) 1.3 0.5		先端は使い込みにより短い。 柄端部は欠損		Ⅱ区2層
21	刀子	15.2 1.0 0.4		ほぼ残存		Ⅳ区2層

5) H5号住居址

遺構

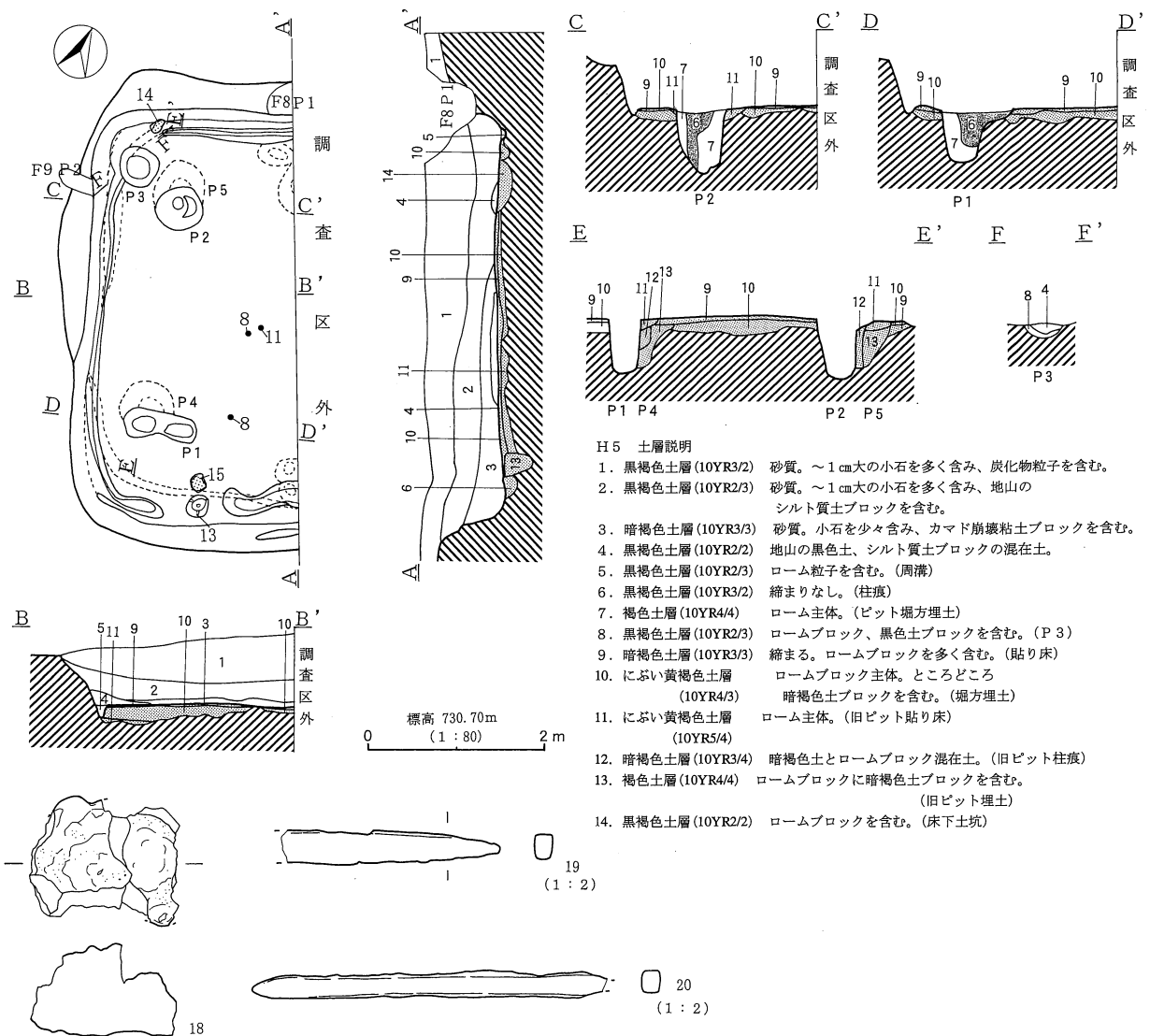
調査区の東中央にあり、東側半域が調査区域外となっている。Aき2グリットにあり、全体層序第Ⅲ層～Ⅴ層中で検出され、その層中に構築している。大きさは南北460cmを測り、東西は半分より少ない224cmを掘った。おそらくカマドは区域外で検出されるものと推測される。北側の壁上部は、砂礫層のため、崩壊していた。壁下には周溝が巡る。

床面はロームブロックを入れ、締まっていた。柱穴は主柱穴の西側2本が検出され、床下から現ピットの北側に旧ピットが、堀方南側でも、内周する旧住居址のプランが確認された。

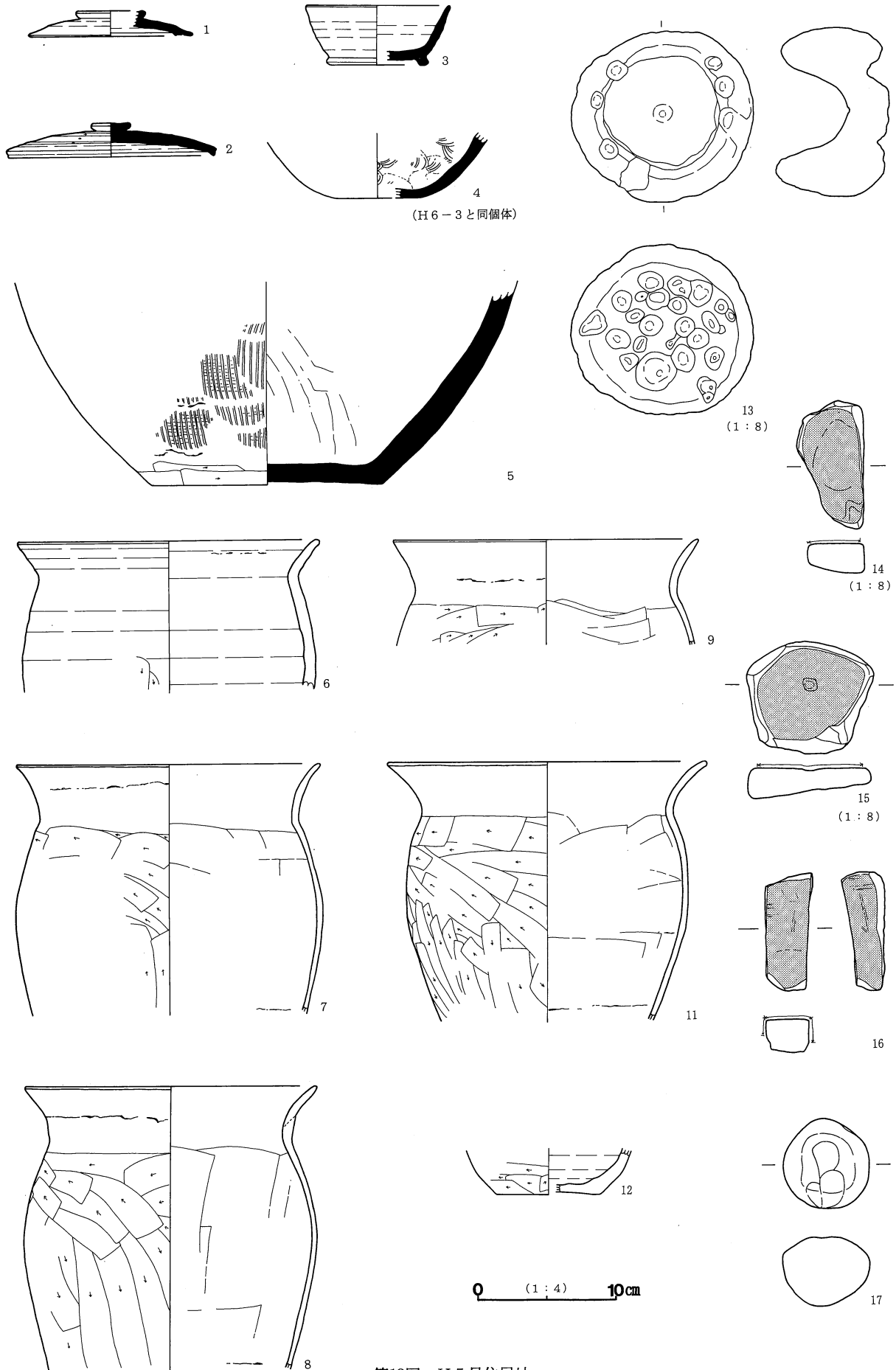
遺物

本住居址からは須恵器蓋・高台付杯・甕、土師器甕、石搗鉢、スリ石、刀子、鉄滓が出土している。須恵器蓋はつまみが扁平タイプである。5の甕は外面タタキ調整、内面ナデ調整される。6は口縁部が「く」の字に外傾するロクロ甕。7～11の武蔵甕は口縁部形態が「く」と「コ」の字形態の両者があり、H1・H2号住の武蔵甕より後出の様相がある。

これらより本址は8C後半の所産の土器群であろう。



第17図 H5号住居址



第18図 H5号住居址

第6表 H5号住居址出土遺物一覧表

挿図番号	器種	法量	成形・調整	残存量・実測種類・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 蓋	(12.9) 1.8	ロクロ成形→天井部回転ヘラケズリ つまみ付く	1/10 残存 回転実測 灰白(N7/0)	～0.5mm石英・長石・黒色 粒子 外面自然釉付着。扁 平つまみ付く	I区
2	須恵器 蓋	(14.8) 2.4	ロクロ成形→天井部回転ヘラケズリ つまみ付く	1/4 残存 回転実測 灰・褐灰(N5/0・7.5YR 6/1)	～0.5mm石英・長石・黒色 粒子 扁平つまみ付く	
3	須恵器 高台付 杯	(10.4) 4.3 (7.3)	ロクロ成形 底部 高台貼り付	1/4 残存 回転実測 灰(N5/0)	～0.5mm石英・長石粒子	
4	須恵器 甕	— 4.6 (6.0)	外面 タタキ→ナデ 内面 指頭ナデ圧痕 H6-3と接合	1/10 残存 回転実測 明青灰(5PB7/1)	～0.5mm石英・長石粒子	H5 H6 I区
5	須恵器 甕	— 14.8 (16.5)	外面 タタキ→ナデ、胴下部ヘラケ ズリ、底部ナデ? 内面 指頭ナデ圧痕	1/10 残存 回転実測 灰白(N8/0)	～0.5mm石英・長石粒子 1～2mm黒色粒子	I区
6	土師器 甕	(21.7) 10.8 —	外面 ロクロ成形→胴中位からヘラ ケズリ 内面 ロクロ成形	1/8 残存 回転実測 にぶい橙(2.5YR6/4)	～1mm石英・長石粒子 「く」の字形態ロクロ甕	
7	土師器 甕	(21.7) 18.0 —	外面 胴部ヘラケズリ→口縁部横ナ デ 内面 胴部ヘラナデ→ナデ→口 縁部横ナデ	1/3 残存 回転実測 にぶい橙(2.5YR6/4)	～1mm石英・長石粒子 「コ」の字形態が明確でない 口縁武蔵甕	
8	土師器 甕	(21.0) 20.3 —	外面 胴部ヘラケズリ→口縁部横ナ デ 内面 胴部ヘラナデ→ナデ→口 縁部横ナデ	1/4 残存 回転実測 橙(2.5YR6/6)	～1mm石英・長石粒子 「コ」の字形態口縁武蔵甕	中央
9	土師器 甕	(21.9) 7.6 —	外面 胴部ヘラケズリ→口縁部横ナ デ 内面 胴部ヘラナデ→ナデ→口 縁部横ナデ	1/6 残存 回転実測 淡赤橙(2.5YR7/4)	～1mm石英・長石粒子 「コ」の字形態口縁武蔵甕	3層
10	欠番					
11	土師器 甕	(22.9) 18.6 —	外面 胴部ヘラケズリ→口縁部横ナ デ 内面 胴部ヘラナデ→ナデ→口 縁部横ナデ	2/5 残存 回転実測 にぶい橙(2.5YR6/6)	～1mm石英・長石粒子 「く」の字形態口縁武蔵甕	II区2層
12	土師器 甕	— 3.3 (7.4)	外面 ヘラケズリ 内面 ロクロ成形	1/8 残存 回転実測 灰褐(7.5YR5/2)	～1mm石英・長石粒子 ロクロ甕	
13	石播鉢	26.4 24.8 16.0	表に6カ所、22カ所の凹部あり。溶 結凝灰岩	ほぼ残存		南床
14	スリ石	18.4 9.6 4.9	わずかにスリ面?			北西
15	合石 凹石 安山岩	18.4 9.6 4.9	一面にスリ面あり、中央に凹部あり			南床
16	砥石	8.5 3.4 2.9	2面使用			P3
17	スリ石 軽石	18.4 9.6 4.9	カット面あり			P2
18	鉄滓					2層
19	刀子	18.4 9.6 4.9		刃部のみ		
20	鉄鏃?	<5.0> 0.6 0.5		片方折れる		1層

6) H 6 号住居址

遺構

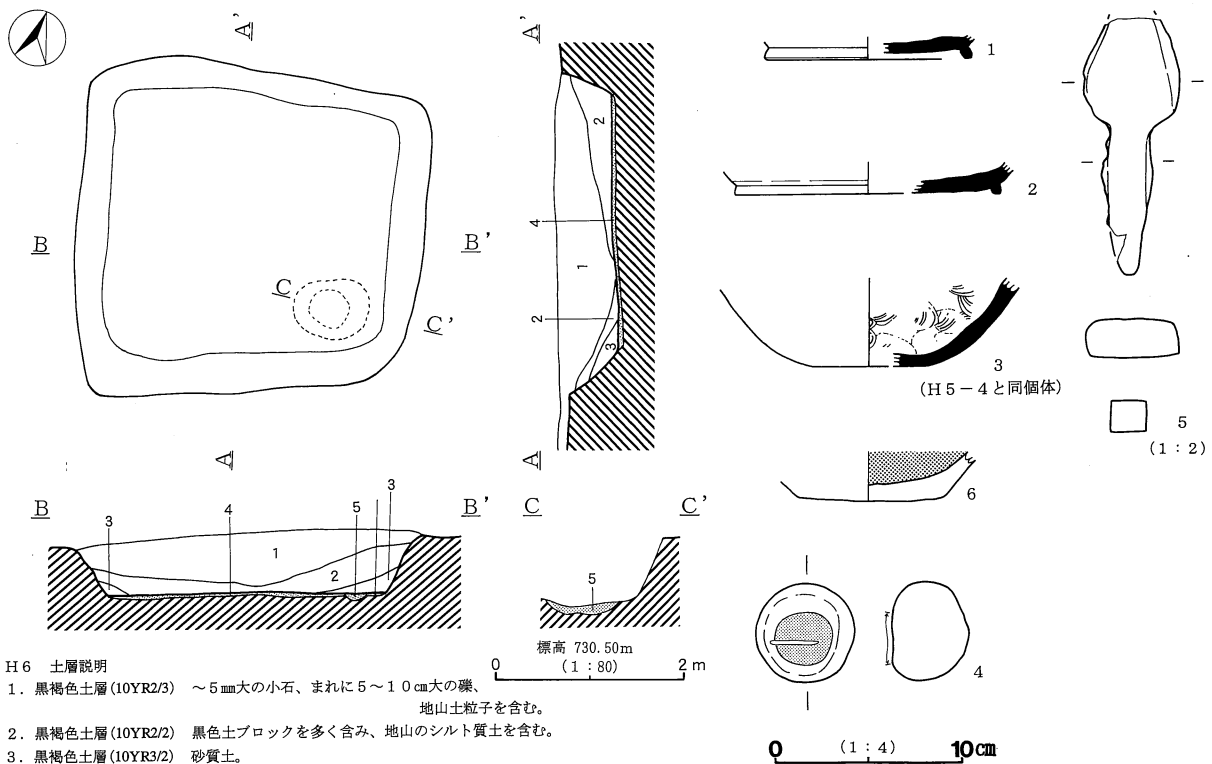
調査区北側のCこ1グリットにある。全体層序第IV・V層で確認され、その層中に掘り込んでいる。大きさ南北268cm 東西292cm と東西に長い方形であるが、西壁と東壁では西壁が長いので台形状になる。主軸は20°西に傾く。このH6号住はカマド、柱穴がいったい検出されていない。

また壁が他の住居址に比べて斜めであり、締まっている。床面は締まり、わずかに貼り床状になるのみで、単に踏み固めた床である。

遺物

出土遺物には須恵器高台付杯・甕、軽石製スリ石、鉄鏃がある。須恵器高台付杯は2点は底部が回転ヘラケズリ後高台が付く。須恵器甕はH5号住と接合し、本址の小破片と接合している。

これらより、時期を決定する資料は乏しいが、接合関係などからH5号住と同期であろうか。



H6 土層説明

1. 黒褐色土層(10YR2/3) ~5mm大の小石、まれに5~10cm大の礫、地山土粒子を含む。
2. 黒褐色土層(10YR2/2) 黒色土ブロックを多く含み、地山のシルト質土を含む。
3. 黒褐色土層(10YR3/2) 砂質土。
4. にぶい黄褐色土層(10YR4/3) ロームブロック、暗褐色土ブロックを含む。(貼り床)
5. 黒褐色土層(10YR2/2) 粘土質ロームブロックを含む。

第19図 H6号住居址

第7表 H6号住居址出土遺物一覧表

挿図番号	器種	法量	成形・調整		残存量・実測種類・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器高台付杯	— 1.2 (11.0)	ロクロ成形 底部 回転ヘラケズリ→高台貼り付け		底部部 1/4 残存 回転実測 灰白(N7/0)	~0.5mm石英・長石粒子 1mm黒色粒子	I区
2	須恵器高台付杯	— 1.6 (14.0)	ロクロ成形 底部 回転ヘラケズリ→高台貼り付け		底部部 1/5 残存 回転実測 灰(N6/0)	~0.5mm黒色・石英・長石粒子	I区
3	須恵器甕	— 4.6 (6.0)	外面 タタキ→ナデ 内面 指頭ナデ圧痕 H5-4と接合		1/10残存 回転実測 明青灰(5PB7/1)	~0.5mm石英・長石粒子	H5 H6 I区
4	スリ石	5.2	5.2	4.1	一面にスリ面		II区2層
5	鉄鏃	<6.8>	2.5	0.9	先端折れる		II区2層
6	土師器杯	— 2.0 7.4	ロクロ成形 底部 回転糸切り→手持ちヘラケズリ 内面ミガキ・黒色処理		底部残存 完全実測 明赤褐(5YR5/6)	~0.5mm長石粒子 1mm石粒子	III区

7) H7号住居址

遺構

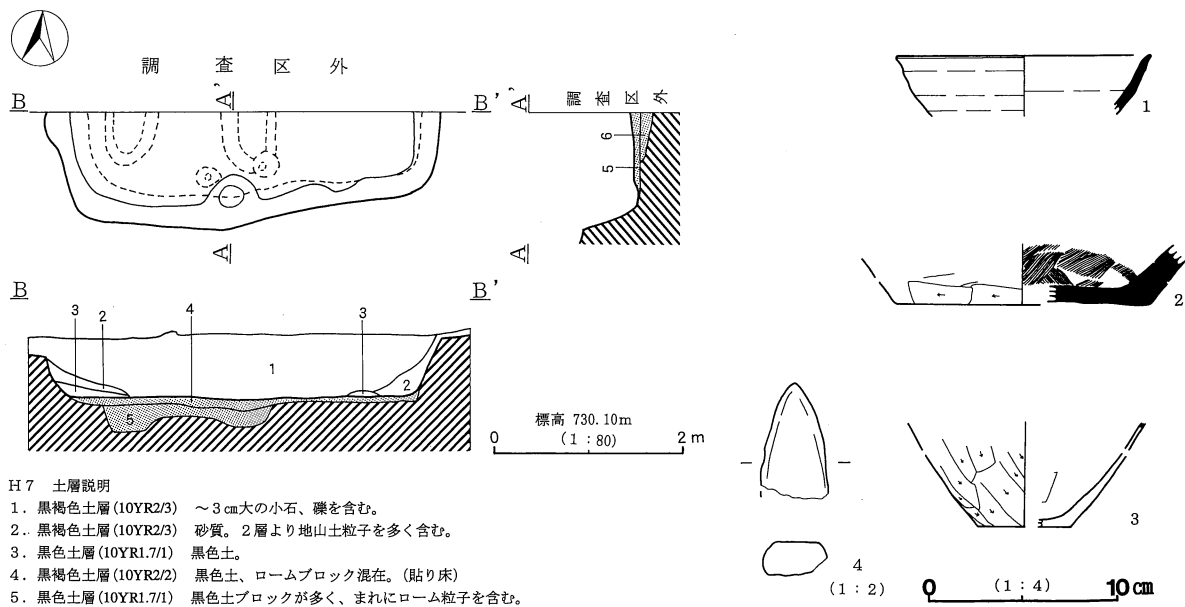
調査区北端で検出され、南端の60cmほど調査したが大半は調査区域外である。Bい7グリットにあり、全体層序第IV層で検出され、第IV・V層中に構築している。東西の長さ372cmを測る。

南端のみ調査で支柱穴・カマドの存在は確認できなかった。

遺物

須恵器杯・須恵器甕・土師器甕・鉄鏃を出土している。

いずれも全器形のわかる資料はなく、時期の決定は困難である。底径の大きい武蔵甕などから、8C代の土器群かと推測される。



第20図 H7号住居址

第8表 H7号住居址出土遺物一覧表

挿図番号	器種	法量	成形・調整	残存量・実測種類・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器杯	13.4 3.2 -	ロクロ成形	口縁部1/4残存 回転実測 灰白(N8/0)	~0.5mm石英・長石粒子 1mm黒色石粒子	
2	須恵器甕	- 3.2 (13.2)	外面胴部・底部 ナデ、胴下部ヘラケズリ 内面 ハケナデ	底部1/10残存 回転実測 灰(N6/0)	~0.5mm黒色・石英・長石粒子	
3	土師器甕	- 5.5 4.8	外面 胴・底部ヘラケズリ 内面 胴部ヘラナデ→ナデ	1/3残存 回転実測 灰褐(7.5YR5/2)	~1mm石英・長石粒子 武蔵甕	
4	鉄鏃	<3.2> 1.8 0.9		先端が残る。		II区2層

第2節 掘立柱建物址

掘立柱建物址は19棟検出された。総柱式が5棟、側柱式が14棟ある。

1) F1号掘立柱建物址

Dあ7グリットにあり、H4号住の北西にある。M1に南東で重複する。全体層序第Ⅲ層で検出され、第Ⅲ・Ⅳ層中に構築されている。砂礫層が検出面であるため容易に検出できなかった。セクションがないものは単独ピットを帰属させた。

2間×2間の総柱で232cmの方形である。主軸は6°西に傾く。

出土遺物はない。時期不明。

2) F2号掘立柱建物址

Dあ5グリットにあり、F1の北にある。全体層序第Ⅲ層で検出され、第Ⅲ～Ⅴ層中に構築されている。2間×2間の総柱で、桁行が372cm 梁間が300cmを測る。主軸は20°西に傾く。円形のピットで柱痕が明確で、60cmと深いものがある。

出土遺物は9片200gで、須恵器杯、土師器武蔵甕・丸底の杯がある。9C前半の須恵器杯片が後出である。

3) F3号掘立柱建物址

Cけ7にあり、H4号住に北側を切られている。全体層序第Ⅴ層で検出され、第Ⅴ層中に構築されている。3間×2間の側柱式の掘立柱建物址である。桁行624cm 梁間440cmを測る東西棟である。主軸は15°西に傾く。柱穴は溝持ちで長さ130cm 深さ60cmほどの規模に掘っている。

出土遺物はない。9C前半のH4号住に切られるのでそれ以前の8C代の遺構であろう。

4) F4号掘立柱建物址

Cく5グリットにあり、H2号住の北にある。D2を切る。全体層序第Ⅴ層で検出され、第Ⅴ層中に構築されている。3間×2間の側柱式で、桁行568cm 梁間424cmの東西棟である。主軸は23°北に傾く。柱穴は円形基調の径48cm以上を測る大きいものである。出土遺物は18片90gある。須恵器杯片、武蔵甕片である。8C前半のものが多いが、P4から8C末～9C代の須恵器杯片がでている。

5) F5号掘立柱建物址

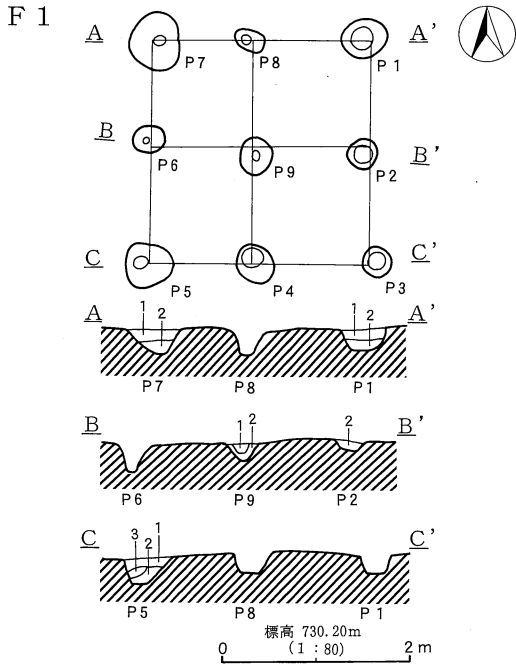
Cき5グリットにあり、F11号掘立を切る。全体層序第Ⅴ層で検出され、第Ⅴ層中に構築されている。3間×2間の南北棟で桁行520cm 梁間368cmを測る。主軸は23°西に傾く。柱穴は不揃いで、P2・P4・P6は横に付属するように小ピットがある。

出土遺物が掘立柱建物址にしては多く、32片260gある。実測個体は須恵器杯で底部回転糸切りされる。この他に破片は武蔵甕・須恵器杯がある。これらより、8C末～9C前半の遺構であろう。

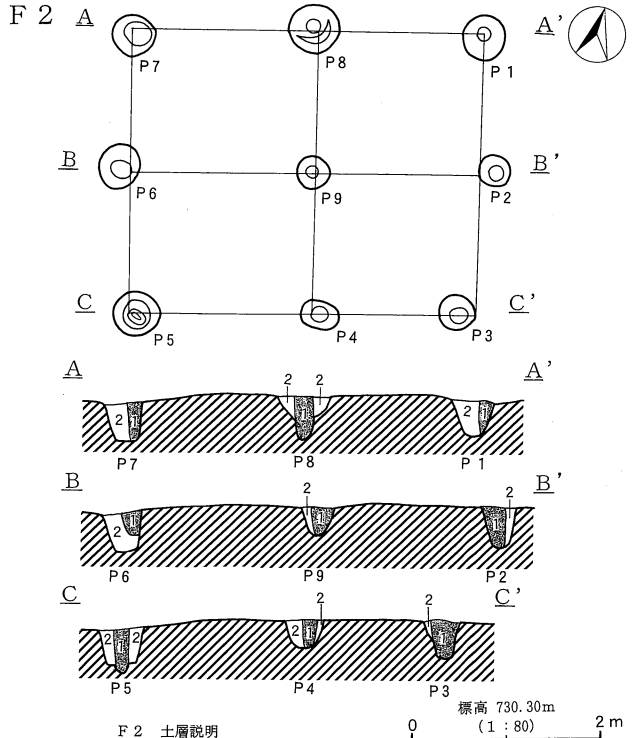
6) F6号掘立柱建物址

Cけ6グリットにあり、H4住に南側を切られている。全体層序第Ⅲ・Ⅳ層で検出され、第Ⅲ・Ⅳ層中に構築されている。ただし、重複部分はほぼ同色であるため、新旧は明確ではない。南がないがこの規模からして、2間×2間の総柱であろう。桁行332cmを測る。主軸は北を指す。

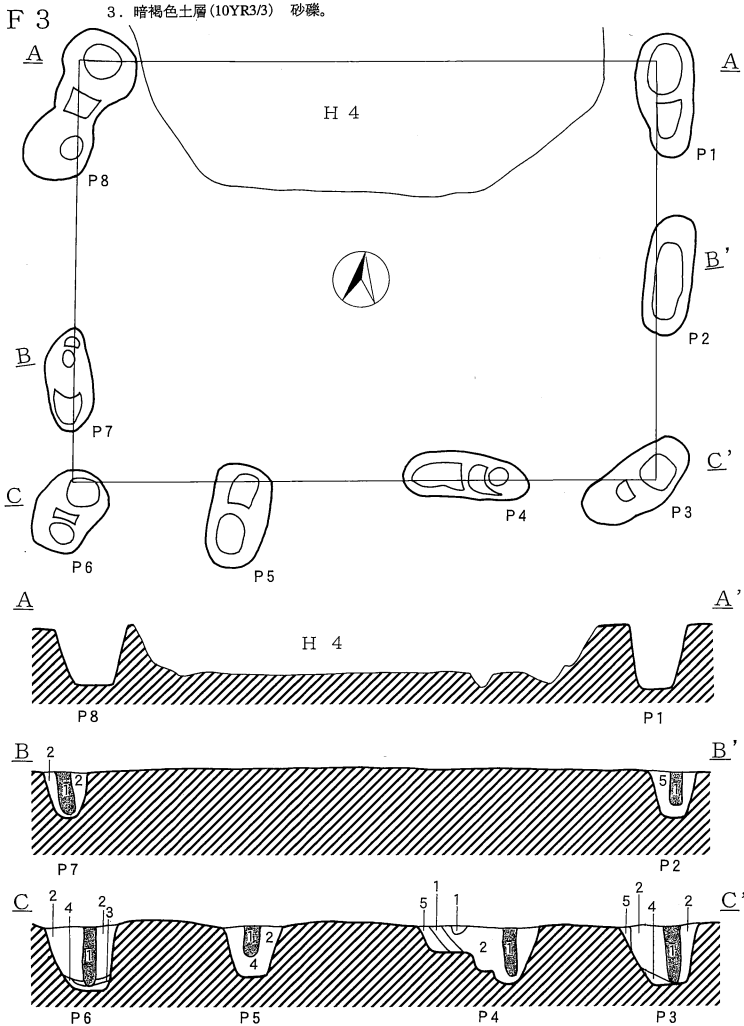
出土遺物は須恵器杯と武蔵甕の6片20gがあり、実測個体の須恵器杯は底部ヘラケズリされる。H4住が8C末～9C前半の住居とするとそれ以前の8C代のものだろうか。



- F 1 土層説明
1. 黒褐色土層 (7.5YR3/2) 砂質土。
 2. 暗褐色土層 (7.5YR3/4) 砂、シルト質土混合層。
 3. 暗褐色土層 (10YR3/3) 砂礫。

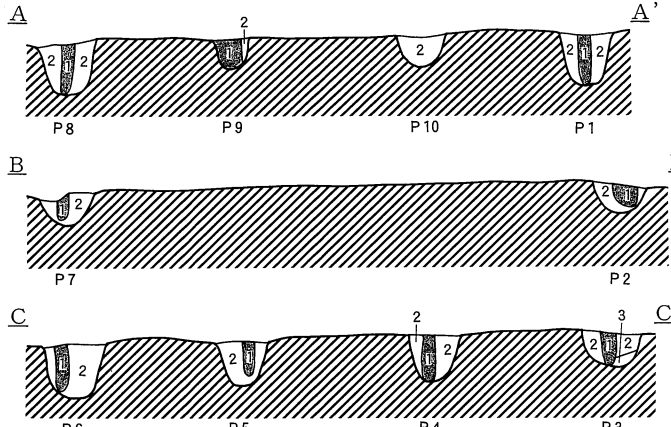
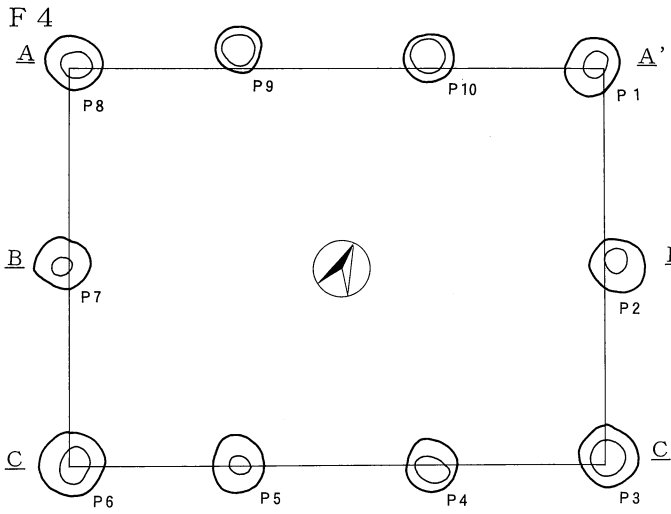


- F 2 土層説明
1. 暗褐色土層 (10YR3/4) ~1cm大の円礫を多く含む。砂質。(柱痕)
 2. 暗褐色土層 (10YR3/3) ~5cm大の円礫、地山砂を含む。(ピット埋土)

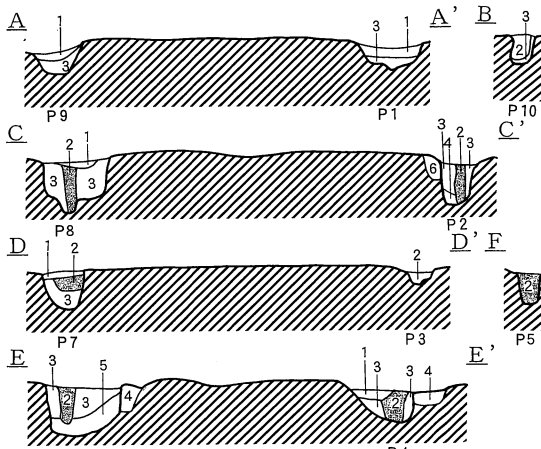
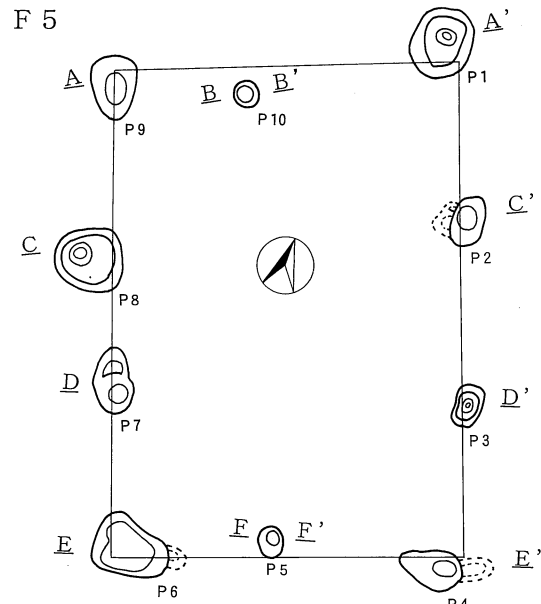
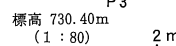


- F 3 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/2) 炭化物粒子を含む。(柱痕)
 2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 黄褐色 (10YR5/8) ロームブロック、バミスを含む。
 3. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子、バミスを含む。
 4. 黄褐色土層 (10YR5/8) ローム主体。
 5. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子を多く含む。

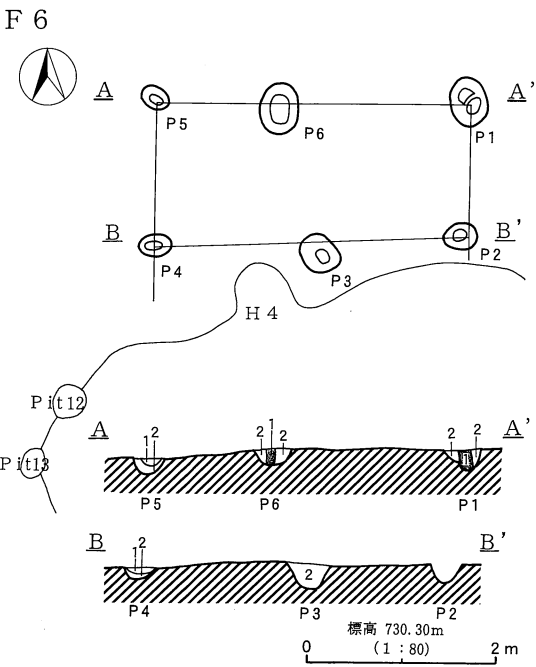
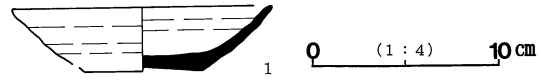
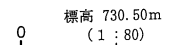
第21図 F 1・F 2・F 3号掘立柱建物址



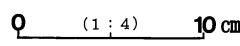
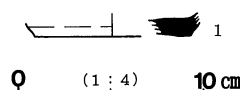
F4 土層説明
 1. 黒褐色土層(10YR2/2) 縮まりなし。(柱痕)
 2. 黒褐色土層(10YR2/3) 地山の土粒子を含む。
 3. 暗褐色土層(10YR3/4) ローム粒子を多く含む。



F5 土層説明
 1. 黒褐色土層(10YR2/3) 砂質。
 2. 黒褐色土層(10YR2/3) 縮まりなし。(柱痕)
 3. 黒褐色土層(10YR2/3) 地山土ブロックを含む。
 4. 暗褐色土層(10YR3/4) ローム粒子、ロームブロックを多く含む。
 5. 黒褐色土層(10YR2/2) ローム粒子を含む。
 6. 黒褐色土層(10YR2/2) 柱痕。



F6 土層説明
 1. 黒褐色土層(10YR3/2) 砂質。(柱痕)
 2. 黒褐色土層(10YR2/3) 地山の黒色土、小石を含む。



第22図 F4・F5・F6号掘立柱建物址

7) F 7号掘立柱建物址

H 1号住の北にあり、Cか6グリットにある。全体層序第V層で検出され、第V・VI層中に構築されている。すぐ南H 1号住、東は調査区域外のため1間×1間であるのか、東または南に続く遺構であるのかはわからない。東西176cm 南北260cm を測り、北に長い。

出土遺物は須恵器甕と武蔵甕片がある。8 C前半のものであろう。

8) F 8掘立柱建物址

Cく1グリットにあり、H 5住・F 9を切り、東は調査区域外である。全体層序第III層で検出され、第III～V層中に構築されている。側柱式で梁間は404cm を測り、桁行はわからないが、桁行の柱間は160cm と240cm で中央の柱間が広い。主軸は20° 西に傾く。砂礫層中に掘り込まれていたためかピットが深く大きい。

出土遺物には須恵器杯、甕、武蔵甕の4片100gがある。これらは8 C末～9 C前半の土器片であろう。

9) F 9掘立柱建物址

Cく2グリットにあり、F 8に切られH 5住を切る。東は調査区域外である。全体層序第III層で検出され、第III・IV層中に構築されている。側柱式の桁行2間以上、梁間2間340cm のところに120cm の縁側がたされる。主軸は13° 西に傾く。

出土遺物は須恵器甕1片150gと実測個体の須恵器蓋がある。須恵器蓋は端部を折り返している。

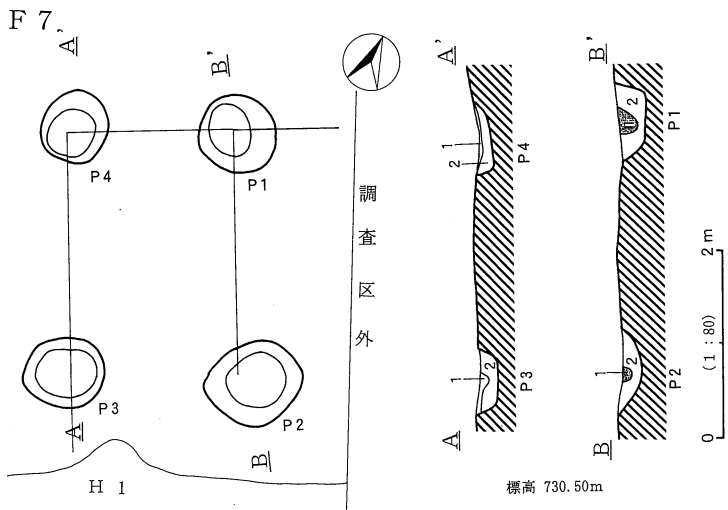
10) F 10掘立柱建物址

Cき4グリットにあり、F 11を切っている。全体層序第IV・V層で検出され、同じ層中に構築されている。3間×2間の総柱式で、桁行448cm 梁間368cm を測る。主軸は22° 西に傾く。柱穴は円形基調で径28cm～44cm 深さ20～48cm と比較的小規模である。

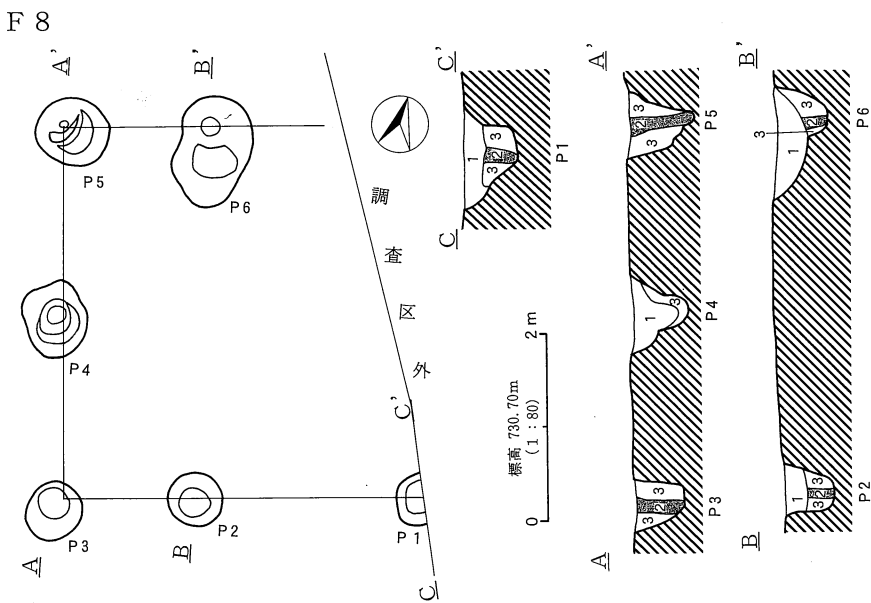
出土遺物には実測個体の須恵器杯、砥石があり、破片では須恵器甕、須恵器杯、土師器武蔵甕、8片100gがある。須恵器杯底部は回転糸切りされる。砥石は砂岩製である。8 C末～9 C前半の土器か。

第9表 掘立柱建物址出土遺物一覧表

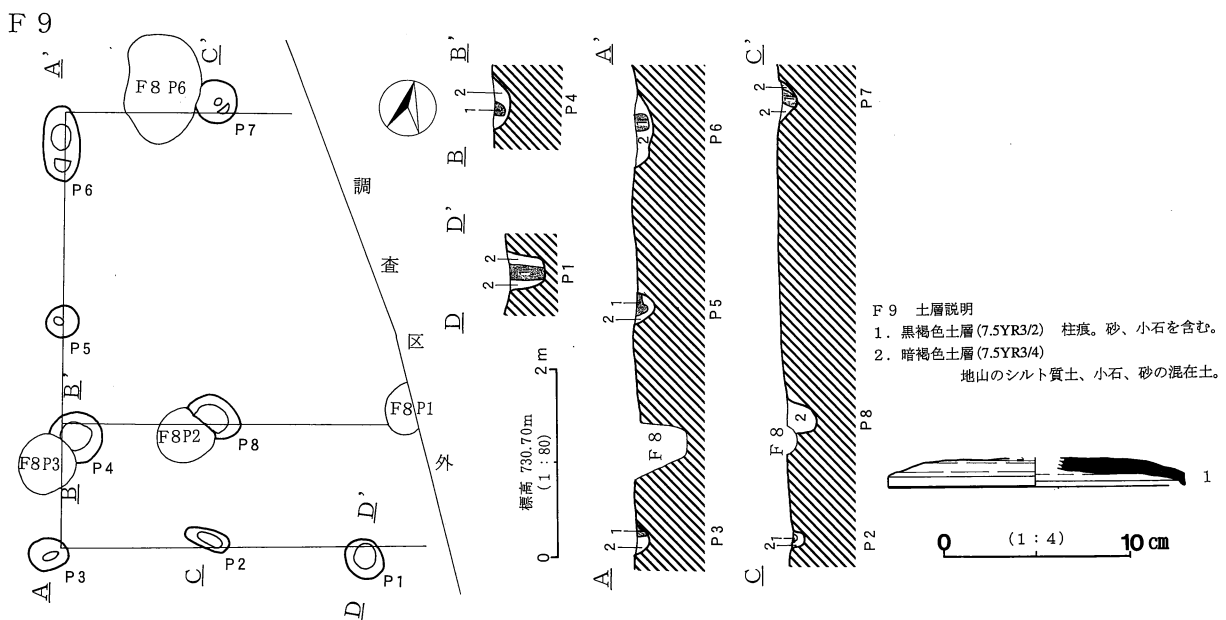
挿図番号	器種	法量	成形・調整		残存量・実測種類・色調	胎土・特徴	出土位置
F 5-1	須恵器杯	(13.8) 3.4 6.3	ロクロ成形 底部 回転糸切り		1/3 残存 回転実測 灰白 (N 8/0)	～0.5mm 石英・長石粒子 1mm 黒色粒子 火だすき痕あり	P 1
F 6-1	須恵器杯	— 1.2 (4.2)	ロクロ成形 底部 ヘラケズリ		底部 1/4 残存 回転実測 灰白 (N 8/0)	～0.5mm 石英・長石粒子 1mm 黒色粒子	P 3
F 9-1	須恵器蓋	(15.8) 1.5	ロクロ成形 外面 天井部回転ヘラケズリ		つまみ欠損、1/3 残存 回転実測 灰褐 (5 Y 6/2)	～0.5mm 石英・長石粒子 1mm 黒色粒子 火だすき痕あり	P 1
F 10-1	須恵器杯	(14.3) 4.5 7.9	ロクロ成形 底部 回転糸切り		2/3 残存 完全実測 灰 (10 Y 6/1)	～0.5mm 石英・長石粒子 1mm 黒色粒子 火だすき痕あり	P 10
F 10-2	砥石 砂岩	8.0	4.2	3.6	3面使用面あり		P 9
F 11-1	須恵器杯	(13.0) 4.1 (6.5)	ロクロ成形 底部 回転糸切り		1/3 残存 回転実測 灰白 (N 7/0)	～0.5mm 石英・長石粒子 1mm 黒色粒子 火だすき痕あり	P 7
F 11-2	土師器甕	— 3.7 (4.8)	外面 胴・底部ヘラケズリ 内面 胴部ヘラナデ→ナデ		1/2 残存 回転実測 にぶい橙(7.5 Y R 7/3)	～1mm 石英・長石粒子 武蔵甕	P 8
F 13-1	須恵器甕	—	外面 タタキ 内面 ナデ		灰白 (2.5 Y R 8/2)	～1mm 石英・長石粒子	
F 15-1	須恵器蓋	(12.0) 2.0	ロクロ成形 外面 天井部回転ヘラケズリ		つまみ欠損、1/10 残存 回転実測 灰白 (N 8/0)	～0.5mm 黒色・石英・長石 粒子	P 3
F 19-1	土師器甕	— 3.7 (6.0)	外面 胴・底部ヘラケズリ 内面 胴部ヘラナデ→ナデ		1/4 残存 回転実測 にぶい橙 (5 Y R 6/3)	～1mm 石英・長石粒子 球胴形武蔵甕	P 4



- F 7 土層説明
1. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子、バミスを含む。
 2. 黄褐色土層 (10YR5/8) ローム主体。



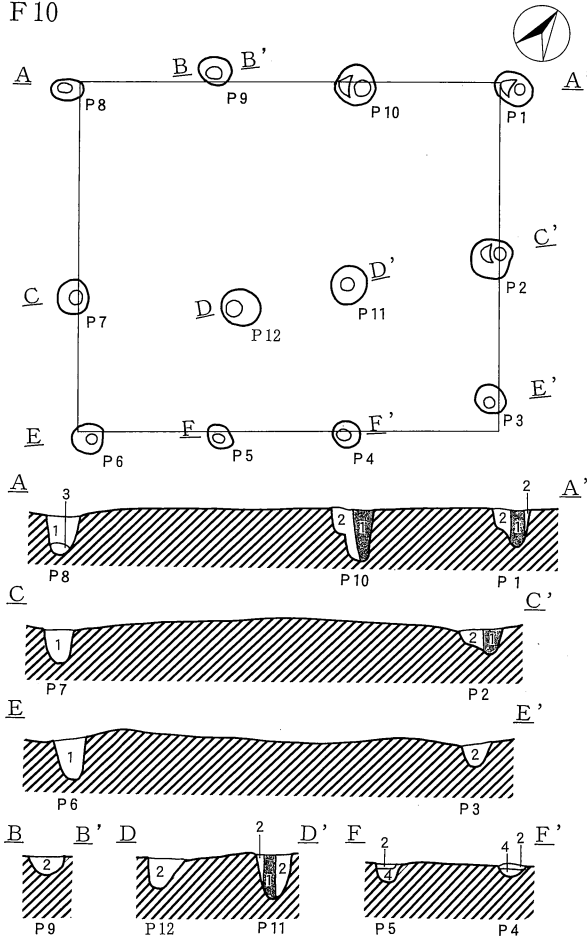
- F 8 土層説明
1. 暗褐色土層 (10YR3/4) 砂礫層。
 2. 暗褐色土層 (10YR3/3) 柱痕。
 3. 暗褐色土層 (7.5YR3/4) 砂礫層。



- F 9 土層説明
1. 黒褐色土層 (7.5YR3/2) 柱痕。砂、小石を含む。
 2. 暗褐色土層 (7.5YR3/4) 地山のシルト質土、小石、砂の混在土。

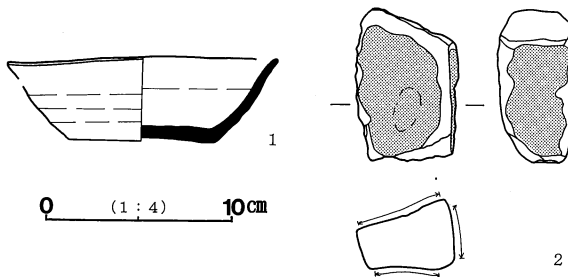
第23図 F 7・F 8・F 9号掘立柱建物址

F 10

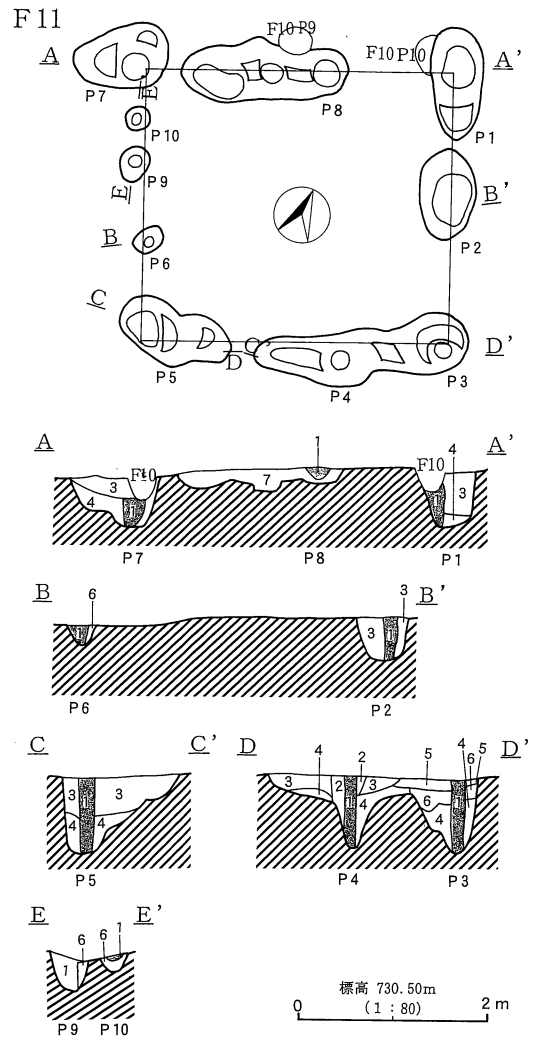


F 10 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 柱痕。
2. 黒褐色土層 (10YR2/3) ~5mmの小石、地山を多く含む。
3. 黄褐色土層 (10YR5/8) ローム主体。
4. 暗褐色土層 (10YR3/3) ローム、パミスを多く含む。

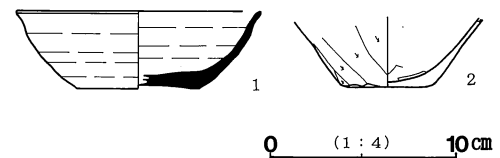


F 11



F 11 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 柱痕。
2. 黒褐色土層 (10YR2/3) ローム粒子を含む。
3. 黒褐色土層 (10YR2/3) ロームブロック、パミスを含む。
4. 暗褐色土層 (10YR3/4) ロームブロックを多量に含む。
5. 黄褐色土層 (10YR5/8) ローム主体。
6. 黒褐色土層 (10YR2/2) ローム粒子を含む。
7. 黒褐色土層 (10YR2/3) 砂質。小石を多く含む。



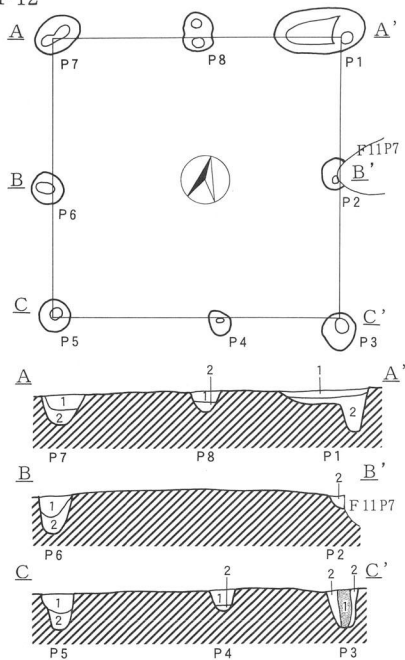
第24図 F10・11号掘立柱建物址

11) F 11号掘立柱建物址

Cき4グリットにあり、F 5・F10に切られる。全体層序第IV・V層で検出され、第IV～VI層中に構築されている。2間×2間の側柱式で、桁行き328cm 梁間304cm を測る。主軸は22°西に傾く。柱穴は溝持ちで、P 3・P 4は連続し長径228cm 深さ87cm と大きい。

出土遺物には須恵器杯、須恵器甕、土師器武蔵甕がある。実測個体は須恵器杯で、底部回転糸切りである。破片は17片150gある。8 C末～9 C前半のものであろう。

F 12

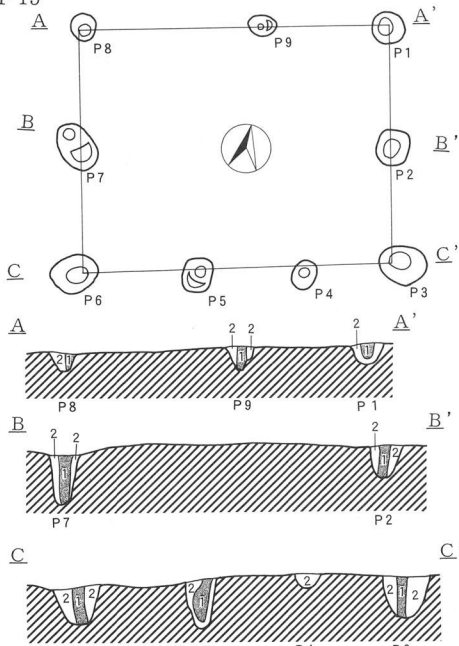


標高 730.40m
(1 : 80) 2 m

F 12 土層説明

1. 暗褐色土層 (10YR3/4) 砂質。～5mm次の小石を多く含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/3) 小石、黒色土ブロックを含む。

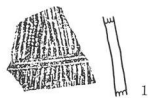
F 13



標高 730.70m
(1 : 80) 2 m

F 13 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 柱痕。小石を含む。絨まりなし。
2. 黒褐色土層 (10YR2/3) 地山土、小石を多く含む。



0 (1 : 4) 10 cm

12) F 12号掘立柱建物址

C け4グリットにあり、F 11に切られる。全体層序第IV層で検出され、第Ⅲ～Ⅴ層中に構築されている。2間×2間の側柱式で桁行352cm 梁間340cmを測る。主軸は16°西に傾く。出土遺物はない。8 C代の遺構か。

13) F 13号掘立柱建物址

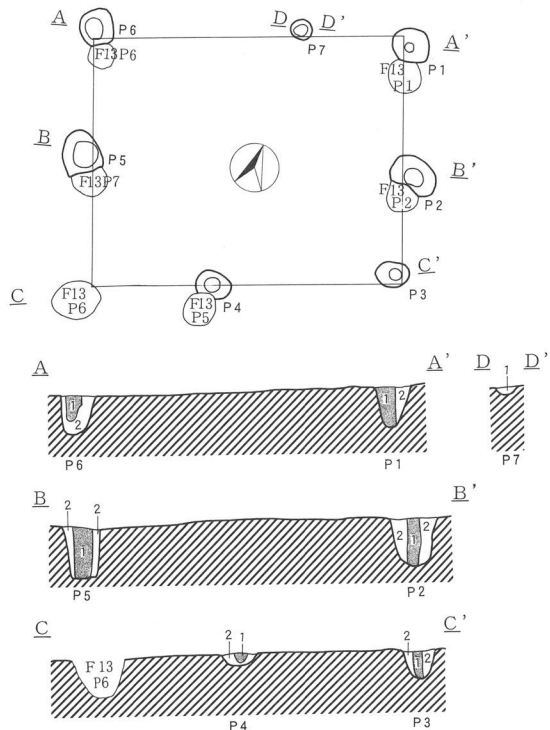
C け1グリットにあり、F 14を切る。全体層序第IV層で検出され、第Ⅳ・Ⅴ層中に構築されている。3間×2間、側柱式で、桁行380cm 梁間292cmを測る。

主軸は17°西に傾く。出土遺物は多く、須恵器甕・壺、須恵器杯、土師器武蔵甕・ロクロ甕、内面黒色処理鉢、41片500gがある。8 C末～9 C前半の土器であろうか。

14) F 14号掘立柱建物址

C け1グリットにあり、F 13に切られる。全体層序第IV層で検出され、Ⅳ・Ⅴ層中に構築。2間×2間の側柱式で、桁行384cm 梁間300cmを測る。主軸は19°西に傾く。出土遺物は須恵器甕・高台付杯、武蔵甕で34片170gである。F 13と同位置にあるので近い時期で、古い。

F 14



標高 730.70m
(1 : 80) 2 m

F 14 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR2/3) 柱痕。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) 地山土ブロック、小石を多く含む。

第25図 F 12・F 13・F 14号掘立柱建物址

15) F 15掘立柱建物址

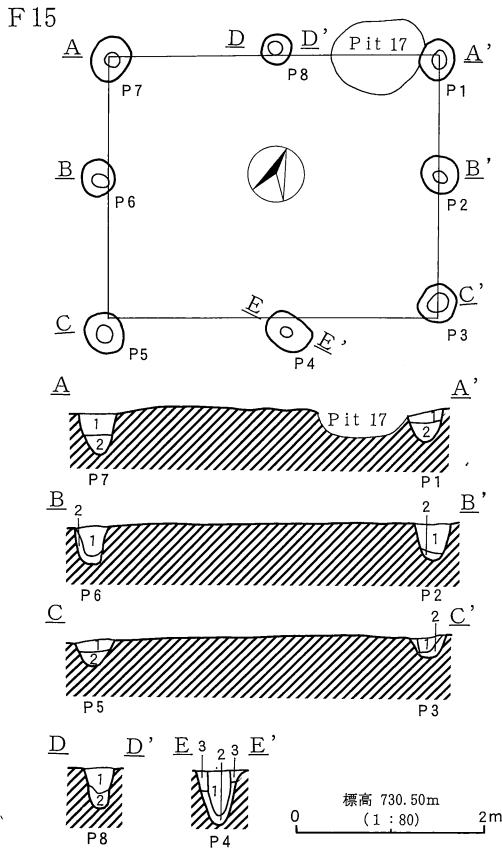
Cけ3グリットにあり、単独P17に切られる。全体層序第IV層で検出され、第IV・V層中に構築されている。2間×2間の側柱式で、桁行348cm 梁間276cm を測る。桁行の中央ピットが隅柱穴のラインより外にある。主軸は17° 西に傾く。

出土遺物は須恵器甕、須恵器杯、土師器武蔵甕 8片80gがあり、実測個体は、須恵器蓋である。須恵器蓋は端部が折り返されるものである。これらより8 C前半のものであろう。

16) F 16掘立柱建物址

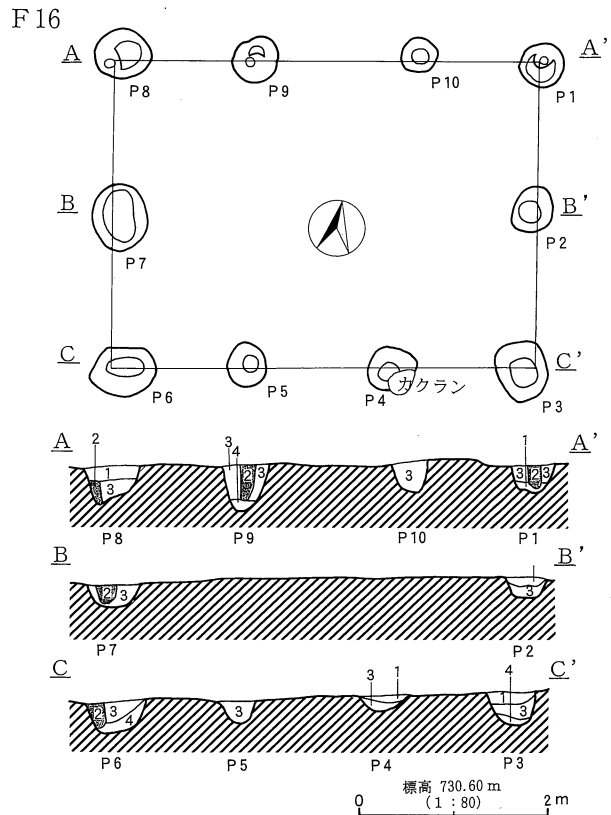
調査区北側Aこ9グリットにあり、F18を切る。全体層序第IV層で検出され、第IV～VI層中に構築されている。3間×2間の側柱式で桁行448cm 梁間328cm を測る。主軸は10° 西に傾く。

出土遺物はない。F18が8 C前半かそれ以降であることから本址は8 C前半以降の遺構である。



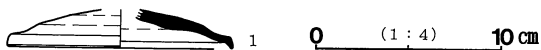
F 15 土層説明

1. 黒褐色土層 (10YR3/2) 砂質。～1cm大の小石を多量に含む。
2. 黒褐色土層 (10YR2/2) ～5mm大の小石を含む。
3. 暗褐色土層 (10YR3/4) 地山のシルト質土を多く含む。



F 16 土層説明

1. 暗褐色土層 (10YR3/4)
2. 黒褐色土層 (10YR2/3) 柱痕。
3. 黒褐色土層 (10YR3/2) ピット埋土。
4. 褐色土層 (10YR4/4) ローム主体に黒色土ブロックを含む。



第26図 F15・16号掘立柱建物址

17) F 17号掘立柱建物址

調査区北のBう9グリットにあり、西は調査区域外である。梁間2間520cmを測る。桁行はわからない。円形で径64~68cmの規模の大きい柱穴である。主軸は5°西に傾く。

出土遺物はない。時期不明。

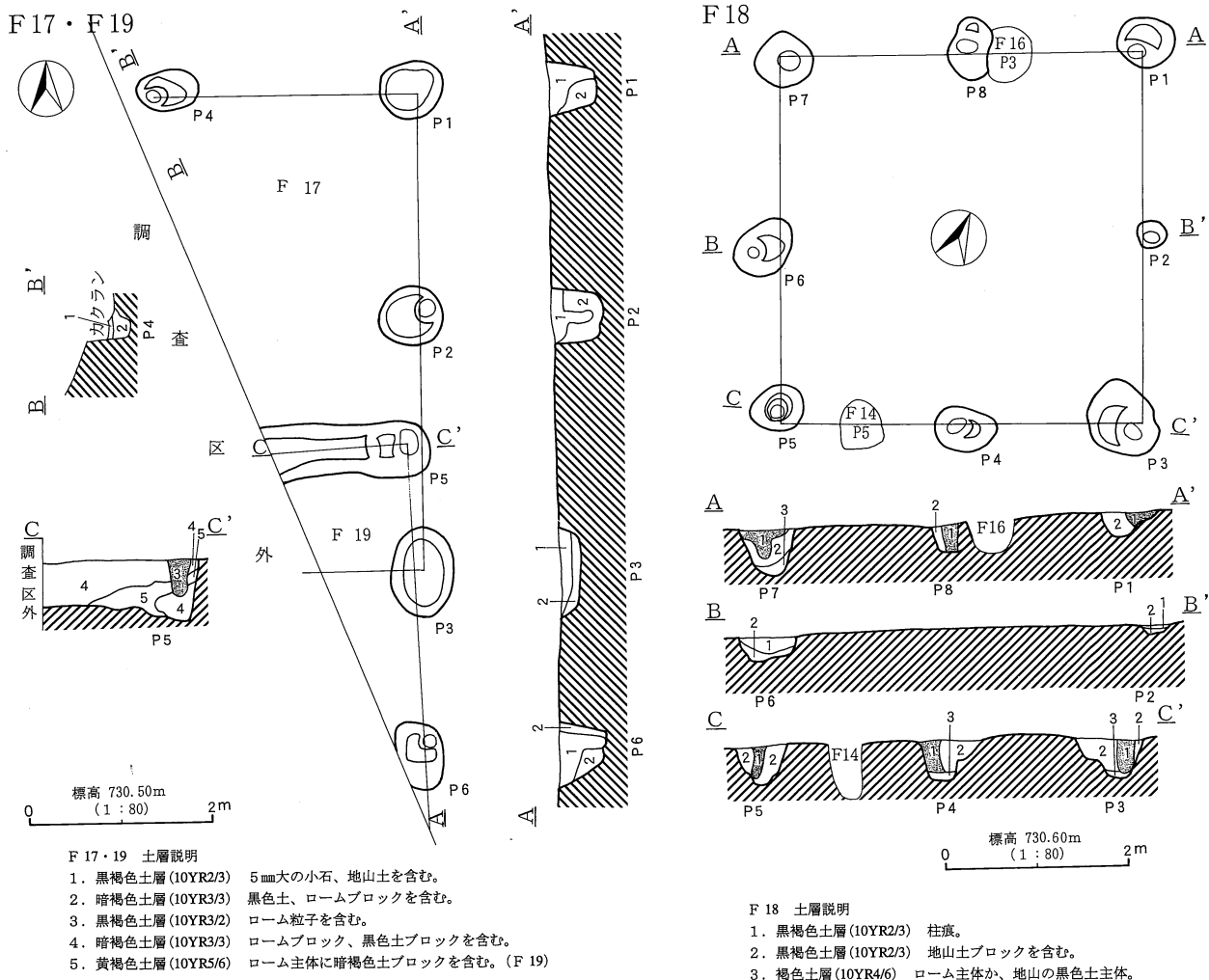
18) F 18号掘立柱建物址

調査区北側Aこ8グリットにあり、F 16に切られる。全体層序第IV・V層で検出され、第IV~VI層中に構築。2間×2間の側柱式で桁行き396cm、梁間408cmを測る。主軸は26°西に傾く。

出土遺物には須恵器甕・壺、土師器杯・武蔵甕・丸胴甕8片90gがある。8C前半のものであろう。

19) F 19号掘立柱建物址

Bう10グリットにあり、F 17と重なる位置にある。全体層序第IV層で検出され、第IV~VI層中に構築されている。西側が調査区域外のため北東の2個のピットが検出された。溝持ちである。明確ではないが主軸は10°西に傾く。出土遺物は須恵器横瓶、須恵器甕、土師器は内面黒色杯3片220gがある。8c前半のものであろうか。



第27図 F 17・F 19・F 18号掘立柱建物址

第3節 単独ピット

85個の単独ピットが検出された。これらは調査区中央に集中し、住居址や掘立柱建物址のない空間にみられる。詳細は一覧表に示す。

第4節 土坑

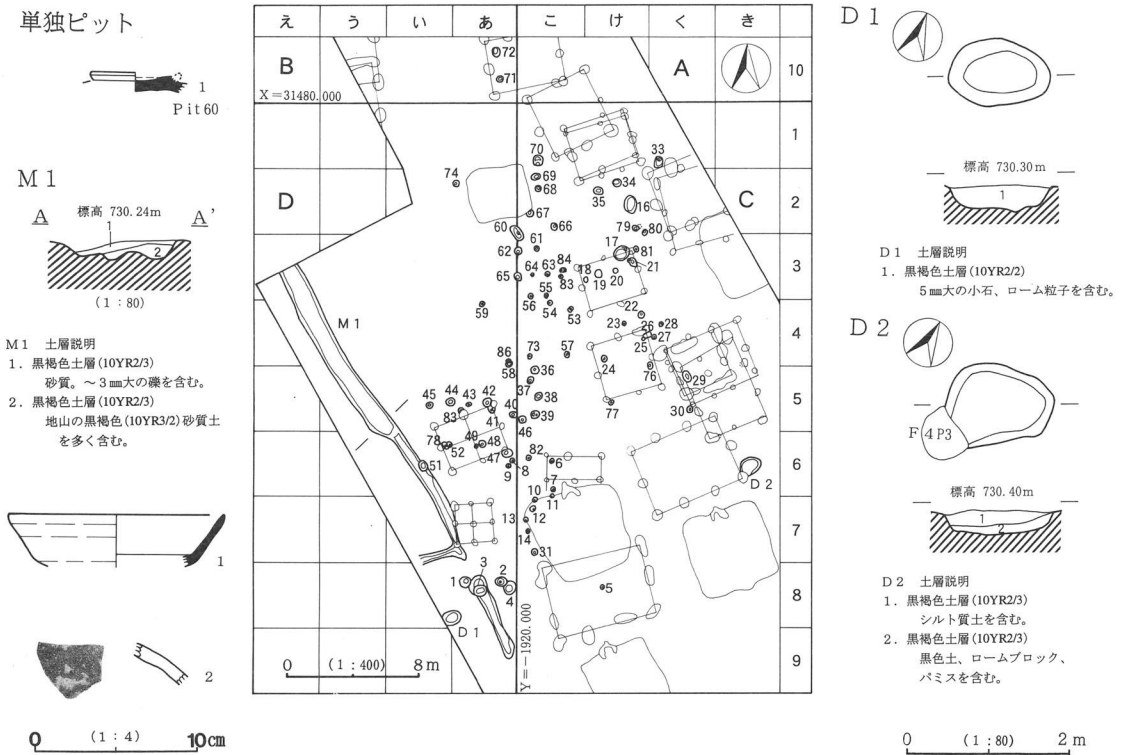
2基のを検出した。詳細は一覧表に示す。

D 1からは須恵器甕のタタキのあるものが1片出土している。

第5節 溝址

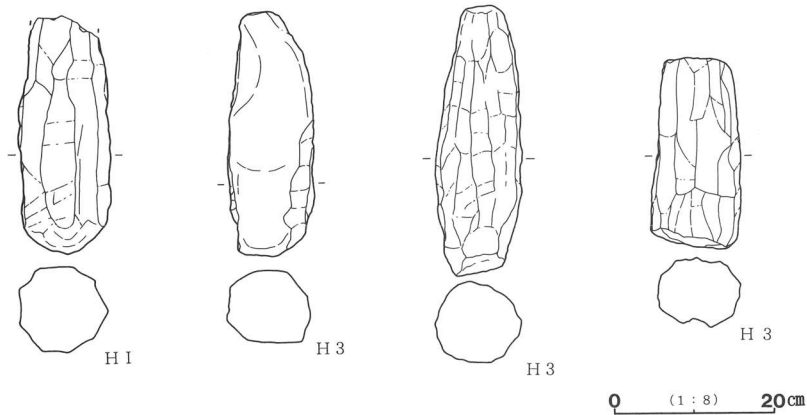
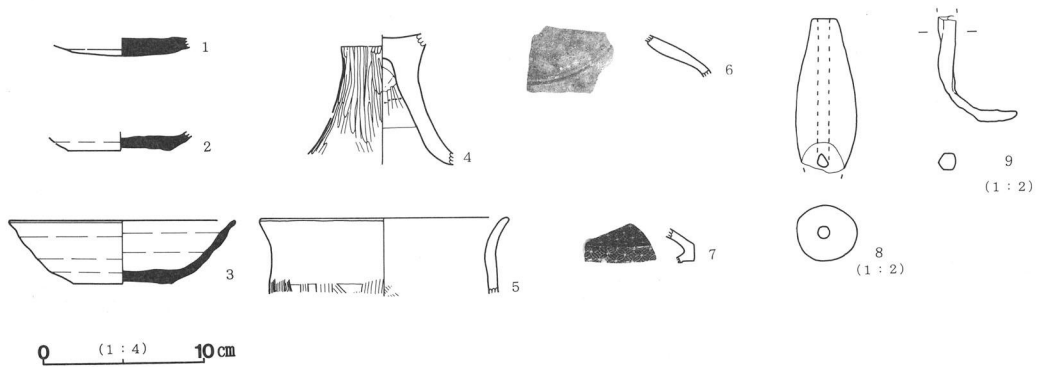
調査区の東端に北西方向に向かう溝が1本検出された。幅120cm 深さ0~10cmを測る。本遺跡の西端にあり、遺構群と同一方向であり、区画という性格があるのかもしれない。

出土遺物は須恵器甕・杯、土師器武蔵甕・杯が600gある。須恵器杯は回転糸切りとヘラケズリの両者がある。これらより8C末~9C代のものであろう。



第10表 単独ピット・M I 溝址出土遺物一覧表

挿図番号	器種	法量	成形・調整	残存量・実測種類・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器蓋	— 1.2	ロクロ成形	つまみ残存 完全実測 灰白 (N 7 / 0)	~0.5mm黒色・石英・長石 粒子 外面自然釉付着	単独P 60
M 1 - 1	須恵器杯	(13.1) 3.2	ロクロ成形 外面 天井部回転ヘラケズリ	つまみ欠損、1/10残存 回転実測 灰白 (N 8 / 0)	~0.5mm黒色・石英・長石 粒子	
M 1 - 2	陶器瓶					



第29図 表採・グリット・検出面出土遺物, H1・H3号住居址出土支脚石

第11表 表採・グリット・検出面出土遺物一覧表

挿図番号	器種	法量	成形・調整	残存量・実測種類・色調	胎土・特徴	出土位置
1	須恵器 杯	— 1.1 6.3	ロクロ成形 底部 回転ヘラ切り→ナデ	1/2 残存 回転実測 灰白 (N 7 / 0)	~0.5mm 石英・長石粒子 まれに 1mm 黒色粒子	表採
2	須恵器 杯	— 2.1 6.2	ロクロ成形 底部 回転糸切り	底部残存 完全実測 灰白 (N 7 / 0)	~0.5mm 石英・長石粒子 まれに 1mm 黒色粒子	検出
3	須恵器 杯	(13.8) 3.9 6.0	ロクロ成形 底部 回転糸切り	1/2 残存 回転実測 灰 (10Y 6 / 1)	~0.5mm 石英・長石粒子 1mm 黒色・長石粒子 内面 磨耗	C 5
4	土師器 高杯	— 7.9 —	外面 ミガキ 内面 杯部ミガキ黒色処理	脚 1/4 残存 完全実測 橙 (7.5YR 7 / 6)	~0.5mm 石英・長石粒子 1mm 赤色粒子	D い 6
5	土師器 甕	(15.2) 4.7 —	外面 口縁部横ナデ→胴部ナデ 内面 横ナデ	破片・肩部 回転実測 にぶい褐 (7.5YR 5 / 4)	~0.5mm 石英・長石粒子 まれに 1mm 黒色粒子	C け 7
6	陶器 瓶		ロクロ成形	破片 灰白 (N 8 / 0)	~0.5mm 以下粒子 0.5mm 黒色粒子	B う 9
7	磁器 蓋		青花	ほぼ残存		C か 5
8	土製品 錘	4.8 1.9			~0.5mm 石英・長石粒子	検出
10	角釘	4.3 0.4				検出

第V章 総括

本遺跡からは7棟の竪穴住居址が検出され、出土した遺物から奈良～平安時代前葉の集落であることがわかった。掘立柱建物址は19棟検出され、総柱式5棟、側柱式14棟である。掘立柱建物址の該当期は出土遺物が少なく、破片であるため決定資料を欠くが、遺物のまるきりないF1・F16をのぞいて奈良から平安時代初頭の土器片を含んでいることから、竪穴住居址と同一期のものと推測される。掘立柱建物址の数量が多いのはほぼ同位置に重複しているF10・F11、F8・F9、F13・F14などは竪穴住居址が床下に旧住居址プランを持っていたことからすれば同様に近い時期の建て替えである。溝持ちの掘立（F3・F11・F12・F19）は8C代で古い時期の遺構である。また東の末調査区に新たなしかもこの時期に近い竪穴住居址の存在があることを示しているのであろう。

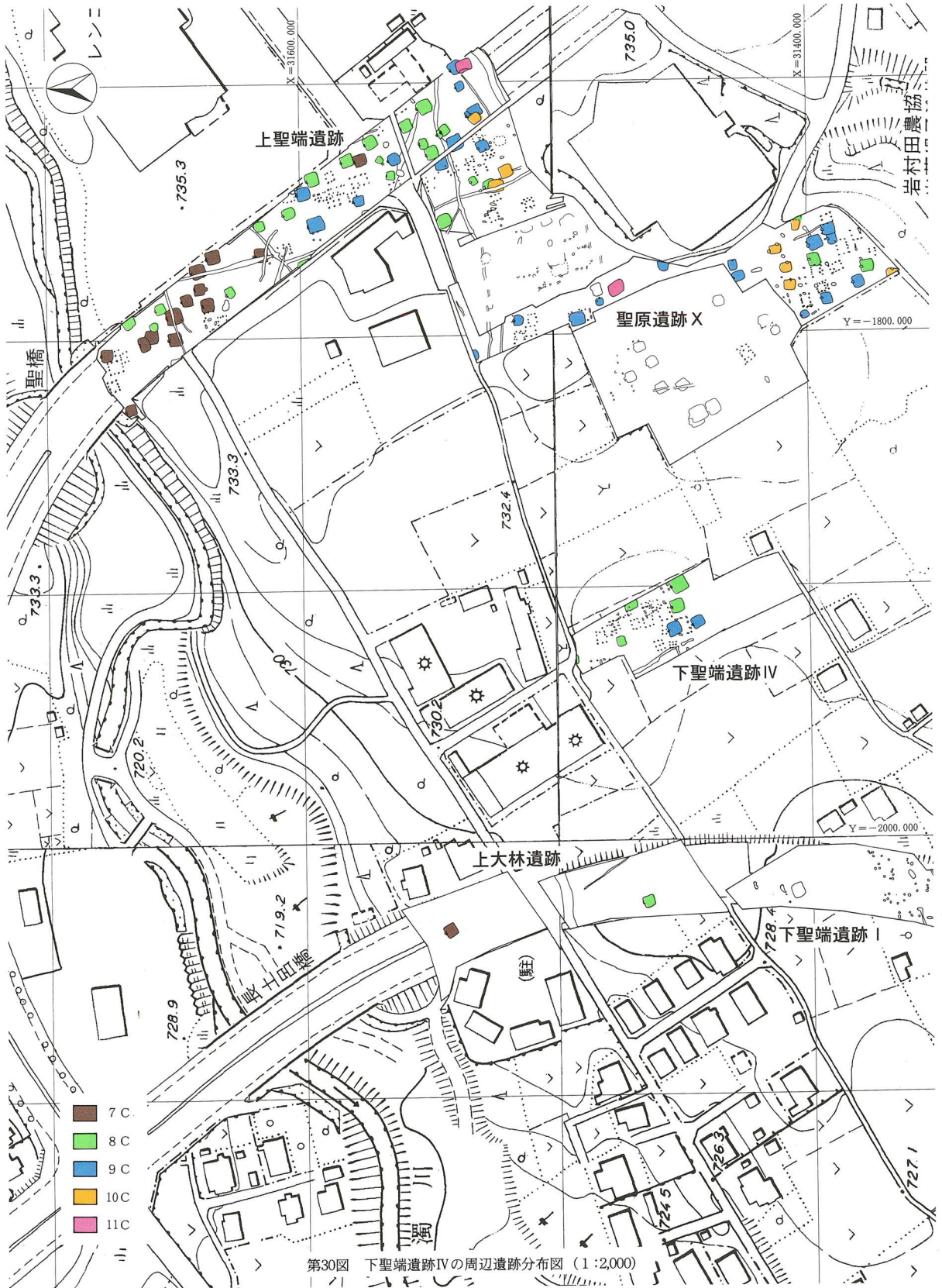
第30図は遺跡周囲の遺構分布図であるが、本遺跡が東の聖原集落の続きであることがわかる。上聖端遺跡は北側の台地の端に古墳時代後期の竪穴住居址が密集し、台地の中央は奈良時代の竪穴、南端は平安の集落が密集している。今回の調査地点は台地の中央部にあたり、奈良時代～平安の竪穴を中心に展開している。これは上聖端地点と同様である。東に続く聖原遺跡Ⅰ・Ⅲ～Ⅵ・Ⅸの900棟に上る竪穴住居址の存在を考慮すると（未報告なので図は掲載してない。）この遺跡群の広がり膨大さが見える。今回の調査では反対側の西端の広がりが本調査域で確認されたことになる。奈良時代の竪穴住居址は長土呂遺跡群・その北の芝宮遺跡群、さらに北の周防端畑遺跡群、鋳物師屋遺跡群において、多数検出されている。

今回の本遺跡の集落は土器の編年から8C第2四半期から9C初頭にかけての集落であることが推測される。約75年の間連続して営まれたものと思われる。ほぼ2棟同時期の竪穴住居址が3時期確認され単位として継続した可能性がある。

竪穴住居址に重複関係がなかったことから遺物の混入や、破損が少なく、この時期の良好な資料が得られたことが大きな成果である。

引用参考文献

1. 1993 佐久市教育委員会 『長土呂遺跡群上聖端遺跡』
2. 1997 佐久市教育委員会 『長土呂遺跡群聖原遺跡Ⅹ』
3. 1987 御代田町教育委員会 『鋳師屋遺跡群前田遺跡』
4. 1991 (財)長野県埋蔵文化財センター 『上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書2－佐久市内その2－本文編』
5. 1994 小諸市教育委員会 『東下原・大下原・竹花・舟窪・大塚原』
6. 1990 (財)長野県埋蔵文化財センター 『中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書4－松本市内その1－総論編』
7. 1986 坂口 一・三浦京子 『群馬県県史』第24号 奈良・平安時代の土器編年



第30図 下聖端遺跡IVの周辺遺跡分布図 (1:2,000)

	須惠器 蓋・杯	高台付杯	土師器 杯	甕	小型甕	須惠器 壺	甕	
II	<p>H2-1 H1-9 H1-18 H1-14 H1-16 H1-15</p>	<p>H1-19 H1-11 H1-17 H1-13 H1-12</p>	<p>H1-22 H1-21 H1-23 H1-25 H1-24</p>	<p>H1-34 H1-37</p>	<p>H1-35 H1-38</p>	<p>H1-5 H1-7 H2-21 H1-29</p>	<p>H1-1 H1-2</p>	<p>H1-1 H1-2</p>
III	<p>H5-2</p>	<p>H5-3 H6-6</p>	<p>H5-8 H5-11 H5-7 H5-6</p>	<p>H5-4 H5-5</p>	<p>H5-4 H5-5</p>			
IV	<p>H4-2 H4-4 H4-5</p>	<p>H3-4 H4-3</p>	<p>H3-11 H4-8 H3-10 H3-15</p>	<p>H4-7</p>				

第31図 下聖端遺跡IV土器編年表 (奈良～平安時代)

編年基準表

	器種	埴 (1987)	寺島 (1991)	花岡 (1994)	小平 (1990)	坂口・三浦 (1986)	下聖端遺跡Ⅳ
725	須恵器杯A	第Ⅴ期 (第2期) 杯A. 底部全面手持ちヘラケズリ、丸みのある平底 杯B. 器高低いもの 杯C. 肉厚な小型品	2段階 A 1. 回転ヘラ切り後手持ちヘラケズリ B. 回転ヘラケズリ 底部平坦化	Ⅸ期Ⅳ型式1・2段階 B 1. ヘラ切り・底部手持ちヘラケズリ、平底または平底気味	3期 A. 回転ヘラ切り 回転糸切り出現 口径11.5~15.3cm器高4cm前後 杯B. 量増える口径11cm小型の出現 口径13から14cmに集中 法量分化の兆し 高台の内側で接地 杯蓋B. 口縁断面三角形単に下に下がる 長頸壺B短頸壺A B C D鉢	a. 回転ヘラナデ・回転ヘラケズリ b. 回転ヘラ切り後手持ちヘラケズリ・回転ヘラナデ c. 回転ヘラケズリとヘラナデ 高台の内端が接地する	A. ヘラ切り後手持ちヘラケズリ、丸底気味 B. 回転ヘラ切り後ナデ、丸底気味 C. 回転ヘラケズリ、平底 浅く平底、底部回転ヘラケズリ後高台付く、高台の内側が接地 端部垂直に折れる。扁平なつまみ 甕・長頸壺・短頸壺・横瓶
	須恵器高台付杯	高台杯C. 器高が低いもの					
	須恵器蓋	B 1. 環状・皿状のつまみでかえりなし。宝珠つまみなし。	かえりなし	かえりなし		a. かえりが付く (主流) b. 端部垂直に折れ、かえりなし	
	II その他の須恵器	横瓶、甕		短頸壺(縦ヘラケズリ) 甕			
	土師器杯	杯B. ロクロ未使用、丸底・底部内湾 内面に畿内系暗文、体・底部ヘラケズリ、口縁横ナデ		杯DⅡ. 畿内系暗文斜放斜文1段	杯E. 丸底 器高低い外面底部から体部手持ちヘラケズリ、口縁周辺横ナデ内面は横方向のヘラミガキ後黒色処理またはなし 土師杯C. 搬入系	内湾する体部から外反気味の口縁に至る、口縁の横ナデの幅が広がる。	杯A. 口縁直立なし 内湾 内面ナデ→ミガキ、外面底部手持ちヘラケズリ、口縁部横ナデ、丸底 杯B. 口縁部が外縁を持ち外反、丸底 杯C. 内面畿内系暗文、外面ミガキ、丸底 杯D. 丸底、内面ミガキ黒色処理、外面ヘラケズリ口縁横ナデ 甕A. 「く」字口縁形態甕、口縁部に最大径 口縁部横ナデ→胴部ヘラケズリ 杯B. ロクロ調整甕 小甕. 「く」字形態口縁、内面ロクロ調整 小甕B. 短く外反する口縁の武蔵甕
	土師器内面黒色処理杯			黒色土器杯C. ロクロ調整平底、暗文あるものあり			
土師器甕	甕B 2. 「く」字形態口縁、胴上半に最大径	甕Ⅱ 2. 短胴化「く」字形態口縁、胴部の最大径がやや上に移り、口径と等しくなる			甕C 「く」字形態口縁	中位に膨らみを持ち、胴部から短く外反し口縁に至る、前より短胴化	
土師器小型甕	小甕A 肉厚なもの 小甕B 肉薄なもの						
750	須恵器杯	第Ⅵ期 (第3期) 杯A. 回転糸切り後周囲手持ちヘラケズリ、回転糸切り後全面手持ちヘラケズリ 杯B. 体部外反、器高低い 杯C. 体部外反、小型品	3段階 回転ヘラケズリ・ナデ手持ちヘラケズリ 回転糸切り・回転ヘラケズリ	X期Ⅳ形式3段階 杯BⅡ平底で糸切りされるもの、糸切り後外周ヘラケズリ	底部回転ヘラ切り、回転糸切り共伴、回転糸切り主体静止糸切りみられる体部の外傾強い 杯B 美濃須術窯産減る 高台の内側で接地	V段階 a. 直線的体部、底部ヘラナデ b. 体下部にヘラケズリ c.	杯. 底部回転糸切り、回転ヘラ切り 高台杯、小型品、高台内側接地
	須恵器高台付杯	高台杯A. 口径10.2~13.0 高台杯B. 口径15.2~17.9	高台杯A. 底径大きい、器高低い、小型化、底部	碗A. 口径15cm以下 碗B. 口径15cm以上 法量の分化			
	須恵器蓋	B. かえりのない蓋つまみ環状皿状 C. 宝珠つまみ	糸切り痕			杯蓋B. 端部が「く」字に屈曲	浅い体部、垂直口縁、輪状つまみ
	III その他の須恵器	横瓶、長頸壺、甕		長頸壺・甕・鉢			
	土師器杯		土師器杯 A 1. 非ロクロ、体部内湾、丸底、内面ミガキ黒色処理 B 1. 外底は丸底内面ミガキ黒色処理 甕Ⅱ 3. 「く」字口縁形態、口・胴最大径	杯DⅡ. 畿内系暗文1段 杯C. ロクロ調整平底	土師杯E. 丸底 器高低い外面底部から体部手持ちヘラケズリ、口縁周辺横ナデ内面は横方向のヘラミガキ後黒色処理またはなし 黒色杯A. ロクロ調整、厚い底部全面に手持ちヘラケズリ 内面ミガキ黒色処理 高杯残る 土師杯C 搬入系内面放射状暗文ヘラミガキ外面横のヘラミガキ底	わずかな丸底から浅い体部に至り、底部のみヘラケズリ 器肉が薄くなり、胴部中位膨らみ短胴化	黒色処理杯 ロクロ成形、底部回転糸切り後手持ちヘラケズリ、厚底、内面ミガキ黒色処理 甕A. 「く」字形態口縁、口・胴上半に最大径、胴上位横のヘラケズリ→口縁部横ナデ 甕B. ロクロ調整
	土師器黒色処理杯	杯D. ロクロ成形平底、内面ミガキ黒色処理					
土師器甕	B 1. 「く」字形態口縁、胴上半に最大径が主体			B 1. 「く」字口縁形態			
土師器小甕	小甕B. 主体						
土師器ロクロ甕							
土師器台付甕							

	器種	堤 (1987)	寺島 (1991)	花岡 (1994)	小平 (1990)	坂口・三浦 (1986)	下聖端遺跡IV
775	須恵器杯	第VII期 (第4期) 杯A. 回転糸切り未調整	4段階 杯. 焼成良好	11期 B II 平底で糸切り	部・体部過半は手持ちヘラケズリ 甕C「く」字口縁形態	IV段階 杯a. 体部立ち上がり部分に回転ヘラケズリ 杯b. 回転ヘラ切り後ナデ・回転ナデ 杯c. 回転ヘラ切り未調整	
	須恵器高台付杯	高台杯B. 口径大が顕在化			5期 杯A. すべて回転糸切り 口径12~13.8器高3.2から3.5cm 杯B 法量の分化 高台垂直におりる、高台中央にくぼみ付く、外側で接地 杯蓋B. 端部「く」字屈曲	杯d 回転糸切り 高台断面三角形	杯. すべて回転糸切り火だき痕顕著、底径の大と小あり 高台杯 大・小 高台中央くぼむ 高台外側が接地
	須恵器蓋		端部直角に折れる	B II 宝珠つまみかえりなし		a. 口縁が垂直に折れる b. 内傾する口縁	
	その他の須恵	長頸壺、短頸壺、円面硯、甕			杯A 底部手持ちヘラケズリ、回転糸切り未調整 杯C 小型化とミガキの省略 口径11cm 器高4.3cm 甕c. 「く」字口縁		
800	土師器杯	杯D. ロクロ成形、平底、内面黒色ミガキ	土師杯A 2. ロクロ成形、底部平坦、内面ミガキ黒色処理 「く」字形態口縁 口・胴最大径	甕B 1 「く」字形態口縁			
	土師器黒色処理杯 土師器甕	甕B 2 「く」と甕C「コ」字形態口縁両者がある。 小甕C				a. 最大径が胴上位に移行し短胴化 b. 球胴甕	ロクロ成形、内面ミガキ黒処理 高杯、杯部丸く、内面ミガキ黒色処理 甕「コ」字形態口縁が主体なる 小甕「コ」、体部ヘラケズリ 後口縁部横ナデ
	須恵器杯	杯A. 回転糸切り未調整	800 5段階 半数は火だすきが明瞭に残り暗灰色 灰色で火だすきがない。	800 12期V形式1段階 B II. 平底で糸切り		800 VII段階 杯a. 平底回転ヘラ切り後回転ヘラナデ 杯b. 回転糸切り 杯c 回転糸切り	
	須恵器高台付杯			B II. 宝珠つまみかえりなし		ボタン状のつまみ	
	須恵器蓋		端部直角に折れる 杯A 2. 大半はロクロ整形、金属器模倣あり		815 6期 杯A すべて回転糸切り 体部の外傾強まる 器壁が薄く、外面のロクロ痕強く残る 杯B. 量の減少体部の立ち上がり丸みを帯びる 杯C. 少ない、法量形態5期に似る、体部の外形強まる 黒色杯A. 法量分化、体下半回転ヘラケズリ、回転糸切り 甕c. 「く」・「コ」字口縁共伴	a. 「コ」字変化を示し始め最大径を持つ胴部上位に横位のヘラケズリを持つ	
	土師器杯			皿出現 杯c II. 底部糸切り 甕B II. 「コ」字形態口縁			
	土師器黒色処理杯						
	皿 土師器甕	「コ」字形態口縁	甕II 5 「コ」字形態口縁萌芽				

竪穴住居址一覧表

遺構名	検出位置	平面形	規模 (cm・㎡)			長軸方位	カマド	ピット	備考
			南北長	東西長	壁高				
H 1	c-お-7	方形	590	580	50~53	N-30° -W	北	主柱穴 他 4 3	床下より旧住居址
H 2	c-き-7	方形	444	464	35~58	N-23° -W	北	主柱穴 他 4 4	床下より旧住居址
H 3	c-け-9	長方形	444	400	47~53	N-28° -W	北	主柱穴 他 4 6	床下より旧住居址
H 4	c-け-6	方形	500	484	42~50	N-24° -W	北	主柱穴 他 4 3	床下より旧住居址
H 5	A-き-2	-	464	<224>	48~63	N-28° -W	不明	主柱穴 他 2 1	床下より旧住居址
H 6	c-こ-1	方形	268	292	58~65	N-20° -W	なし	なし	
H 7	B-い-7	-	<60>	372	35~62	-	不明	主柱穴不明 他 1	

土坑一覧表

遺構名	検出位置	平面形	規模 (cm・㎡)			長軸方位	備考
			長軸長	短軸長	深さ		
D 1	D-い-8	楕円形	124	80	29	N-25° -W	
D 2	C-き-6	隅丸長方形	128	100	27	N-29° -W	F 4 に切られる。

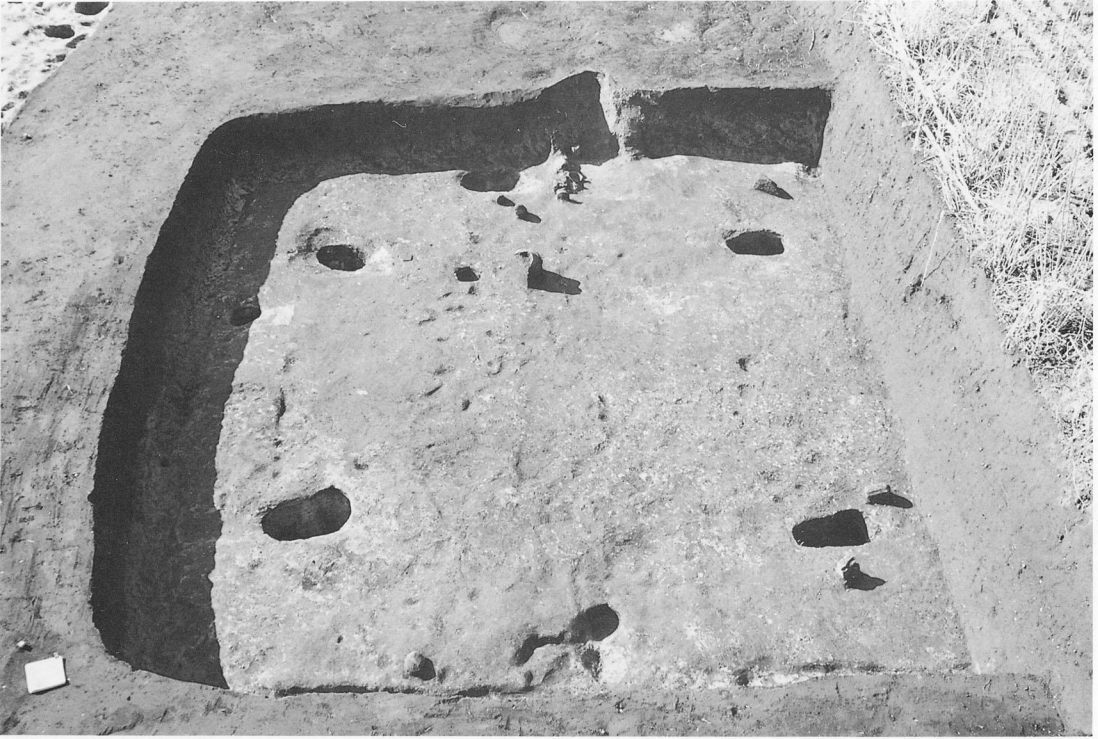
掘立柱建物址一覧表

遺構名	出土位置	様式	桁行×梁間 (間)	桁行×梁間 (cm)	桁行柱間 (cm)	梁間柱間 (cm)	長軸方位	柱穴規模 径 (cm)	深さ (cm)	備考
F 1	Dあ7	総柱式	2×2	232×232	108~124	116~124	N-6° -W	28~76	13~30	
F 2	Dあ5	総柱式	2×2	372×300	176~192	148~152	N-20° -W	32~56	29~46	溝持ち
F 3	Cけ7	側柱式	3×2	624×440	172~280	148~308	N-15° -W	88~168	48~68	H 4 に切られる
F 4	Cく5	側柱式	3×2	568×424	180~200	208~216	N-23° -W	48~68	29~58	D 2 を切る
F 5	Cき5	側柱式	3×2	520×368	140~240	140~228	N-23° -W	32~52	9~24	南北棟
F 6	Cけ6	総柱式	<2>×2	332×<152>	92~204	136~152	N-0°	28~56	13~24	H 4 に切られる
F 7	Cか6	総柱式	1×1	260×<176>	260	176	N-30° -W	72~92	21~34	H 1 に切られる
F 8	Cく1	側柱式	<2>×2	<400>×404	160・240	192~212	N-20° -W	52~120	29~74	F 9 を切る
F 9	Cく2	側柱式	<3>×3	<408>×460	160	124~200	N-13° -W	32~80	14~41	F 8 に切られる
F 10	Cき4	総柱式	3×2	448×368	132~148	140~228	N-22° -W	28~44	20~48	
F 11	Cき4	側柱式	2×2	328×304	112~192	92~152	N-22° -W	24~228	26~87	F 10 を切る
F 12	Cけ4	側柱式	2×2	352×340	144~208	160~180	N-16° -W	28~108	18~48	F 11 に切られる
F 13	Cけ1	側柱式	3×2	380×292	108~220	124~168	N-17° -W	32~60	19~64	F 14 を切る
F 14	Cけ1	側柱式	2×2	384×300	148~236	124~176	N-19° -W	24~60	14~63	F 13 に切られる
F 15	Cけ3	側柱式	2×2	348×276	160~188	132~144	N-17° -W	28~48	24~61	P 17 に切られる
F 16	Aこ9	側柱式	3×2	448×328	124~180	160~168	N-10° -W	40~68	20~50	F 18 を切る
F 17	Bう9	側柱式	<1>×2	<288>×520	288	240・280	N-5° -W	64~68	49~55	
F 18	Aこ10	側柱式	2×2	396×408	188~208	188~208	N-26° -W	28~80	10~49	F 16 にきられる
F 19	Bう10	側柱式	×<1>	×328	—	328	N-10° -W	76・172	22~68	

単独ピット一覧表

遺構名	検出位置	規模(長径×短径×深さ)	形態	覆土	備考
P 1	D-あ-8	72×64×38	隅丸方形	1. 黒褐色土層(10Y R2/2)~3cm大の小石を含む。 2. 黒褐色土層(10Y R2/2)1層より黒色強い。~5mm大バミスを含む。 3. 暗褐色土層(10Y R3/3)ローム、バミスを多く含む。	
P 2	D-あ-8	62×56×32	隅丸方形	1. 黒褐色土層(10Y R2/2)~3cm大の小石を含む。 2. 黒褐色土層(10Y R2/2)1層より黒色強い。~5mm大バミスを含む。	P 4 を切る。
P 3	D-あ-8	78×62×35	楕円形	1. 黒褐色土層(10Y R2/2)バミスを含む。	
P 4	D-あ-8	77×62×28	不整楕円形	1. 黒褐色土層(10Y R2/2)バミスを含む。	P 2 に切られる
P 5	C-け-8	26×23×19	楕円形	1. 黒褐色土層(10Y R2/2)バミス・炭化物を少し含む。	
P 6	C-こ-6	28×26×15.5	円形	1. 極暗褐色土層(7.5Y R2/3)砂・小石を多く含む。	
P 7	C-こ-6	30×26×22	楕円形	1. 極暗褐色土層(7.5Y R2/3)砂・小石を多く含む。	
P 8	D-あ-6	24×23×15.5	円形	1. 極暗褐色土層(7.5Y R2/3)砂・小石を多く含む。	武威壘 1
P 9	D-あ-6	27×24×17.5	楕円形	1. 極暗褐色土層(7.5Y R2/3)砂・小石を多く含む。	

造構名	検出位置	規模(長さ×短径×深さ)	形態	覆土	備考
P10	C-こ-7	25×23×16	円形	1. 極暗褐色土層(7.5YR2/3)砂・小石を多く含む。	
P11	C-こ-7	23×20×19.5	楕円形	1. 黒褐色土層(10YR2/3)シルト質土を多く含む。	
P12	C-こ-7	34×34×45.5	円形	1. 黒褐色土層(10YR2/3)シルト質土を多く含む。	
P13	C-こ-7	30×25×11	楕円形	1. 黒褐色土層(10YR2/3)シルト質土を多く含む。	
P14	C-こ-7	22×20×19	楕円形	1. 黒褐色土層(10YR2/3)シルト質土を多く含む。	
P15	欠番				
P16	C-け-2	100×74×33	楕円形	1. 黒褐色土層(10YR2/3)柱痕。 2. 黒褐色土層(10YR2/3)小石・地山砂を含む。	武蔵薮6 須恵薮1
P17	C-け-3	102×77×30	不整楕円形	1. 黒褐色土層(10YR2/3)柱痕。 2. 黒褐色土層(10YR2/3)小石・地山砂を含む。	武蔵薮1
P18	C-け-3	25×22×12	楕円形	1. 黒褐色土層(10YR3/4)シルト質土を含む。	
P19	C-け-3	48×37×27	楕円形	1. 暗褐色土層(10YR3/3)小石・シルト質土を含む。	
P20	C-け-3	33×31×21	円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	
P21	C-け-3	62×30×25	不整楕円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	
P22	C-け-4	36×30×18	楕円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	
P23	C-け-4	20×20×27	円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	
P24	C-け-4	38×34×21	楕円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	
P25	C-け-4	24×22×12	円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	P26を切る。
P26	C-け-4	<30>×24×12	楕円形	1. 暗褐色土層(10YR3/4)シルト質土を含む。	P25に切られる。
P27	C-く-4	25×22×14	円形	1. 暗褐色土層(10YR3/4)シルト質土を含む。	
P28	C-く-4	25×22×12	円形	1. 暗褐色土層(10YR3/4)シルト質土を含む。	
P29	C-く-5	72×42×27	楕円形	1. 黒褐色土層(10YR2/3)砂質で小石を含む。	
P30	C-く-5	46×41×30	楕円形	1. 黒褐色土層(10YR2/2)小石を含む。 2. 黒褐色土層(10YR2/3)地山土ブロックで含む。	
P31	C-こ-7	42×38×20.5	円形	1. 黒褐色土層(10YR3/2)柱痕。 2. 黒褐色土層(10YR2/3)地山の黒色土・小石を含む。 3. 黒褐色土層(10YR2/3)地山のシルト質土ブロックを含む。	
P32	欠番				
P33	C-く-1	69×48×13	不整楕円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	武蔵薮1 須恵薮1
P34	C-け-2	52×39×13	楕円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	
P35	C-け-2	55×42×23	楕円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	須恵薮1 土師鉢
P36	C-こ-5	50×45×38	楕円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	
P37	C-こ-5	41×39×17	円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	
P38	C-こ-5	50×42×26	楕円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	武蔵薮1
P39	C-こ-5	46×39×24	楕円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	武蔵薮1
P40	D-あ-5	44×36×12	楕円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	武蔵薮1
P41	D-あ-5	41×36×21	楕円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	P42を切る。F2P1に切られる。
P42	D-あ-5	55×<47>×29	円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	武蔵薮1 P41・F2P1に切られる。
P43	D-あ-5	34×26×20	楕円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	
P44	D-い-4	68×49×19	不整楕円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	丸底坏1 鉢1
P45	D-い-4	42×34×34	楕円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	
P46	C-こ-6	36×36×18	円形	1. 暗褐色土層(7.5YR3/4)砂礫層。	
P47	D-あ-6	60×46×38	楕円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	
P48	D-あ-6	39×31×17	楕円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	
P49	D-あ-6	33×30×14	楕円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	
P50	D-あ-6	23×23×14	円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	P87を切る。
P51	D-い-6	50×48×20	円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	武蔵薮1
P52	D-い-6	31×23×25	不整楕円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	P78を切る。
P53	C-こ-4	30×30×13	円形	1. 暗褐色土層(7.5YR3/4)砂礫層。	
P54	C-こ-4	27×22×15	楕円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	
P55	C-こ-3	24×21×14	円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	
P56	C-こ-3	28×28×16	円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	
P57	C-こ-4	39×32×35	楕円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	
P58	D-あ-5	48×43×20	だるま形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	P86に切られる。
P59	D-あ-4	29×28×13	円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	
P60	D-あ-3	105×52×18	楕円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	武蔵2 須恵薮1 須恵坏1 他1
P61	C-こ-3	28×27×27	円形	1. 黒褐色土層(7.5YR2/2)砂礫層。	武蔵小薮1
P62	C-こ-3	41×39×38	楕円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	
P63	C-こ-3	29×26×16	円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	
P64	C-こ-3	18×18×13	円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	
P65	C-こ-3	48×44×12	楕円形	1. 暗褐色土層(7.5YR3/4)砂礫層。	
P66	C-こ-2	45×39×20	楕円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	武蔵小薮1
P67	C-こ-2	<38>×40×11	楕円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	H6に切られる。
P68	C-こ-2	34×32×10	円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	
P69	C-こ-2	64×30×16	楕円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	
P70	C-こ-1	65×62×44	円形	1. 黒褐色土層(10YR2/3)	武蔵薮1
P71	B-あ-10	44×35×8	楕円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	
P72	B-あ-10	52×43×18	楕円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	武蔵薮2
P73	C-こ-4	31×26×11	楕円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	
P74	D-あ-2	37×31×9	楕円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	
P75	C-き-5	60×46×26	楕円形	1. 黒褐色土層(10YR2/3)ローム・パミス粒子を含む。	武蔵薮1
P76	C-け-5	36×34×13	円形	1. 暗褐色土層(10YR3/4)小石を含む。	
P77	C-け-5	25×24×21	円形	1. 極暗褐色土層(7.5YR2/3)砂礫層。	土師坏1
P78	D-い-6	44×<32>×44	楕円形	1. 極暗褐色土層(7.5YR2/3)砂礫層。	P52・F2P6に切られる。
P79	C-け-2	32×28×41	楕円形	1. 極暗褐色土層(7.5YR2/3)砂礫層。	
P80	C-け-3	32×23×13	楕円形	1. 極暗褐色土層(7.5YR2/3)砂礫層。	
P81	C-け-3	22×22×10	円形	1. 極暗褐色土層(7.5YR2/3)砂礫層。	
P82	C-こ-6	26×26×15	円形	1. 黒褐色土層(10YR3/2)シルト質土・黒色土を含む。	
P83	C-こ-3	24×25×22	円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	
P84	C-こ-3	37×19×18	楕円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	
P85	D-あ-5	<23>×34×19	楕円形	1. 極暗褐色土層(7.5YR2/3)砂礫層。	F2P8に切られる。
P86	D-あ-4	25×23×20	円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	P58を切る。
P87	D-あ-6	<23>×19×12	楕円形	1. 黒褐色土層(7.5YR3/2)砂礫層。	P50に切られる。



H1号住居址（南より）



H1号住居址カマド（南より）



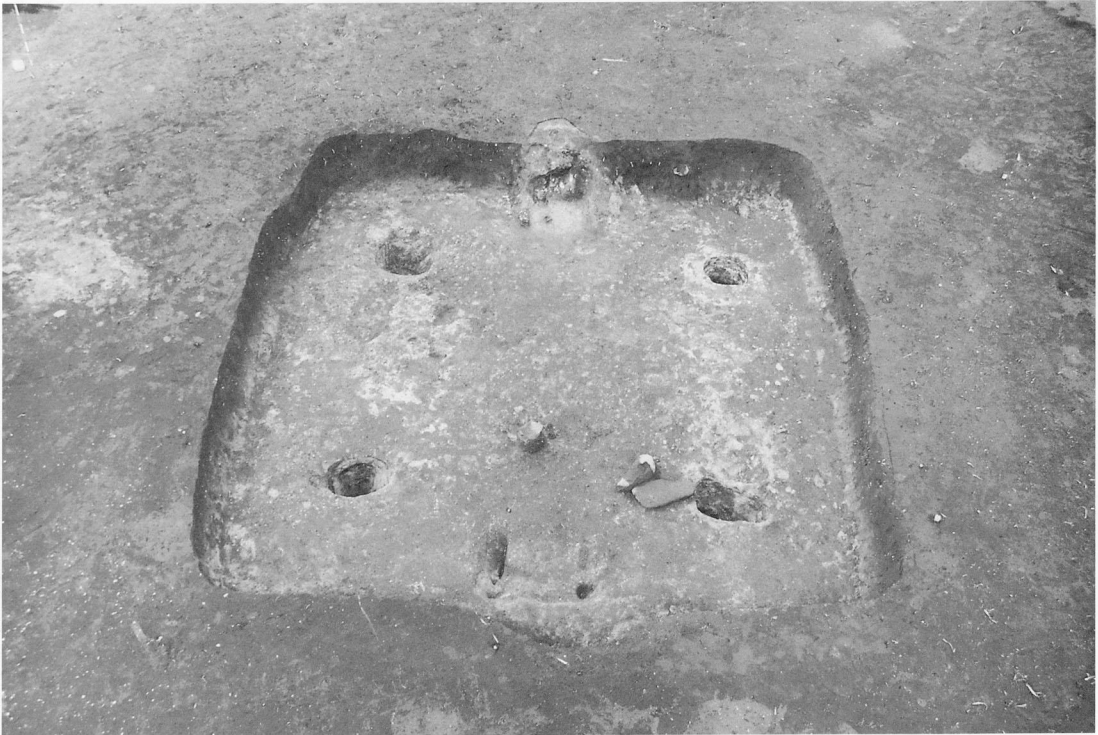
H1号住居址カマド堀方（南より）



H1号住居址甕出土状況（南より）



H1号住居址堀方（南より）



H2号住居址（南より）



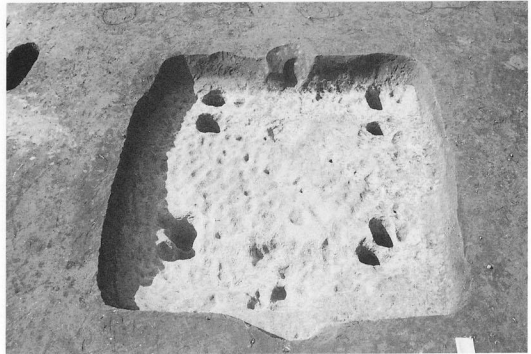
H2号住居址カマド（南より）



H2号住居址カマド堀方（南より）



H2号住居址土器、石、出土状況（南より）



H2号住居址堀方（南より）



H 3 号住居址 (南より)



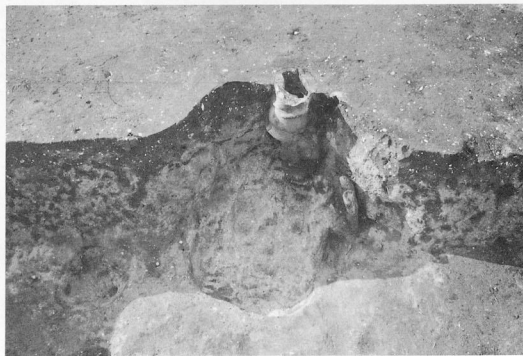
H 3 号住居址カマド (南より)



H 3 号住居址カマド (南より)



H 3 号住居址カマド (北より)



H 3 号住居址カマド土器出土状況 (南より)



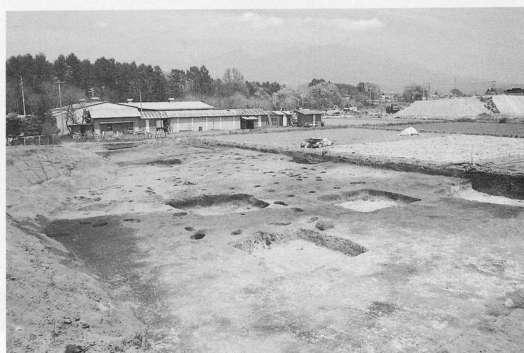
H 3号住居址カマド半裁状況（西より）



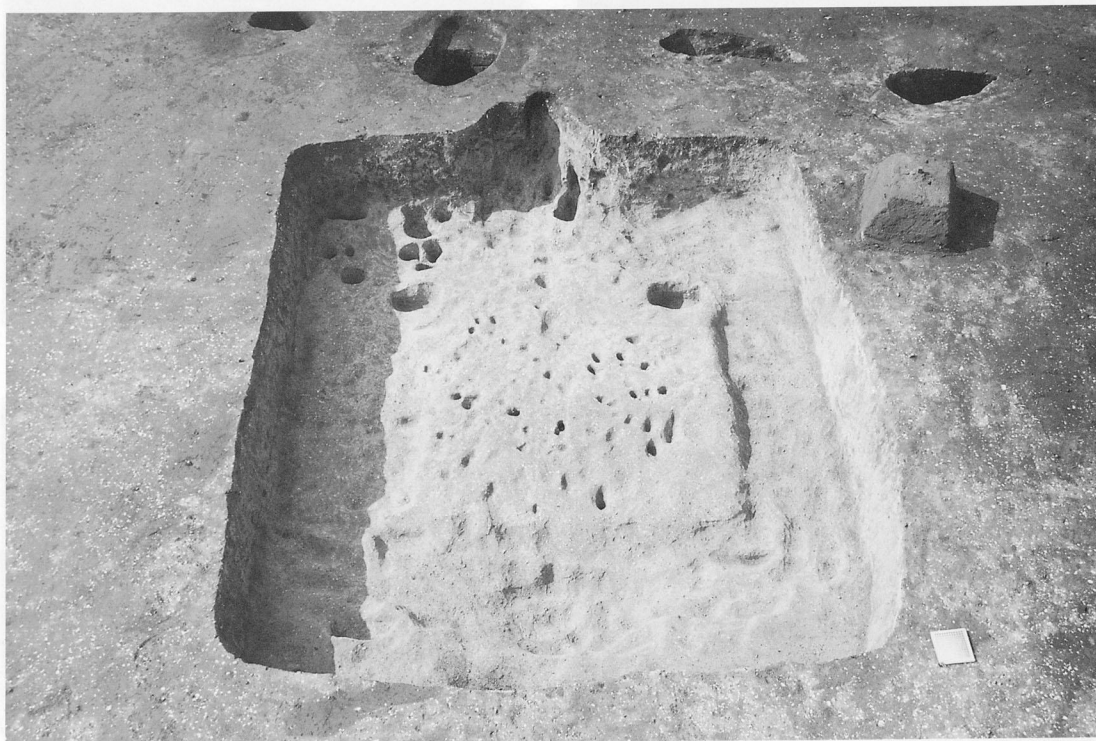
H 3号住居址カマド煙道土器出土状況（南より）



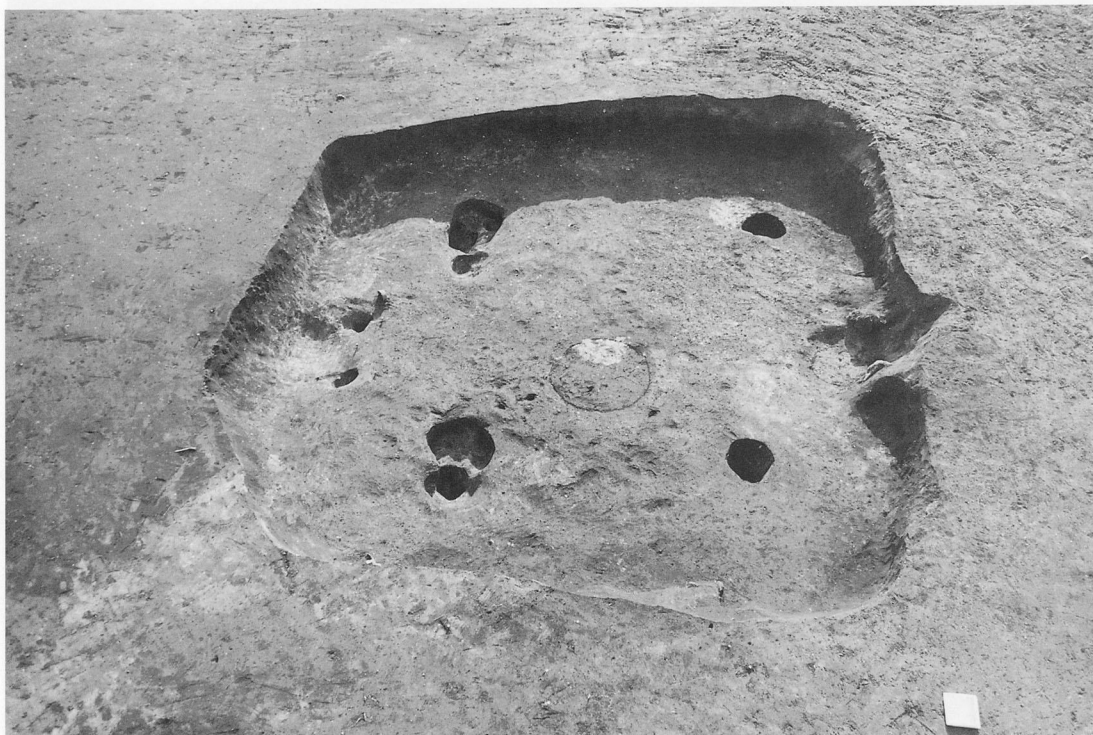
H 3号住居址石出土状況（南より）



H 3号住居址遠景



H 3号住居址堀方（南より）



H4号住居址（東より）



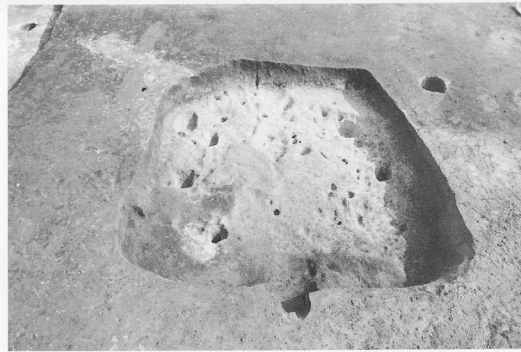
H4号住居址カマド（南より）



H4号住居址カマド土器出土状況（南より）



H4号住居址出入口ピット、土器（北より）



H4号住居址堀方（北より）



H5号住居址（西より）



H5号住居址遺物出土状況（西より）



H5号住居址（西より）



H6号住居址（南より）



H6号住居址堀方（南より）



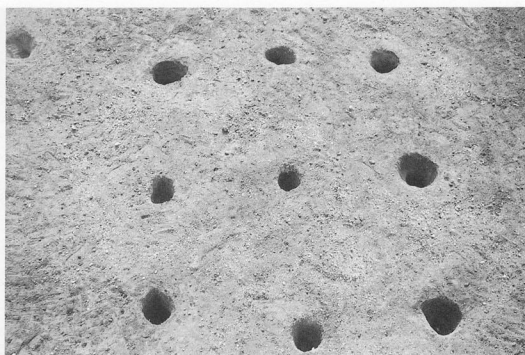
H7号住居址（南より）



H7号住居址堀方（北西より）



F 1号掘立柱建物址 (南より)



F 2号掘立柱建物址 (東より)



F 4号掘立柱建物址 (南より)



F 5号掘立柱建物址 (西より)



F 3号掘立柱建物址 (南より)



F 6号掘立柱建物址（北より）



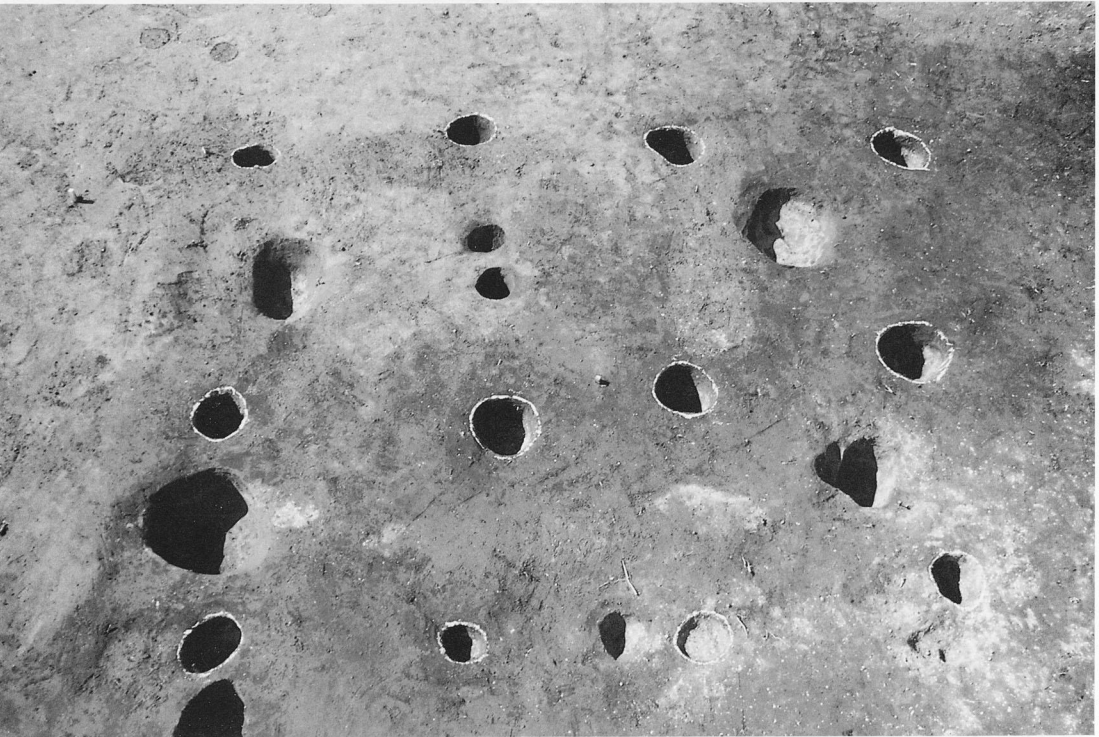
F 7号掘立柱建物址（西より）



F 8号掘立柱建物址（南より）



F 9号掘立柱建物址（南より）



F 10号掘立柱建物址（南より）

(F 6号) 掘立柱建物址

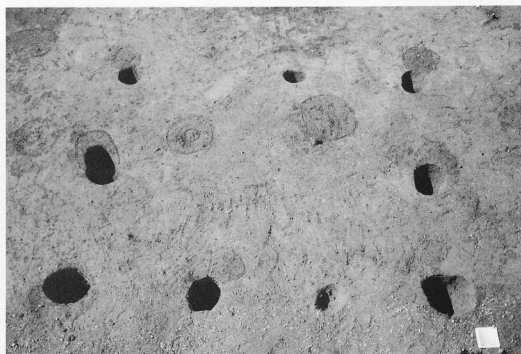
(F 10号) 掘立柱建物址



F11号掘立柱建物址（北より）



F12号掘立柱建物址（北より）



F13号掘立柱建物址（南より）



F14号掘立柱建物址（南より）



F15号掘立柱建物址（北より）



F 16号掘立柱建物址（南より）



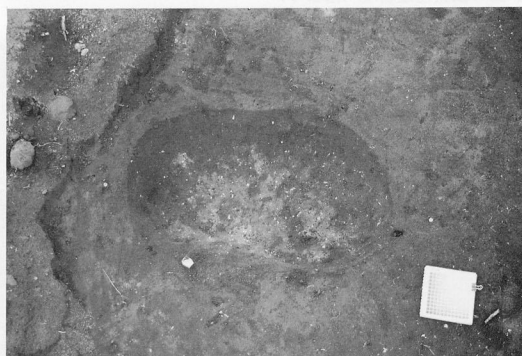
F 17号掘立柱建物址（北より）



F18号掘立柱建物址（南より）



F19号掘立柱建物址（北より）



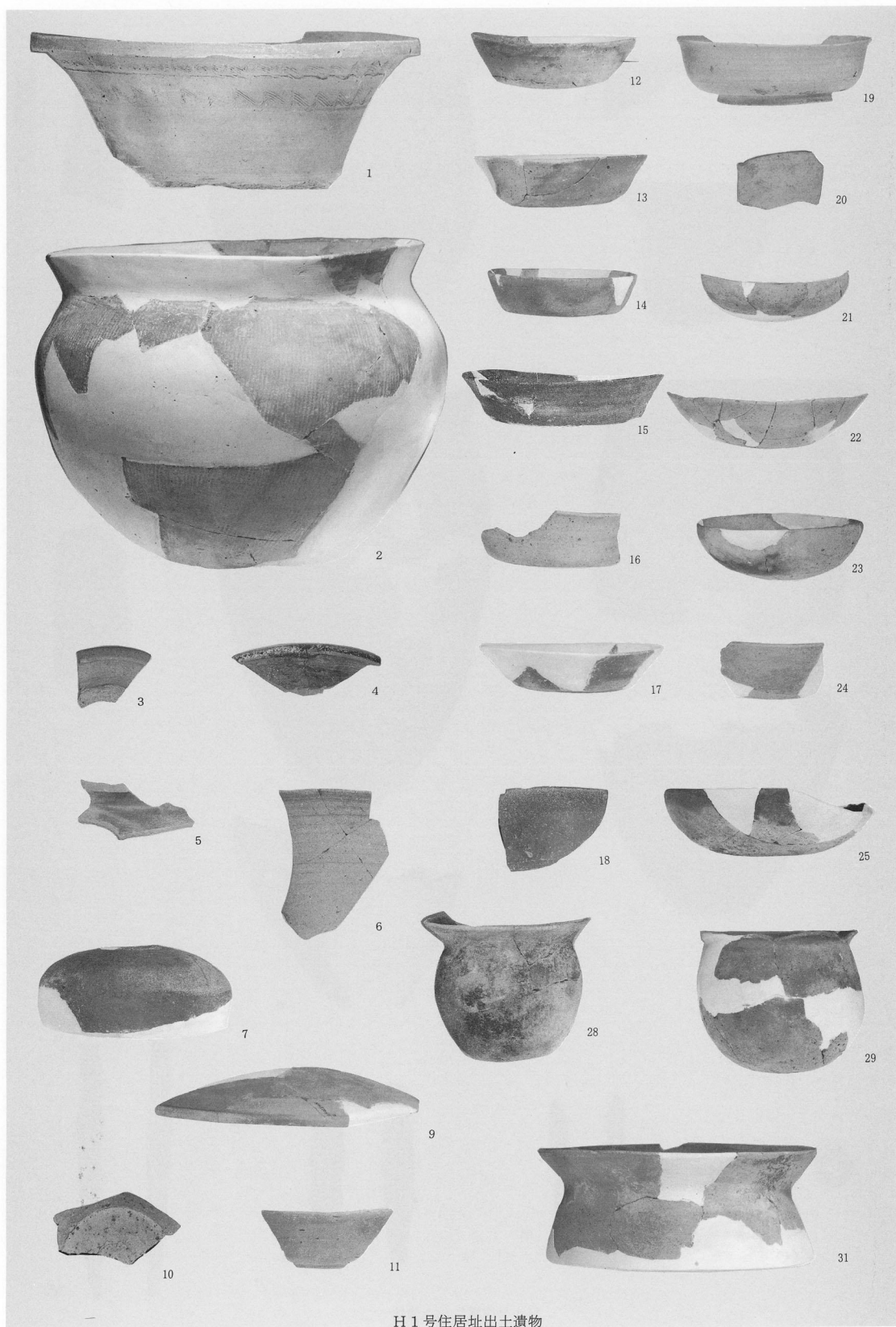
D1号土坑（南より）



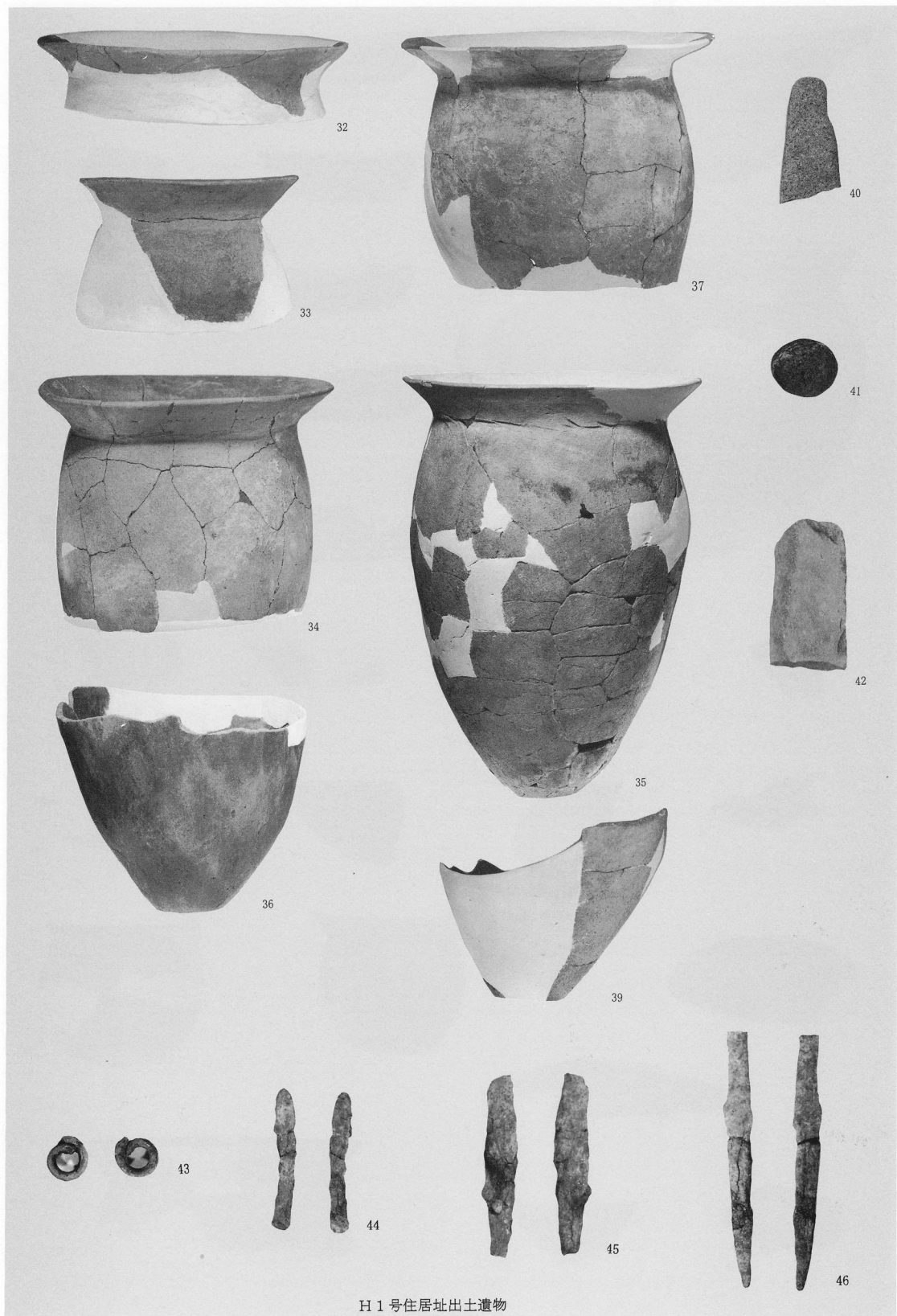
D2号土坑（南より）



M1号溝址（南より）



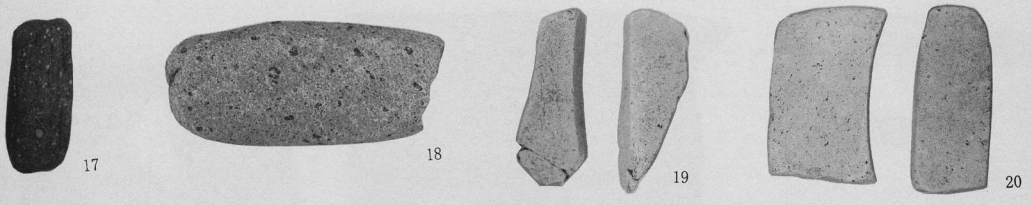
H 1 号住居址出土遺物



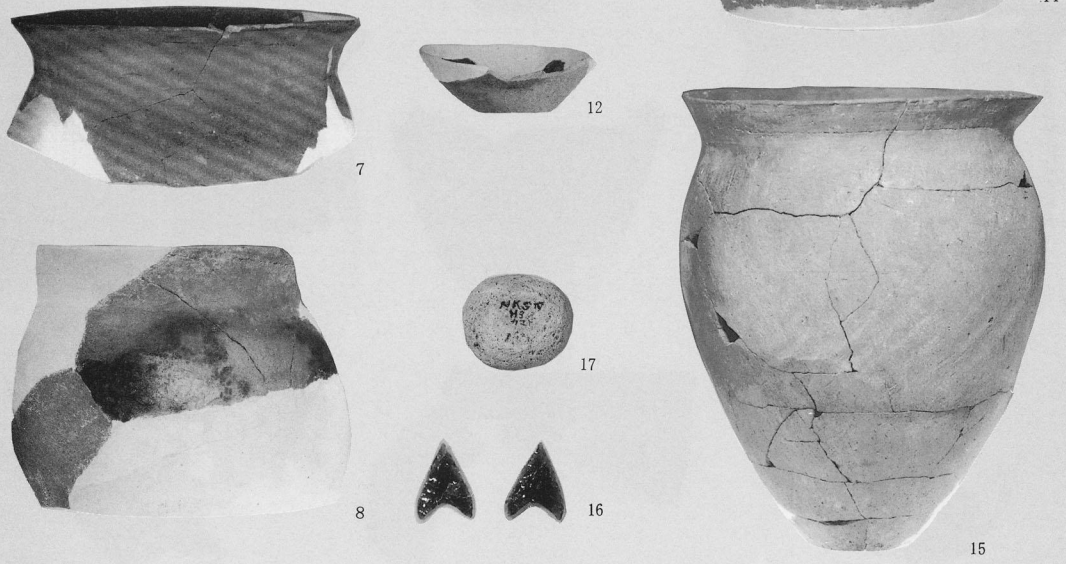
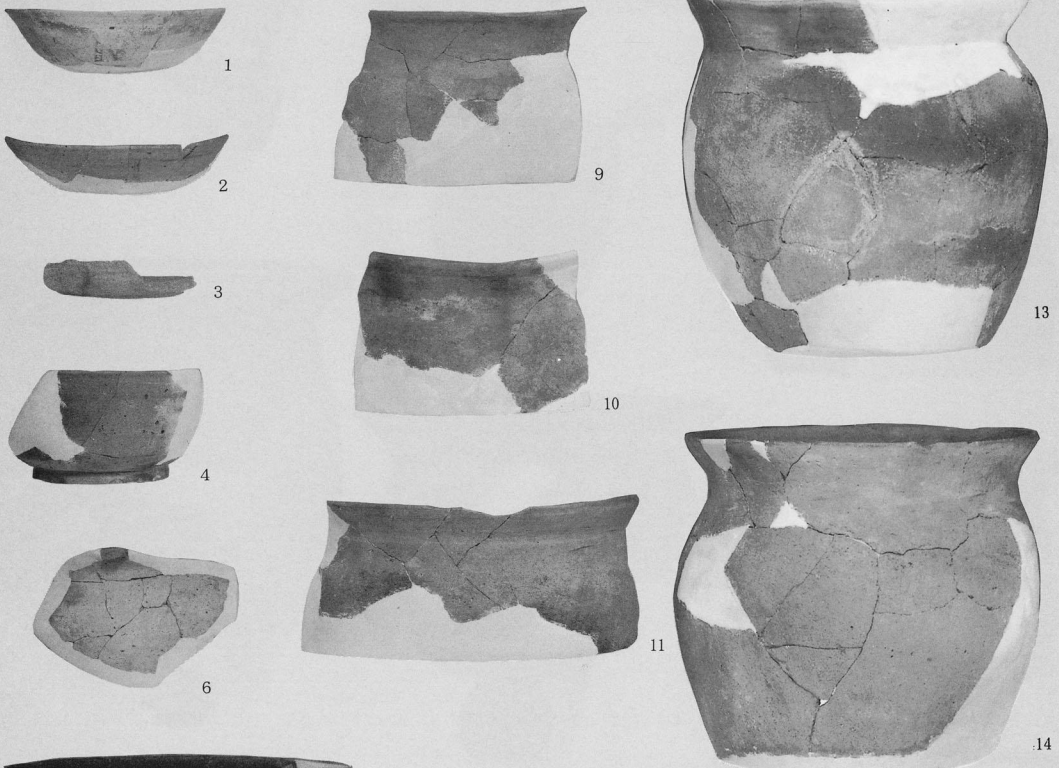
H 1 号住居址出土遺物



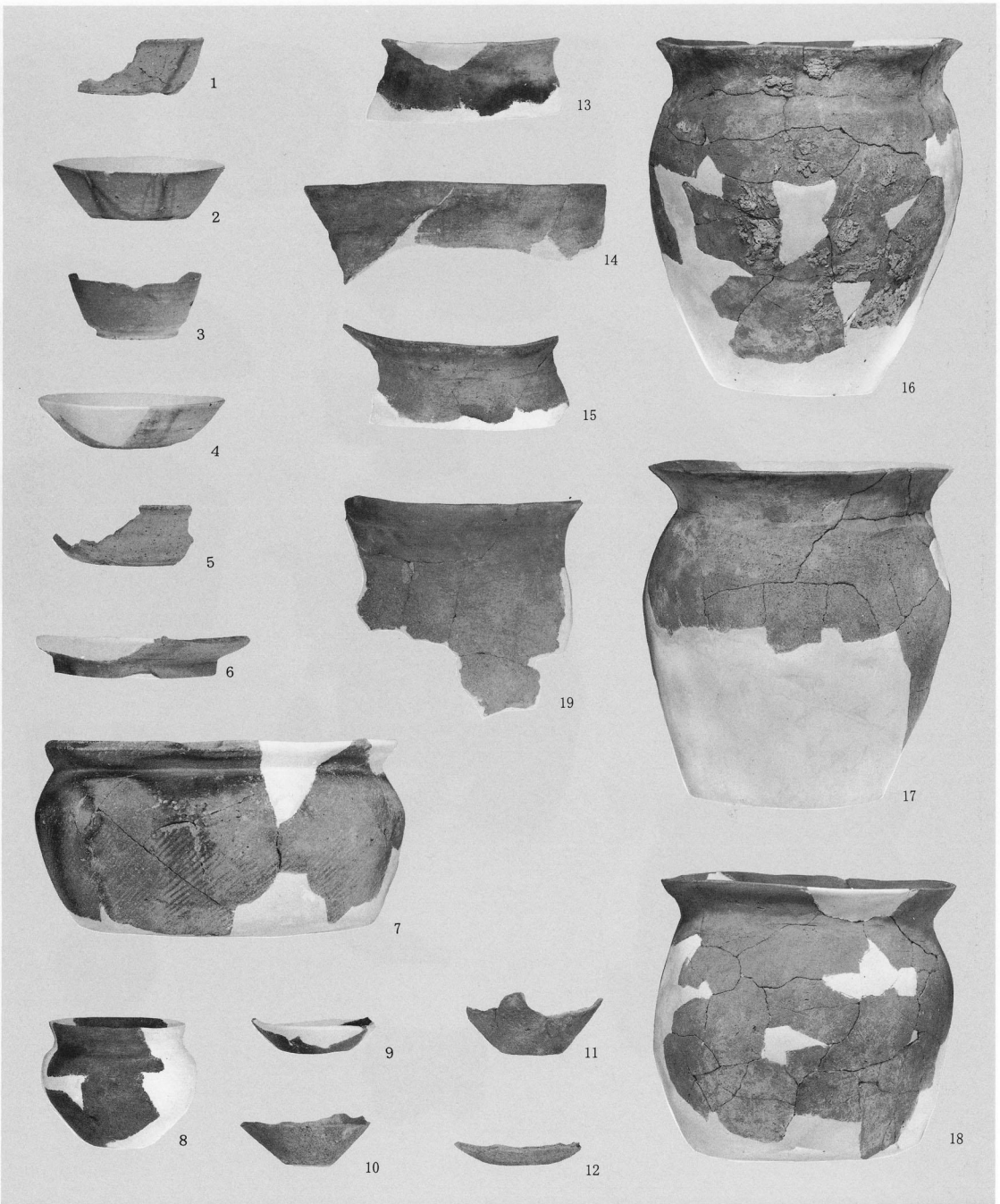
H 2 号住居址出土遺物



H 2 号住居址出土遺物



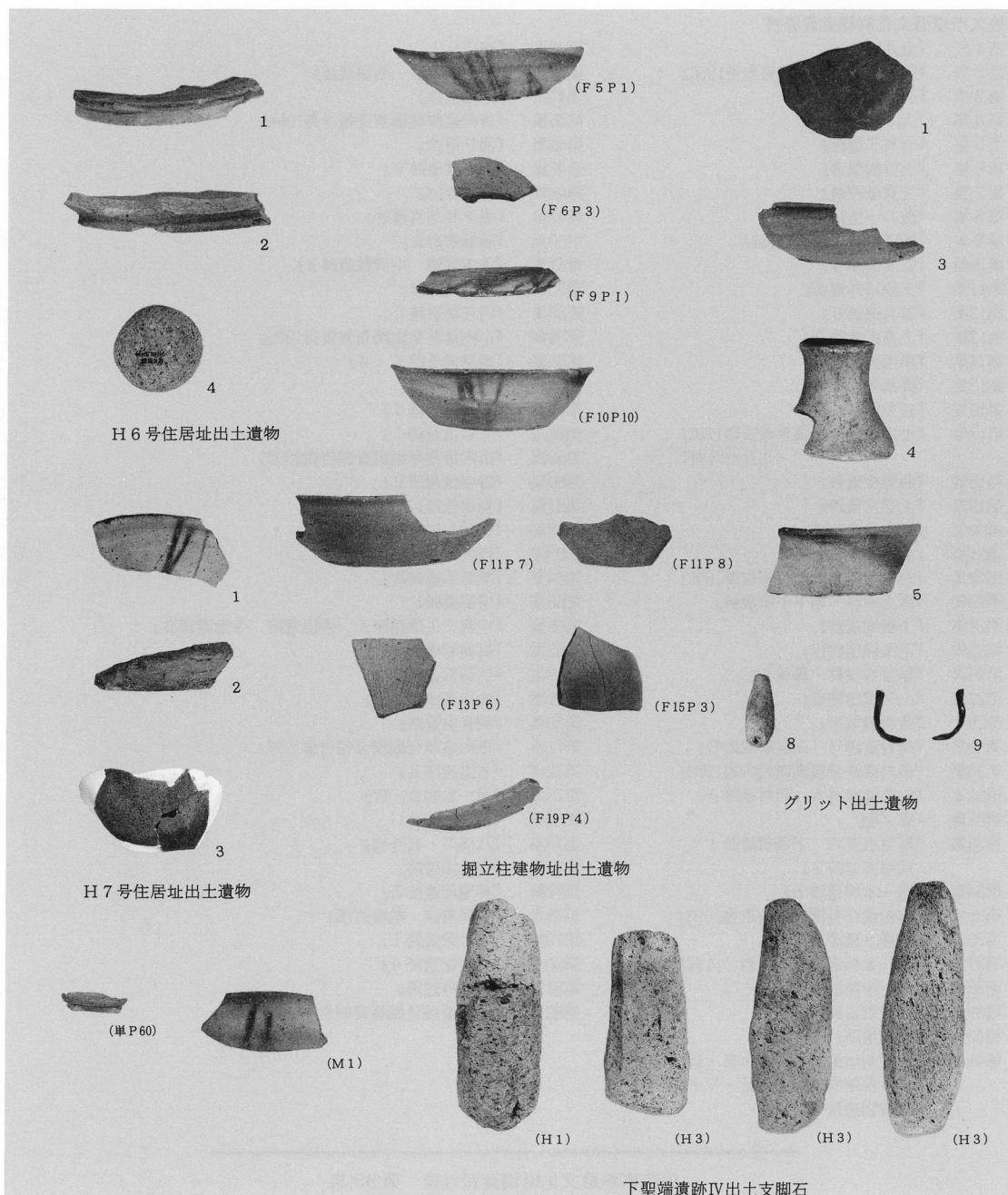
H 3 号住居址出土遺物



H 4 号住居址出土遺物



H 5 号住居址出土遺物



H 6 号住居址出土遺物

H 7 号住居址出土遺物

掘立柱建物址出土遺物

グリット出土遺物

下聖端遺跡IV出土支脚石

VI 図版十九 下聖端遺跡IV出土支脚石
 一書行書式圖式VI 圖版十九 下聖端遺跡IV出土支脚石
 目 次 頁 碼
 一書行書式圖式VI 圖版十九 下聖端遺跡IV出土支脚石 1058-1060
 一書行書式圖式VI 圖版十九 下聖端遺跡IV出土支脚石 1060-1062
 一書行書式圖式VI 圖版十九 下聖端遺跡IV出土支脚石 1062-1064
 一書行書式圖式VI 圖版十九 下聖端遺跡IV出土支脚石 1064-1066
 一書行書式圖式VI 圖版十九 下聖端遺跡IV出土支脚石 1066-1068
 一書行書式圖式VI 圖版十九 下聖端遺跡IV出土支脚石 1068-1070

佐久市埋蔵文化財調査報告書

第1集 『金井城跡』
第2集 『市内遺跡発掘調査報告書1990』
第3集 『石附窯址群Ⅲ』
第4集 『大ふけ』
第5集 『立科F遺跡』
第6集 『上曾根遺跡』
第7集 『三貫畑遺跡』
第8集 『瀧の下遺跡』
第9集 『国道141号線関係遺跡』
第10集 『聖原遺跡Ⅱ』
第11集 『赤座垣外遺跡』
第12集 『若宮遺跡Ⅱ』
第13集 『上高山遺跡Ⅱ』
第14集 『栗毛坂遺跡』
第15集 『野馬久保遺跡』
第16集 『石並城跡』
第17集 『市内遺跡発掘調査報告書1991』
(1月～3月)
第18集 『西曾根遺跡』
第19集 『上芝宮遺跡』
第20集 『下聖端遺跡Ⅲ』
第21集 『金井城跡Ⅲ』
第22集 『市内遺跡発掘調査報告書1991』
第23集 『南上中原・南下中原遺跡』
第24集 『上聖端遺跡』
第25集 『上久保田向Ⅳ』
第26集 『藤塚古墳群・藤塚Ⅱ』
第27集 『上久保田向Ⅲ』
第28集 『曾根新城Ⅴ』
第29集 『筒村遺跡B 山法師遺跡B』
第30集 『市内遺跡発掘調査報告書1992』
第31集 『山法師遺跡A 筒村遺跡A』
第32集 『東ノ割』
第33集 『聖原遺跡Ⅶ 下曾根遺跡Ⅰ
前藤部遺跡Ⅱ』
第34集 『西一本柳遺跡Ⅰ』
第35集 『市内遺跡発掘調査報告書1993』
第36集 『蛇塚B遺跡Ⅲ』
第37集 『西一本柳遺跡Ⅱ 中西ノ久保遺跡Ⅰ』
第38集 『南下中原遺跡Ⅱ』
第39集 『中屋敷遺跡』
第40集 『寺畑遺跡』
第41集 『曾根新城遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ
上久保田向遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ
西曾根遺跡Ⅱ・Ⅲ』

第42集 『寄山』
第43集 『権現平遺跡・池端遺跡』
第44集 『寺添遺跡』
第45集 『市内遺跡発掘調査報告書1994』
第46集 『濁り遺跡』
第47集 『上芝宮遺跡Ⅴ』
第48集 『池端城跡』
第49集 『根々井芝宮遺跡』
第50集 『藤塚遺跡Ⅲ』
第51集 『寺中遺跡 中屋敷遺跡Ⅱ』
第52集 『坪の内遺跡』
第53集 『円正坊遺跡Ⅱ』
第54集 『市内遺跡発掘調査報告書1995』
第55集 『番屋前遺跡Ⅰ・Ⅱ』
第56集 『聖原遺跡Ⅹ』
第57集 『高師町遺跡Ⅱ』
第58集 『下六虫遺跡Ⅰ』
第59集 『市内遺跡発掘調査報告書1996』
第60集 『曾根城遺跡Ⅱ』
第61集 『割地遺跡』
第62集 『野馬久保遺跡Ⅱ』
第63集 『西大久保遺跡Ⅲ』
第64集 『梨の木遺跡Ⅳ』
第65集 『中宿遺跡』
第66集 『中西ノ久保遺跡Ⅱ 仲田遺跡 寺畑遺跡Ⅱ』
第67集 『供養塚遺跡』
第68集 『前藤部遺跡』
第69集 『高山遺跡Ⅰ・Ⅱ』
第70集 『観音堂遺跡』
第71集 『市内遺跡発掘調査報告書1997』
第72集 『市道遺跡Ⅱ』
第73集 『西一本柳Ⅲ・Ⅳ』
第74集 『五里田遺跡』
第75集 『八風山・五斗代』
第76集 『南近津遺跡』
第77集 『番屋前遺跡Ⅲ』
第78集 『蛇塚遺跡・蛇塚古墳』
第79集 『四つ塚遺跡Ⅰ』
第80集 『四つ塚遺跡Ⅱ』
第81集 『薬師寺遺跡』
第82集 『市内遺跡発掘調査報告書1998』

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第83集

長土呂遺跡群 下聖端遺跡Ⅳ

—長野県佐久市長土呂下聖端遺跡Ⅳ発掘調査報告書—

2000年3月

編集・発行 佐久市教育委員会

〒385-8501 長野県佐久市大字中込3056

文化財課

〒385-0006 長野県佐久市大字志賀5953

TEL 0267-68-7321

印刷所 株式会社 中信社
